

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 方言談話資料（10）：場面設定の対話

その2 青森・群馬・千葉・新潟・長野・静岡・愛知  
・福井・奈良・鳥取・島根・愛媛・高知・長崎・沖  
縄

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002279">https://doi.org/10.15084/00002279</a>

# 方言談話資料(10)

—場面設定の対話 その2—

青森・群馬・千葉・新潟・長野  
静岡・愛知・福井・奈良・鳥取  
島根・愛媛・高知・長崎・沖縄

国立国語研究所資料集 10-10

國立國語研究所

1987

# 方言談話資料(10)

一場面設定の対話その2—

青森・群馬・千葉・新潟・長野  
静岡・愛知・福井・奈良・鳥取  
島根・愛媛・高知・長崎・沖縄

國立國語研究所



## 刊 行 の こ と ば

国立国語研究所では、昭和49年度から同51年度にかけて、「『各地方言資料の収集および文字化』のための研究」という題目の下に、全国各地で方言による談話の録音と、その文字化（標準語訳・注つき）を行ってきました。この研究は、急速に失われつつある方言を現時点で録音・文字化し、国語研究の基本的資料とすることを目的としており、当研究所地方研究員の協力を得てこれを実施しました。

その結果は、昭和61年度までに、『方言談話資料(1)』～『方言談話資料(9)』として刊行しました。本年度は、場面設定の対話の第二集として、本書を刊行します。

本書に収めた資料の録音・文字化は、鳥取県については、当研究所言語変化研究部第一研究室所属（収録当時）の飯豊毅一・佐藤亮一・真田信治・沢木幹栄・白沢宏枝が担当し、その他の各県については、当研究所地方研究員（収録当時）・同協力者の愛宕八郎康隆、上野勇、江端義夫、加藤和夫、加藤信昭、剣持隼一郎、後藤和彦、佐々木隆次、佐藤茂、杉村孝夫、杉山正世、土居重俊、中松竹雄、日野資純、広戸惇、馬瀬良雄、山口幸洋の各氏に担当していただきました。また、話者として、別記の70名の方々の協力を得たほか、有志の助力がありました。記して深く感謝の意を表します。

昭和62年 6月

国立国語研究所長 野元菊雄

## 方言談話資料作成のための担当者

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

飯 豊 毅 一（現在、昭和女子大学教授） 德 川 宗 賢（現在、大阪大学教授）  
佐 藤 亮 一（室長） 真 田 信 治（現在、大阪大学助教授）  
沢 木 幹 栄（主任研究官） 白 沢 宏 枝（研究員）

国立国語研究所地方研究員（五十音順）

秋 山 正 次	愛 宿 八 郎 康 隆	五 十 巖 三 郎	井 上 章	井 上 史 雄
今 石 元 久	岩 井 隆 盛	上 野 勇	遠 藤 潤 一	大 島 一 郎
大 橋 勝 男	岡 野 信 子	奥 村 三 雄	寛 大 城	加 治 工 真 市
加 藤 信 昭	加 藤 正 信	金 沢 直 人	川 本 栄 一 郎	神 部 宏 泰
剣 持 隼 一 郎	後 藤 和 彦	小 松 代 融 一	斎 藤 義 七 郎	迫 野 虔 德
佐 々 木 隆 次	佐 藤 茂	佐 藤 虎 男	清 水 茂 夫	杉 山 正 世
田 尻 英 三	種 友 明	玉 井 節 子	近 石 泰 秋	土 居 重 俊
日 高 貢 一 郎	日 野 資 純	広 戸 慎	廣 濱 文 雄	北 条 忠 雄
本 堂 寛	馬 瀬 良 雄	松 本 宙	三 浦 芳 夫	虫 明 吉 治 郎
村 内 英 一	室 山 敏 昭	谷 開 石 雄	矢 作 春 樹	山 口 幸 洋
山 本 俊 治	和 田 實			

## 『方言談話資料』(10) 編集担当者

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

飛 田 良 文（部長） 佐 藤 亮 一（室長） 沢 木 幹 栄（主任研究官）  
小 林 隆（研究員） 白 沢 宏 枝（同）

## 収録・文字化担当者及び協力者

担当 地域	氏 名	現在の勤務先
青 森	佐々木隆次	(県立青森北高等学校教諭)
群 馬	上野 勇 (故人)	
	杉村 孝夫	(同協力者, 福岡教育大学助教授)
千 葉	加藤 信昭	(千葉大学教育学部教授)
新 潟	剣持隼一郎	
長 野	馬瀬 良雄	(信州大学人文学部教授)
静 岡	日野 資純	(静岡大学人文学部教授)
愛 知	山口 幸洋	
福 井	佐藤 茂	(福井大学名誉教授・ノートルダム清心女子大学教授)
	加藤 和夫	(同協力者, 和洋女子短期大学講師)
奈 良	後藤 和彦	(大妻女子大学教授)
鳥 取	飯豊毅一・佐藤亮一・真田信治・沢木幹栄・白沢宏枝	
	(所属については4頁参照)	
島 根	広戸 悅	(島根大学名誉教授)
愛 媛	杉山 正世 (故人)	
	江端 義夫	(同協力者, 広島大学教育学部助教授)
高 知	土居 重俊	(高知学園短期大学講師)
長 崎	愛宕八郎康隆	(長崎大学教育学部教授)
沖 繩	中松 竹雄	(琉球大学教育学部教授)

## 話 者

青森県 桜田鉄弥・八木沢千代三郎・棟方トミ・坂本チヲ  
群馬県 井上嘉十・小林弥太郎・小林よ志ゑ・井上トリ  
千葉県 武田松雄・鈴木ぎん・網仲きん・西藤徳蔵・森留吉  
新潟県 高橋真・高橋辰男・高橋初枝・高橋チュノ・高橋ミサノ・高橋武義・高橋森一  
長野県 尾沢国蔵・井沢賢一・清水ちま・寺沢直江  
静岡県 佐藤吉平・山本俊男・佐藤とし・後藤百々代  
愛知県 鈴木清光・鈴木英雄・小林ハルコ・堤ふじよ  
福井県 谷口松樹・道端初江・下出寅義・加藤よ志子  
奈良県 東正弘・泉谷正彦・後木弘・上垣セキ・後木美智恵  
鳥取県 衣笠光寿・土井頼重・衣笠トラ・衣笠寿賀  
島根県 戸屋英明・吉川幸吉・勝部定市・野原フジエ・戸屋マサヨ  
愛媛県 村上寿一・山岡寅夫・阿部ヒロミ・阿部チヨエ・馬越コクニ  
高知県 山崎貢・山崎春井・田島正実・森田多賀恵・窪添久子・窪添紺恵  
長崎県 平尾忠太郎・山崎キメ・竹島マシ・溝口誠治・山崎政右衛門  
沖縄県 真栄平房敬・尚 詮・高宮城恵子・知名茂子

## 収録地點

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 1 青森県青森市大字牛館        | 12 愛媛県越智郡伯方町木浦   |
| 2 群馬県利根郡利根村大字追貝     | 13 高知県南国市岡豊町滝本   |
| 3 千葉県館山市相浜          | 14 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷 |
| 4 新潟県柏崎市大字折居字餅糧     | 15 沖縄県那覇市首里      |
| 5 長野県上伊那郡中川村南向      |                  |
| 6 静岡県静岡市南字中村        |                  |
| 7 愛知県北設楽郡富山村中の甲     |                  |
| 8 福井県武生市下中津原町       |                  |
| 9 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内 |                  |
| 10 鳥取県八頭郡郡家町        |                  |
| 11 島根県仁多郡横田町大字大馬木   |                  |

## 目 次

刊行のことば ..... 3

方言談話資料作成のための担当者 ..... 4

「方言談話資料」(10) 編集担当者 ..... 4

収録文字化担当者及び協力者 ..... 5

話者 ..... 6

収録地点 ..... 6

まえがき ..... 9

場面設定の対話について ..... 12

収録内容について ..... 15

凡例 ..... 26

### 場面(5) 隣家の主人の所在をたずねる

1. 青森県 ..... 29 (詳しい地点名は 6 頁を参照。以下同じ)	8. 福井県 ..... 51
2. 群馬県 ..... 32	9. 奈良県 ..... 55
3. 千葉県 ..... 37	10. 鳥取県 ..... 57
4. 新潟県 ..... 39	11. 島根県 ..... 61
5. 長野県 ..... 43	12. 愛媛県 ..... 64
6. 静岡県 ..... 47	13. 高知県 ..... 67
7. 愛知県 ..... 50	14. 長崎県 ..... 70

### 場面(6) 道で知人に会う

1. 青森県 ..... 75	8. 福井県 ..... 109
2. 群馬県 ..... 79	9. 奈良県 ..... 113
3. 千葉県 ..... 87	10. 鳥取県 ..... 115
4. 新潟県 ..... 91	11. 島根県 ..... 120
5. 長野県 ..... 98	12. 愛媛県 ..... 123
6. 静岡県 ..... 101	13. 高知県 ..... 126
7. 愛知県 ..... 104	14. 長崎県 ..... 130

### 場面(7) 道で目上の知人に会う

1. 青森県	137	8. 福井県	166
2. 群馬県	143	9. 奈良県	172
3. 千葉県	147	10. 鳥取県	177
4. 新潟県	151	11. 島根県	181
5. 長野県	157	12. 愛媛県	185
6. 静岡県	161	13. 高知県	188
7. 愛知県	164	14. 長崎県	193

### 場面(8) うわさ話をする

1. 青森県	199	8. 福井県	221
2. 群馬県	205	9. 奈良県	226
3. 千葉県	208	10. 鳥取県	230
4. 新潟県	210	11. 島根県	237
5. 長野県	213	12. 愛媛県	241
6. 静岡県	216	13. 高知県	243
7. 愛知県	219	14. 長崎県	247

沖縄県那覇市首里 ..... 251

( 1 ~ 4 は『方言談話資料』(9)に収録 )

5. あいさつ	255
6. 子供の日の玩具市で	257
7. 結婚のうわさ話	259

# まえがき

## 研究の経過

この研究は、昭和49年度から同51年度にかけて行った。

昭和49年度は準備期間とし、全国47都道府県で各種の実験的録音・文字化を行い、その結果に基づいて、次年度以降の計画を立案した。

50年度は、全国的視野のもとに重点地域を定め、23の府県から各1地点を選定して、老年層の男性と同女性との対話、もしくは、男女を含む老年層話者3人の会話を録音し、文字化することとした。

51年度は収録地点を4地点減らし、19の府県について、原則として50年度と同一の地点で(a)目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話、(b)老年層の男性と若年層の男性との対話、もしくは、両者を含む3人の話者の会話、(c)場面設定の対話、の3項目についての録音・文字化を行い、収録可能な地域では、付録として、民話の収録・文字化も実施することとした。(c)については、「品物を借りる」「旅行に誘う」「けんかをする」「新築の祝いを述べる」「隣家の主人の所在をたずねる」「道で知人に会う」「道で目上の知人に会う」「うわさ話をする」の八場面を、全地点共通の場面として設定した。

以上の録音・文字化資料は、すべて国立国語研究所で整理し、保管しているが、当研究所では、このうち、50年度分についてはすべて刊行した。本巻は51年度分のうち4巻目にあたる。今回は51年度に収録した場面設定の対話の後半を複製印行する。このうち、沖縄を除く14地点分については八場面のうちの四場面を場面ごとにまとめて掲載したが、沖縄県那覇市首里の分は場面設定が他の地点と異なるため、この地点で収録した七場面のうち残りの三場面を巻末にのせることにした。

## 話者の条件

話者には次の条件の人を選ぶこととした。

### 1. 老年層話者による談話（50年度）

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が比較的短い人で、日常の生活ではもっぱら方言を用い、また、録音機を前にもしても方言色豊かなおしゃべりが可能な人。したがって、よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が得られないときには、近隣地から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言の違いが認められない場合は可とする。話者の年齢は、原則として収録時において60歳以上とし、やむをえないときは、55歳以上も可とする。発音その他の障害がなければ、高齢者でも差し支えないが、話者相互の年齢が離れすぎるのは好ましくない。また、話者相互の地位・身分関係も、ほぼ対等であることを原則とする。

## 2. 目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話（51年度）

話者の年齢は上記1に準ずる。この項は、改まった表現や種々の敬語形式などを得ることをねらって設定したものであり、対話の具体的な人物像として、たとえば、旧地主階層の人物対旧小作階層の人物、僧侶対その壇家にあたる人物、その土地出身の教員（校長など）対その土地の一般的職業（農業・漁業など）に従事している人物などを候補として示したが、地域の事情もあると思われるので、この点は各地の担当者（地方研究員）に一任した。なお、目上にあたる人物として、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあると考えられるので、在外歴に厳しい条件はつけないことにした。

## 3. 老年層男性と若年層男性との談話（51年度）

老年層については原則として60歳以上、若年層については原則として20～30歳台とする。話者相互の地位・身分関係は、ほぼ対等であることが望ましい。職業は老若ともにその土地における一般的なものであること。在外歴については1に準ずる。

## 4. 場面設定の対話（51年度）

上記1に準ずる条件を備えた老年層の男女に、場面に応じて、種々の演技的対話をしてもらった。

## 5. 民話

特に条件はつけず、その土地で生まれ育った民話の語り手があれば可とした。

### 司会者

主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が同席することとした。司会者はこの研究の主旨を理解し、かつ、司会役としての能力を有する地元方言の話し手が望ましい。司会者の年齢・居住歴等に、特に条件はつけなかった。

### 録音量・文字化量

50年度・51年度ともに各約60分程度の録音量（51年度については、各項目平均20分、合計60分程度）について文字化を行うこととした。また、内容の豊かな文字化資料を得るために、文字化すべき録音量の数倍を録音し、その中から適切な部分（話がとぎれず、しかも発言が特定の話者にかたよっていないこと。話の流れ、話題の展開が自然であること、など）を選択して文字化することとした。

### 文字化原稿の作成・表記

1. 将来のオフセットによる複製印行に備えて、一定の様式の文字化用紙を作成し、担当地方研究員に配布した。
2. 文字化は原則として表音的カタカナ表記によることとした。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮したことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記も可とした。なお、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲・内容については、各担当者が「解説」の中で説明することとした。

3. アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含めて担当者の判断にまかせた。
  4. 聴き取りが困難な箇所や、言いよどみ、言い重なり、言い直し、笑い声などについては、これらを一定の符号で表わすことにした（凡例参照）。
- 文字化には、標準語訳、および、場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注をつけることとした。なお、標準語訳はあくまでも内容理解のための手がかりの一つと考え、訳が問題となるような箇所については、できるだけ詳しい注をつけることを担当者に求めた。
5. 文字化原稿とは別に、収録方言・表記・収録内容についての解説を担当者に求めた。本書ではそれを【収録内容について】(15頁～24頁)として記載した。

## 【場面設定の対話について】

場面設定の対話は全部で八場面である。

- (1) 品物を借りる
- (2) 旅行に誘う
- (3) けんかをする
- (4) 新築の祝いを述べる
- (5) 隣家の主人の所在をたずねる
- (6) 道で知人に会う
- (7) 道で目上の知人に会う
- (8) うわさ話をする

今回はそのうちの(5)～(8)までの四場面を収録した。場面設定の対話は演技的な対話であり、一定のあらすじに従ったものである点が今までに収録した文字化資料と異なる。

このような録音を企画した理由、また、設定の内容は、以下にあげる昭和51年度の地方研究員への依頼文書の通りである。

### 1. 目的と方法

これは自然会話の録音では得にくい各種の表現を得ることを目的として、ある場面を設定してインフォーマントに「演技的対話」をしてもらうものである。ただし表現といつても「ありがとう」「こんにちは」のような慣用的な言い回しや、「飲め」のような動詞の命令形、また「～してほしい」のような文法形式の複合したもの、さらに、物を頼む時にいきなり本題に入るかどうか、人の家に上がる時あいさつをするかどうか、などの点についても広い意味の表現を考えたい。こうした表現を、なるべく自然に近い形で得るために、標準語テキストの方言訳という形式を避け、場面についてある程度のわくを設定するにとどめた。

それぞれの場面の説明は、a. 題名 b. 登場人物 c. ねらいと場面  
d. あらすじ に分けて行う。

### b. 「登場人物」

世代・性についての指定は厳守していただきたい。ただし、隣人などとあるのは単なる設定なので、演技力のあるインフォーマントであれば、実際の間柄が違っていてもかまわない。また出演者は場面によって変更しても

よいし、複数場面を同一の出演者で通しても差し支えない。

c. 「ねらいと場面」

これは将来各地の表現を比較する時の鍵となるべきものである。インフォーマントに対話をやってもらう時も「ねらい」に合致した表現が得られない場合には、インフォーマントに暗示を与えるなりして、それが出るように配慮していただきたい。

なお、朝・昼など、時刻を指定したものについてもこれに従ってほしい。

d. 「あらすじ」

これは参考までに作ってみたものであり、これにとらわれる必要はない。

## 2. 場面の説明

- (5) a. 隣家の主人の所在をたずねる。  
b. 老年層の男子Aと老年層の女子B。Bの夫とAは親しい友人。  
c. 「どこに行ったのか」「～に行ったのだろう」「～には行かないだろう」「～筈だ」など疑問推量表現を得ることがねらい。  
AはBの家に朝やって来て主人の所在を聞く。  
d. ①朝、男Aが友人の家を訪ね、その妻Bに友人はいるかとたずねる。  
②妻Bは大声で夫を呼ぶが返事がない。  
③Bは夫がどこへ行ったのか自問自答しつつ、客にしばらく待ってくれるように言う。  
④夫の所在について客と妻との間であれこれの推測をめぐらす。  
⑤客は辞去する。妻はわびのことばを述べて送る。
- (6) a. 道で知人に会う。  
b. 老年層の女子A、B。この2人は普段、ある程度のつき合いがあるが、親しすぎるほどではない。  
c. ごく日常的な会話のスタイルを得るのがねらい。話題は家族のこと、物価のことなど何でもよい。AとBは日中に道ではったり顔を合わせる。  
d. ①A、Bが道で会って、あいさつをする。  
②家族の近況についての会話がひとしきり続く。  
③A、Bわかれる。わかれる時のあいさつ。

- (7) a. 道で目上の知人に会う。
- b. 目上・目下の関係にある老年層の男子A,B(AがBより目上とする)。
- c. 「どちらにいらっしゃるのですか」などの尊敬語や丁寧語を知るのがねらい。
- d. ①道でA,Bが会う。まずあいさつ。  
②BがAにどこへ行くのかを聞く。  
③Aはそれに答え、更に今度はBの息子の様子をたずねる。  
④Bの息子についての会話がひとしきり続く。  
⑤A,Bはわかれる。わかれのあいさつ。
- (8) a. (例えは宝くじに当たった)うわさ話をする。
- b. 老年層の男子A,B。AとBは互いに親しい間柄。
- c. 興奮した雰囲気の中での「～したそうだ」「あの～がねえ」「たいしたもの」などにあたる伝聞・詠嘆表現を得るのがねらい。  
話題は宝くじでなくとも近所の人が関係している大ニュースなら何でもよい。例えば三つ子を生んだとか、交通事故とか、村長選挙の際の選挙違反で誰かがつかまったとかなど。
- d. 宝くじを話題にしたときの例。  
①Aが突然Bの家にかけつける。  
②Bはおどろいて何があったのかとAにたずねる。  
③Aは近所の家に宝くじに当たったものがいることを知らせる。  
④Bもおどろいて当選の真偽、当選額などについてAとやりとり。  
⑤当選者の幸運をうらやんで2人で嘆息。

## 【収録内容について】

収録内容については、原則として次の事項を挙げることにする。

1. 地点名 [収録・文字化担当者 <同協力者>]
2. 録音年月日
3. 録音場所
4. 話し手の氏名・性・生年・職歴・居住歴・言語的特徴など
5. 録音環境(同席者・話の進行状況・場の雰囲気など)
6. その他

以下、各地点の収録内容について記す。

- 1 - 1. 青森県青森市大字牛館 [佐々木隆次]
2. 昭和54年5月7日
  3. 青森市大字牛館字松枝 桜田敏光氏宅
  - 4.\*桜田鉄弥（男）明治36年生まれ 農業 この収録地点に生育し、まだ一度も他所に居住した事がない。ほんの少し耳が遠くなったらしく補聴器をつけていたが、言語・動作共に常人と何ら変わりない。古いことば・発音を有している人はこの人が唯一である。  
\*八木沢千代三郎（男）明治43年生まれ 農業のかたわら地元郵便局に大正14年～昭和37年まで勤務。昭和20年に約3か月間、横須賀市海兵団に勤務。この3か月間以外は他所に居住した事はない。
  - \*棟方トミ（女）大正2年生まれ 農業 18歳の時、この地点から5km西方の「細越（現在は青森市内）」から嫁入りし、以後この地に居住。
  - \*坂本チヲ（女）明治41年生まれ 農業 26歳の時、青森県南部浪岡町から嫁入り。文末部の表現が少しこの地と異なる点もあるようだ。
  5. 収録開始後に急に降雨があり、二階屋根に落ちる雨だれの音が部分的にかなり強く収録されている。同席者は佐々木隆次（司会者）、高山治氏（録音担当）。
  6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料（3）、（7）』を参照。
- 2 - 1. 群馬県利根郡利根村大字追貝 [上野 勇 <杉村孝夫>]
2. 昭和51年8月21日
  3. 利根村大字追貝 小林弥太郎氏宅
  - 4.\*井上嘉十（男）明治35年生まれ 東村（現利根村）役場勤務20年、追

貝土地改良委員10年。仕事の関係で新治村で3年、片品村根羽沢で8年、利根鉱山で2年ほど生活した。

\*小林弥太郎（男）明治40年生まれ 農業、神主 追員以外の土地で居住した事はない。方言をよく保有している。

\*小林よ志ゑ（女）明治40年生まれ 農業 24歳のとき旧東村大字千鳥から追員に嫁す（小林弥太郎氏の妻）。方言をよく保有している。

\*井上トリ（女）明治43年生まれ 農業 18歳のとき旧東村大字高戸谷から旧東村大字平川に嫁す。

5. なごやかなうちに収録が行われた。あらかじめ話題について打ち合わせを行った後、収録に入っている。

6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料（1）』を参照。

### 3-1. 千葉県館山市相浜 [加藤信昭]

2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」  
「道で知人に会う」 } 昭和51年11月23日

場面「道で目上の知人に会う」 昭和52年1月12日

場面「うわさ話をする」 昭和51年11月28日

3. 館山市相浜 武田由蔵氏宅

4.\*武田松雄（男）大正6年生まれ 漁業 漁船にて各地をまわったが他所での定住はない。

\*鈴木ぎん（女）明治37年生まれ 無職 他所に居住した事はない。

\*網仲きん（女）明治30年生まれ

\*西藤徳蔵（男）明治37年生まれ 漁業 漁船にて各地をまわったが他所での定住はない。

\*森 留吉（男）大正11年生まれ 漁業 漁船にて各地をまわったが他所での定住はない。予定していた人が都合がわるくなり、そこに居合わせた森氏に急遽お願いした。多少アルコールが入っているらしく、そのため早口になってしまふところもあったが、大変な話好きで話題のあらましを話すと武田氏と共にただちに話し合いをされ、短時間で収録が完了した。

5. 初めての事なので多少のとまどいが感じられ、条件を理解しても、なお不安な表情の人達もいたが、次第に収録の雰囲気になれ、堅さもとれてきた。同席者は武田金市郎氏（昭和11年まれ、教職員）。

6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資

料(5),(7)』を参照。

- 4-1. 新潟県柏崎市大字餅糧 [剣持隼一郎]
2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 昭和51年7月27日  
    場面「道で知人に会う」、「道で目上の知人に会う」 昭和51年8月17日  
    場面「うわさ話をする」 昭和51年7月26日
3. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」、「うわさ話をする」高橋真氏宅  
    場面「道で知人にあう」 高橋チユノ氏宅  
    場面「道で目上の知人に会う」 高橋武義氏宅
- 4.\*高橋 真（男） 大正7年生まれ 農業 餅糧に生まれ現在までそこに居住。ただし昭和14年から6年間、兵役のため東京都および外国で過ごした。元気に大声で話す。頭の回転が早く、話のテンポも早く、ことばに飛躍があり、早口で聞きとりにくいこともあるが、俚語も保有し、また対話をリードしていく。  
\*高橋辰男（男） 大正9年生まれ 青年学校修了後農業のかたわら冬期間出稼ぎすること5年間、その後柏崎旧市内の養鶏場の労働に10年間従事し、その後現在まで柏崎旧市内の工務店に作業員として労働している。餅糧に生まれ育って現在に至るが、その間兵役のため中國等に5年、冬期のみ出稼ぎのため5年間関東方面に出かけた。歯もかけて居ず、元気に力強く話し、ことばは明瞭でとくに特徴はない。  
\*高橋初枝（女） 大正2年生まれ 農家の主婦 餅糧に生育し高等学校1年修了後女工として出稼ぎし、前橋市に6年、京都市に4年居住の後帰郷し、農業に従事した。母は中頸城郡に最も近い市野新田生ままで、餅糧に嫁いで来た高橋サヨ氏で、昔話のよき伝承者であり、話者はその長女で家をついだ。高橋真氏の言によればこの家庭はことばづかいが丁寧であるという。敬語の使用が多いことを言っているようである。  
\*高橋チユノ（女） 明治34年生まれ 農家の主婦 隣の大字女谷（字）下野に生まれ、餅糧の母の生家に嫁いで来た。14歳の時東京に3箇月女中奉公した以外によその地での居住歴はない。話し好きで静かに情緒的に具体的に話す。古い方言を保有している。記憶も確かで、昔話のすぐれた伝承者である。父も教養のある人で田舎に珍しく漢籍を読んだ人であるという。  
\*高橋ミサノ（女） 明治39年生まれ 農家の主婦 生家は餅糧と同一大字の（字）北向。他の居住歴はない。上下の前歯が抜けていたが発

音はほとんど異常はない。この地方の代表的な昔話伝承者で、多数の話を保存しその語り調子は生き生きとして、内容も整っていると評されている。方言保有度も高い。

\*高橋武義（男） 明治45年生まれ 会社員9年後農業を営みつつ村・市の議會議員等をつとめる。村会議員4年、柏崎市市会議員5年半、その他教育委員等の公職もつとめた。現在も市会議員である。現住地（録音場所に同じ）に生育し、柏崎農業学校に3年通学後、群馬県立蚕糸学校に入学し、群馬県に3年。その後京都市に1年、埼玉県に6年、四国地方に2年、計12年間32歳まで他県に居住した上帰郷し現在に及ぶ。学歴・経歴・教養・職業等の関係から、ことばは共通語化しているが、[kwa][gwa]才列長音の開合の別を保有し、イとエの混同も時々あらわれる。元気よく明快に話し、話をリードする。剣道をたしなみ俳句も作り集落の中の旧家に属し、市の政界でも活動しているので調査地では高い階層に属し、尊敬されている。

\*高橋森一（男） 明治38年生まれ こびき職 24年間冬季間だけ数か月間、群馬県などの関東地方に出稼ぎしたことはあるが、ずっと現住地に居住。老人で前下歯が3枚欠けているため間々発音が不明瞭となることもあるが、元気に話す。「ニガツ」（二月）「ホンガンジ」（本願寺）などの発音、理由をあらわす助詞「カラ」の使用など共通語化とみることもできる。

5. 柱時計の鳴る音が入ったところもあったが、いずれも同席者もなく静かな中で録音できた。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(3),(7)』を参照。

- 5-1. 長野県上伊那郡中川村南向 [馬瀬良雄]
  2. 昭和51年12月11日
  3. 中川村大草中川村福祉センター
4. \*尾沢国蔵（男） 明治31年生まれ 農業 下平集落生育  
\*井沢賢一（男） 明治32年生まれ 農業 下平集落生育  
\*清水ちま（女） 明治37年生まれ 農業 下平集落生育  
\*寺沢直江（女） 大正3年生まれ 農業 鹿養集落生育
5. 録音中に、時に車のエンジンの音が入るなどることはあったが、録音環境はほぼ良好であった。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資

料(7)』を参照。

本調査には、信州大学人文学部学生徳本智恵美・細江厚子が同行し、録音操作にあたり、また、文字化作業で協力した。また、文字化作業と清書で馬瀬則子の協力を得た。

この調査では、話し手の紹介をはじめとして万端にわたって、中川村教育長(調査当時)湯沢俊氏の御協力を得た。また、中川村南向出身の清水悟郎氏(信州大学名誉教授)に録音テープを聞きつつ、原稿を見ていただき、最終的補訂を行った。

6-1. 静岡市南字中村 [日野資純]

2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 昭和51年10月20日  
「道で知人に会う」

場面「道で目上の知人に会う」、「うわさ話をする」 昭和51年8月16日

3. 静岡市字南中村 山本俊男氏宅

- 4.\*佐藤吉平(男) 大正5年生まれ 農業 他所へ出でていない。

\*山本俊男(男) 明治44年生まれ 農業 昭和6年(満20歳)~7年兵役(浜松航空隊)。昭和16年(満30歳)~17年南方方面出征(台湾・フィリピン・ミンダナオ島)。純度の高い方言の話し手。

\*佐藤とし(女) 大正4年生まれ 農業 他所へ出でていない。おっとりした口のきき方である。

\*後藤百々代(女) 大正2年生まれ 農業 他所へ出でない。やや早口だが頭の回転はよい。

5. 話し手の方々以外に同席者はいない。

6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(5)』を参照。

7-1. 愛知県北設楽郡富山村中の甲 [山口幸洋]

2. 昭和51年9月3日

3. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 小林ハルコ氏宅  
「道で知人に会う」

場面「道で目上の知人に会う」、「うわさ話をする」 鈴木英雄氏宅

4.\*鈴木清光(男) 明治27年生まれ 農林業 大正3年~5年まで兵役のため中の甲以外に居住した。

\*鈴木英雄(男) 明治34年生まれ 農林業 他所へ出でない。

\*小林ハルコ(女) 明治41年生まれ 他所へ出でない。

\*堤ふじよ（女） 明治39年生まれ 農業 他所へ出ていない。

5. 話し手の方々は非常に協力的であった。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(3)』を参照。

8-1. 福井県武生市下中津原町 [佐藤 茂 <加藤和夫>]

2. 昭和51年11月14日

3. 武生市下中津原町 加藤和夫氏宅の座敷

4.\*谷口松樹（男） 明治32年生まれ 農林業 外住歴としてまとまつたものはないが、若い頃から冬期間だけの杜氏（京都方面）の経験がある。方言はよく保有している。話し好きで話題も豊富。抜群の演技力の持ち主である。「ナンジャー」「アノ」「マー」「オメ」などの挿入句が口ぐせのようで頻繁に用いられる。

\*道端初江（女） 大正11年生まれ 農業 下中津原生まれの下中津原育ち。外住歴はない。獨得の語末のゆすりイントネーションもよく残っている。

\*下出寅義（男） 明治36年生まれ 農業 20年近い海軍現役兵としての外住歴をもつが、言語的には特にその影響は認められないようである。

\*加藤よ志子（女） 大正10年生まれ 農業 外住歴はない。やゝ共通語化が目立つ。あるいは緊張していたせいかとも思われる。

5. 担当者佐藤茂、協力者加藤和夫、そして女子学生3名が同席した。しかし、女子学生3名は話し手を緊張させないよう、もっぱら隣室に控えている。話し手の方達は慣れるにしたがって会話も自然な調子で順調に進む。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(4)』を参照。

9-1. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内 [後藤和彦]

4.\*東 正弘（男） 明治42年生まれ

\*泉谷正彦（男） 明治35年生まれ 農業

\*後木 弘（男） 大正11年生まれ 農業

\*上垣セキ（女） 明治34年生まれ

\*後木美智恵（女） 大正元年生まれ

6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(2)』を参照。

- 10-1. 島取県八頭郡郡家町 [飯豊毅一・佐藤亮一 他3名]
2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 昭和51年7月5日  
「道で知人に会う」
- 場面「道で目上の知人に会う」、「うわさ話をする」 昭和51年7月7日
3. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 郡家町下津黒・郡家町農協  
「道で知人に会う」 中私都支所の二階
- 場面「道で目上の知人に会う」、「うわさ話をする」 衣笠光寿氏宅
4. \*衣笠光寿 (男) 明治38年生まれ 農業 上津黒集落生育  
\*土井頼重 (男) 明治30年生まれ 農業 別府集落生育  
\*衣笠トラ (女) 明治34年生まれ 農業 上津黒集落生育  
\*衣笠寿賀 (女) 明治33年生まれ 農業 上津黒集落生育
5. 郡家町農協中私都支所の二階は木造の建築で30畳敷き程度の和室。  
暑い日だったので窓を開けていたが、一方が道路に面しており、反対側が中私都小学校であったので、車の音や子供の遊び声が少し入ってしまった。同席者は郡家町教育委員会の衣笠日出男氏と丸山勉氏。  
衣笠光寿氏宅の応接間は新築の八畳ほどの洋間で、外からの騒音はあまりなかったが、比較的反響の多い空間だった。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(6)』を参照。
- ここに収録したものは、飯豊毅一、佐藤亮一、真田信治、沢木幹栄、白沢宏枝が録音作業を行い、文字化・注は、主として佐藤亮一と白沢宏枝が行った。なお、収録に当って、郡家町教育委員会次長(当時)衣笠日出男氏ほか、現地の方々のお世話をになった。また、文字化に当って、上記衣笠氏、ならびに、島根県東京事務所主任佐々木明恵氏の御協力を得た。

- 11-1. 島根県仁多郡横田町大字大馬木 [広戸 悅]
2. 昭和51年8月6日
3. 横田町馬木幼稚園
4. \*戸屋英明 (男) 明治36年生まれ 農業 高等小学校、農学校1年、同補習科1年卒業。2か年東京近衛兵として兵役を終える。そのためか、時折標準語が飛び出す。「モンダケン」というべきところを「モノダ

カラ」、「ナッタドモ」というべきを「ナッタケレドモ」など。話し上手。

\*吉川幸吉（男） 明治35年生まれ 大工、副業に農業 高等小学校卒業。

\*勝部定市（男） 明治37年生まれ 農業 高等小学校、農学校1年卒業。

\*野原フジエ（女） 大正6年生まれ 農業 高等小学校、補習科2年卒業。

\*戸屋マサヨ（女） 大正4年生まれ 主婦 高等小学校、補習科1年卒業。

5. 世話役の杉原清一氏(県文化財保護指導員=横田町担当)の協力を得た。蟬の声がしきりにないので、夏ではあったが蟬の声のする方の窓をしめ、他の側は水田に面して、時折鳥追いのガスで音を出す機械の音が聞こえるので止めてもらった。同席者は杉原清一、田中螢一(島根大学助教授)、小川昭男(馬木小学校教諭)。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(4),(8)』を参照。

1 2 - 1. 愛媛県越智郡伯方町木浦 [杉山正世 <江端義夫>]

2. 昭和52年11月1日

3. 伯方町立 老人の家

4.\*村上寿一（男） 明治30年生まれ 無職 居住地の木浦以外に住んだ経験はない。旅行の目的で、しばしば島外へ出ることがある。生地方言の特色は失っていない。現在、伯方町の老人会連合会の会長をつとめる。

\*山岡寅夫（男） 明治42年生まれ 菊づくり農業 両親ともに木浦生まれである。木浦に生まれ木浦に育った。誠実で穏健な話し方である。土地ことばが、巧まずして流露する。

\*阿部ヒロミ（女） 明治38年生まれ 無職 木浦生まれ木浦育ち。純粋な土地ことばの話し手である。明朗で、親切心に富む。いま、木浦より1km北隣の瀬戸浜部落に住む。

\*阿部チヨエ（女） 明治37年生まれ 無職 木浦に生まれ木浦に育ち、木浦に嫁いだ人。父母も木浦の生まれ。ごく自然に、温かみのある木浦ことばが流露する。

\*馬越コクニ（女） 明治38年生まれ 農業 純粋の木浦っこである。明確な発音で、自己の土地ことばを確かめるごとく語る。時折、古態

の言い方があらわれる。

5. 場席は真剣さと信頼感とで貫かれて、収録時は静穏な雰囲気であった。話し手の発言がかさなって聞きとりの困難な部分もあるが、録音情況はおおむね良好。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(6)』を参照。

13-1. 高知県南国市岡豊町滝本 [土居重俊]

2. 昭和51年10月27日

3. 南国市岡豊町滝本 田島正実氏宅

4. \*山崎 貢（男） 大正10年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。

\*山崎春井（男） 明治35年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。

\*田島正実（男） 明治29年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。

\*森田多賀恵（女） 大正4年生まれ 22歳の時南国市久礼田より岡豊町へ移る。方言保有度やや大。

\*窪添久子（女） 明治34年生まれ 無職 高知市出身。20歳で結婚のため東京移転。約14年間居住後帰高。方言保有度小。

\*窪添紺恵（女） 明治43年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。

5. 録音は良好。

6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(2),(8)』を参照。

14-1. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷 [愛宕八郎康隆]

2. 昭和52年2月13日

3. 琴海町尾戸郷 平尾忠太郎氏宅

4. \*平尾忠太郎（男） 明治31年生まれ 農業 役職歴：小口実行組合長、区長、農業委員、P T A会長、寺総代。外住歴なし。方言保有度かなり高い。

\*山崎キメ（女） 大正2年生まれ 農業 外住歴なし。方言保有度かなり高い。

\*竹島マシ（女） 明治34年生まれ 農業 外住歴なし。方言保有度高

い。

\*溝口誠治（男） 大正4年生まれ 農業 役職歴：町會議員。外住歴なし。方言保有度かなり高い。

\*山崎政右衛門（男） 明治30年生まれ 農業 役職歴：教育委員。外住歴なし。方言保有度かなり高い。

5. 録音場所の平尾氏宅は、落ち着いた雰囲気で静かな環境、良好な環境と言える。同席者は司会者の平尾美和子（学生）と愛宕の2名。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料（2）』を参照。



## 凡 例

1. 場面, 文脈, 特徴的音声, 方言形の意味・用法などについての注は各章の末尾にまとめて記し, 該当箇所を本文のそれぞれの位置に番号(かっこつき)で示した。

2. 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には~~~~~~~~~線をつけた。

例 D アエ ドースペネス <31ページ13段>

3. 最終的に聴き取り不能の箇所には~~~~~~~~~線のみを記した。

4. 言いよどみは, その末尾に-----線をつけた。

5. 複数の発言が重複した場合には, 重複部分に\_\_\_\_\_線をつけた。

例 D ツカゴロ テンキ (Bア一) ツ<sup>ノ</sup>ズガネンデネスア <29ページ5段>

6. 言いかけて, それを言いなおした場合には, 言いかけた部分にxxxxxをつけた。

例 T ダンワ ダンナワ イマ イネンカイ <37ページ5段>  
xxxxxx

7. 笑い声, 咳ばらいなどは, (笑), (咳) のように示した。

8. 同席者の短い発言や突然の訪問者のことばなどは文字化していない場合がある。その際や, 録音テープを編集して談話内容の一部を削除した際には, 該当箇所に\*の符号をつけた。

## 場面(5)

隣家の主人の所在をたずねる



# 1. 青森市大字牛館

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

B 八木沢千代三郎 男 明治43年生まれ

D 坂本 チヲ 女 明治41年生まれ

B オハヨー ゴザエマス。

おはよう ございます。

D ハエ オハヨー ゴザエマス。

はい おはよう ございます。

B ユーンベ アメ フテー ナガナガ キヨーモ テンキ オモワスク  
昨夜(は) 雨(が) 降って なかなか 今日も 天気(が) 思わしく

ネーネスア。

ないねえ。

D ンダキヤ。ツカゴロ テンキ (B アニ) <sup>(1)</sup> ツンズガネンデネスア。  
そうだよね。近頃 天気(が) ああ 続かないでねえ。

B オンズチャ エネベナー。

お爺ちゃん(は) いないだろうなあ。

D アレ オンズチャ一 オンズチャ一 オンズチャ一 ナンダテ  
あれ、お爺ちゃん お爺ちゃん お爺ちゃん なんといっても  
ミンミ トーエドゴデ ソレー。  
耳(が) 遠いから ほら。

B ヤッパリ トス エゲアバ <sup>(2)</sup> ミンナ オンナスタケンドモヨー。  
やっぱり 年(を) とると 皆 同じだけれどもよう。

ユンベナ マンダ アンナ フッタドゴデ ウー ナースロサ  
昨夜(は) また 雨(が) 降ったから。えーと、苗代に  
ミンズ ハエテ ミンズ アマテー ドゴモ アラハデ、ナースロ  
水(が) 入って 水(が) 余っている 所も あるから、苗代  
サ エタガモ スラネナー。  
に いたかも 知らないなあ。

D ナースロサ エッタガサ タンボサ エッタガサスー。(B ウーン)  
苗代へ 行ったかしら 田んぼへ 行ったかしらさ。(うん)  
ウン。ナンデモ キョー マンゴオ ミニ エグテスー、ソー  
うん。なんでも 今日(は) 孫を 見に 行くってさ、そういうぐあい  
ステ シャベテランデサネー。(B アーアーアーアー)  
にして しゃべっていたんですよ。(ああ ああ ああ ああ)

スタケンドモ マンダ ハイアーハンデノー (B ウー) エガネ  
だけれども まだ 早いからのう (うん) 行かない  
ガド モッテラ ケンドモ (B ウーン) タスカ マ ナース  
かと 思っている けれども (うん) 確か 苗代  
ロサ エッタビョン。  
に 行っただろう。

B ウーン。オバチャダラ モー ハー エー エー ゴンボダアンテ  
うーん、お婆ちゃんは もう はあ えーと えーと 牛蒡なんか(の  
マエデ) マッタベスー。  
種を)まいてしまったろうね。

D アー ンナ ゴンボダラ マガネ。ホルニ タエヘンダモ！  
ああ いや 牛蒡は まかない。掘るのに 大変だもの。

- B アーアーア、(D ハー) <sup>(4)</sup> ヘア ナッパエッポ<sup>(5)</sup>ンダナー。  
ああ ああああ はあ じゃ 菜、葉 一方だなあ。
- D ンダ ナッパダバ カンタンダハニデノー。  
そうだ 菜、葉なら 簡単だからう。
- B アーアーアーアー ワダキヤ ナンモ ナッパモ マガネンデヨー。  
ああ ああああ ああ 吾は 全然 菜、葉も まかないでよう。  
シ。 ヘバ ワー アドデ モ エッカエ キテ ミラハンデ。  
じゃ 吾(は) 後で もう 一回 来て みるから。
- モス マゴノ ドゴサ エッテ ネバ ワ マンダ チョット  
もし 孫の 所へ 行って いないなら吾(は) また ちょっと  
キキティ ゴト アルンダハンデ (D ハー) ア一 モ エカエ  
聞きたい こと(が) あるんだから はあ ああ もう 一回  
エー キテ ミラハンデ。  
えーと 来て みるから。
- D アノ 杰工 カエテカラ オズチャバ ヤッテモ エゴセア。  
あの 帰ってから お爺ちゃんを(あなたの家へ)やつてもようござりますよ。
- B エヤエヤ ワー キグ フトダハンデ。エー、オラホガラ キラハ  
いやいや 吾(は) 聞く 人だから。えーと 僕の方から 来るか  
ンデ。  
う。
- D ア ソンデスガ。  
ああ そうですか。
- B ア一。 ドーモ スミマセンデスタ。  
ああ。 どうも すみませんでした。
- D アエ ドースベネス。 カラモンドリサセデー。  
あれ どうしましょうね。 から戾りさせて。

B イヤイヤ。  
いやいや。

### 注

- (1) 話者Dの夫への呼びかけ。
- (2) 当地は「年をとる」ことを「トス エグ」と表現することも多い。
- (3) 孫は他所に住んでいる。
- (4) 「そうすれば」—「そせば [soseba]」—(seba)—[heba]—(hea)
- (5) あるいは「菜、葉一本」の意かもしれないが、いずれにしても「菜  
→葉のみ」である。
- (6) 漢字は「何も」。
- (7) 用を足さないで戻ること。

## 2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

### 話し手

(略号) (氏名)(性) (生年)

A 小林 弥太郎 男 明治40年生まれ

B 井上 ト リ 女 明治43年生まれ

A ハイ オハヨーゴザイマス。

はい、おはようございます。

B ハイ ハヤカッタムシ<sup>(1)</sup>。

はい、早かったねえ。

A ゴクローサン ハヤカッタムシ。ドーシタイ カジューさん イル  
ご苦労さん、早かったねえ。どうしたね 嘉十さんは 居る  
カイ。  
かね。

B アー イマ ソコニ イ<sup>キ</sup> イタダケド。ヨンデ クベーカ。  
ああ、今 そこに 居たけど。呼んで 来ようか。

A ソーダムシ チットッペ<sup>(2)</sup> ヨガ アルカラ (B アー ソーカイ。)  
そうだね、少しばかり 用が 有るから (B ああ、そうかね。)  
ヨンデ モラウカナー。  
呼んで 貰うかなあ。

B ジーサマ ダイカ キタヨーノ。イッコー ヘンジガ ネー。ドー  
爺様、誰か 来たよ。一向 返事が 無い。どう  
シタッペ マー。ジャー マ シトッキリ マタサン<sup>(3)</sup> マッテ ク  
したろう まあ。では ま 一時 弥太さん 待って  
シネーカイ マー。  
れないかね まあ。

A ハイ ハイ ヨーゴザンス。

はい はい ようござんす。

B オイガ<sup>(4)</sup> サガシテ クライ<sup>(5)</sup>。  
私が 捜して くるよ。

A イニヨ タイシタ ヨーデモ ナイカラ イナケリマ マタ …。  
いいよ たいした 用でも 無いから 居なければ また …。

- B リーカイ マ ソイデモ マー ソコニ イタダモノ。ヨンデ ク  
 そうがぬ、ま それでも まあ そこに 居たのだもの。呼んで 来  
 ラームシ。<sup>(6)</sup>  
 るよ
- A リーカイ。<sup>(7)</sup>  
 そうがぬ。
- B ソイジャー マー イッテ。ジーサマ ナニュ一<sup>(8)</sup> シティウダイ<sup>(9)</sup>  
 それでは まあ 行って。爺様、何を 為ているのだね  
 キラッシャイ。<sup>(10)</sup> マー イックラ ヨンデモ イッコ一 イネーヨ→  
 おいでなさい。まあ いくら 呼んでも 一向 居ないよ,  
 オラガ ジーサマー。<sup>(11)</sup> キョーワ<sup>(12)</sup> ドーケー<sup>(13)</sup> イッタダッペ マー。  
 私の 爺様は。今日は 何処へ 行ったのだろう まあ。  
 キンジョエデモ イッタカナ<sup>(14)</sup> マー。  
 近所へ でも 行ったかなあ まあ。
- A ヤマイデモ イッタカイ。  
 山へ でも 行ったかぬ。
- B アーリ サガシテ ミテ クライ オイガ<sup>(15)</sup> デ マ キンジョー シ  
 ああ、 捜して みて くるよ 私が。で、ま 近所を 一.  
 トッキリ マー アルッテ<sup>(16)</sup> ミタケド マー ソダケド<sup>(17)</sup> ヤタサン  
 時 まあ 歩いて みたけど まあ それだけど 弥太さん  
 イッコー イネーヤ マー キョー マー ドーシタダガナ。<sup>(18)</sup> ジャ  
 一向 居ないよ まあ, 今日 まあ どうしたのだが。では  
 キョーワ テンキガ イーデ マ オッケー<sup>(19)</sup> ホーイデモ テカ  
 今日は 天気が いいので 追見の 方へ でも 出か  
 ケタダン ナンダガナ マー シトッキリ マッテ クダイ。ジキ  
 けたのだが 何だか まあ。一時 待って ください。すぐに

クライ<sup>(5)</sup>。

来るよ。

A 不-ヨ イ-ヨ タイシタ ヨ-ジヤ ネ-カラ マタ クライ<sup>(5)</sup>。  
いいよ いいよ たいした 用では ないから また 来るよ。

B デモ クルヨー マー マッテラッシュ<sup>(16)</sup>イ。マー オキヤデモ ダ  
でも (すぐに)来るよ, まあ 待っていらっしゃい。まあ お茶でも 出  
サイ<sup>(17)</sup>。  
すよ。

A ハイ ソー ソイジャー ヨバレテ<sup>(18)</sup>カナニ。  
はい, それで ご馬鹿走になっていくかなあ。

B アー。  
ああ。

### 注

- (1) 文末詞の「ムシ」は、利根郡の他、吾妻・甘樂・多野郡の所々で老年層によって用いられる。
- (2) 「チットッペ」は、「ばがり」の意の「ベー」と「チット」の間に捲音が入り、「チットンベー」となったものが、促音化・無声化により生じた形。
- (3) 「マタサン」は、話し手B 弥太郎の呼称の略称。
- (4) 「オイ」は、「オレ」の弱まり形。
- (5) 「クライ」は、「クラー」(くるよ)に文末詞「イ」が後接し、長音が脱落した形。
- (6) 「クラームシ」は、「クラー」(くるよ)に文末詞「ムシ」が後接したもの。
- (7) 小声で。

- (8) 「ナニュー」は、「ナニオ」の融合形。
- (9) 「シティウダイ」の発音は、[ʃitiwdai]と二重母音的で融合してはいられない。「シテルくシテ イル」の「テ」の母音が狭まり、「ル」の子音が脱落した結果生じた形。ラ行の子音は、「ダイカくダレカ」、「オイガくオレガ」、「ソイジマ-くソレジマ-」のようによく脱落する。ここでも、まずラ行子音の脱落が起こり（シテウダイ），ついで「テ」の母音の狭まりが起こったと思われる。
- (10) 「キラッショイ」は、「来る」の未然形「キ」に，丁寧の意を表す助動詞（ただし，この形（命令形）のみ）「ラッショイ」が後接したもの。他に，「モッテガッショイ」（五段活用の後接形），「マッテラッショイ」などの用例がある。
- (11) 「キョーワ」は，半長音の[kjō·wa]。「ドーケー」は，[do·ke:]。
- (12) 「アルッテ」は，「アルク」の音便形。「アルッタ（歩いた）」とも。「あちこち行って搜して」の意。
- (13) 「ソダケド」は，「ソレダケレド」の弱まり形。
- (14) 「ガナ」は，自問を表す文末詞。
- (15) 話者Bの家は，平川にあるので「追貝の方へ出かけた」という発話が生ずる。収録地（追貝）ではなく，自宅にいる立場の発話。
- (16) 注(10)参照。
- (17) 「ダサイ」は，「タサー」（出すよ）に文末詞「イ」が後接し，長音が脱落した形。注(5)参照。
- (18) 「ご馳走する」の意で「ヨブ」という。「ヨバレテク」は，「ヨバレテ イグ」の弱まり形「ヨバレテグ」の「テ」の母音が無声化したために「グ」は，無声音にはさまれ，子音・母音共に無声化した形。

### 3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

T 西藤 徳蔵 男 明治37年生まれ

G 鈴木 ぎん 女 明治37年生まれ

T オハヨー イルカノー。

おはよう いるかねえ。

G アイ イマスヨー。 アンダカイ。

あい いますよ。 なんですか。

T アー キョーワ イー テンキダノー。

ああ きょうは 良い 天気だねえ。

G アイヨ イー テンキダノー。

あいよ 良い 天気だねえ。

T ~~ダンワ~~ ダンナワ イマ イネンカイ。

旦那は いま いないのかい。

G エー イマスヨー。 オトッツアン オトッツアン。 エ イマ  
ええ いますよ。 お父さん お父さん。 え いま

ホニ イタッケン ドイ イッタダオカヤー チョット マッテ  
そこに いたけど どこへ 行ったのだろうか ちょっと 待って

~~クダツ~~ クラッシュェーヤ ミテ クルカラ。 ホントニ ドイ  
くた"さいよ 見て くるから。 本当に どこに

イッタダオカヤ。  
行ったのだろうか。

T アー インギン ヨージャ ネーカラ マタ キベヨー。  
ああ 急の 用事で ないから また 来ましょうよ。

G エエ ショガネーノー サッキマデ マエノ ナヤニ イタッケン  
ええ しょうがないねえ さっきまで 前の 納屋に いたのだけど  
ヤー キット ハマエワ イガネッペヨー シヤクショイ イグ  
ねえ きっと 浜へは 行かないでしょう 市役所へ 行く  
ヨーガ アルカラッチッテ ユッテタカラヨ クミアイデモ イッ  
用事が あるからって いってたからね 組合でも 行っ  
タンデネダオカヤー。スグ カエッテ キベカラ オチャデモ  
たんでないんだ"ろうかね。すぐ 帰って 来るだ"ろうから お茶でも  
ノンデ マッテデテ クラッシュエサヨー。  
飲んで 待っていて くださいよ。

T エー オレ マダ チョット ヨーガ アルカラノー マタ アト  
ええ 僕 まだ ちょっと 用事が あるからね また 後  
デ キベヨー。  
で 来ましょうよ。

G アイー ホーカイー (T アー) ワリーノー。 カエッテ  
あれえ そうかねえ 悪いねえ。 帰って  
キタラ ハナスベーカラノー スイマセンヨー。  
来たら 話しましょうからね すみませんねえ。

#### 4. 新潟県柏崎市大字折居字餅糰

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 高橋 真 男 大正7年生まれ

B 高橋 初枝 女 大正2年生まれ

A オハヨー ゴザエマスワ。  
おはよう ございます。

B ハエ オハヨー ゴザエマス。  
はい おはよう ござります。

A キョアーワ アサカラ ムシアツツエヨーナ テンキデスネー。  
今日は 朝から むし暑いような 天気ですねえ。

B ソアーデスネー。  
そうですねえ。

A オトツツアン<sup>(1)</sup> エラレマスカネ。  
ご主人 いらっしゃいますかね。

B サー タッタ エマ エサシタンダガ。 オトツツアン。 タッタ  
さあ たった 今 居られたのだが。 「おとつあん。」 たった  
エマ ココネ エサシタンダガ (時計の鳴る音) ドコエ  
今 ここに 居られたのだが どこへ  
エカシタデショアーネー。  
行かれたでしょうねえ。

- A ソッカネー.  
そうかねえ.
- B ハー タッタ エマ ココラネ エサシタノダガ。  
はあ、たった 今 こちらに 居られたのだが,
- A テンキガ エースケア タンボア コアーコア<sup>(5)</sup> ミズミニニ  
天気が いいから たんぼへでも 水を見に  
エカレマシタヤラネー.<sup>(6)</sup>  
行かれましたやらねえ.
- B エヤ タンボウ エカンニアート オモエマスインデスエネ.  
いや たんぼには 行かれないと 思いますですよ.  
キヨアーワ ノアーキョアーエ チート ハナシガ アルテ ュー  
今日は 農協へ すこし 話が あると 言っ  
テ エナスタノデススケアー.  
て 居られたのですから.
- A アー ソアーッカネー.  
ああ そうかね.
- B ハエ タッタ エマ ココラネ エサシタノデスガネー.  
はい、たった 今 そこらに 居られたのですがねえ.
- A ソアッカネー. ~~ ドコエ エカッタカナー.  
そうかねえ. どこへ 行かれたかなあ.
- B ソアーデスネー. マダ チット ハヤエースケナント モテ  
そうですねえ. まだ ちょっと 早いからなどと 思って  
タンボエデモ デカケ ナスッタデショアーカネー.<sup>(7)</sup>  
たんぼへでも 出かけられたでしょうかねえ.
- A ソアーデスネー ドコエ エカッタカナー. エヤ アンマリ  
そうですねえ どこへ 行かれたかなあ. いや あまり

エソグ ヨアージデモ ネースカラ <sup>(8)</sup>マタ キマサネー。  
急ぐ 用事でも ないですから また 来ますわねえ。

B ソアーデスカエネー カ <sup>(9)</sup>カエッテ ゴザシタラ オト シマショア  
そうですかねえ 帰って 来られたら 連絡 しまじょ  
カエネー。  
かねえ。

A エヤ ワザワザー オト シテ モラワンデモネー アノ マタ  
いや、わざわざ 連絡 して もらわなくともね あの また  
ワタシ キマサネ アスピナガラネー。  
わたしが 来ますわね 遊びがてらにねえ。

B ソアーデスカエネー。  
そうですかねえ。

A ハ工。  
はい。

B ソア セヤ マー アッデスドモ オレガ <sup>(10)</sup>ゴザシャレヤ ソア  
それでは まあ なんですかれども、わたしが 来られれば そう  
<sup>(12)</sup>エテ <sup>(13)</sup>ハナシテ オキマスデスエネ。  
言って 話して おきますですよ。

A ア ソッカネ。  
ああ そうですか。

B ハ工。  
はい。

A マ ソア シテテ クダサエ。  
まあ そう しておいて 下さい。

B ハ工。  
はい。

A ジャ マー オジャマ シマシタ。  
では まあ お邪魔 しました。

B マー ソラ マー ゴクロアーサマデ ゴザエマシタ。  
まあ それはまあ 御苦勞さまで ございました。

A ゴメン ナスッテ クタサエ。  
ごめん なさって 下さい。

B ゴメン ナスッテ クンナサエ。  
ごめん なさって 下さい。

### 注

- (1) オトッツアン 壮年以上の男主人をその家族や附近の人々が呼ぶ時に用いる語。方言的。最近は共通語化して「オトーサン」が増加している。
- (2) エラレマス いらっしゃいます。ラレルは全年層に用いられるこの方言の古い尊敬の助動詞である。話し手Aは尊敬表現はこの「レル・ラレル」で一貫している。昔話にも多用されている。
- (3) エサシッタ 居られたの意。「サシッ」は「サシャル」の連用形。「サシャル」は動詞「する」の尊敬語「サシャル」が補助動詞となつたもの。「サッシャル」（基本形）は老年層用語で「レル・ラレル」（軽い尊敬）より新しく、「ナサル」より古いものと思われる。刈羽郡・柏崎市地方の一般の尊敬表現の地方共通語的なものは「ナサル」である。「サッシャル」はそれより使用頻度は低いが敬意はそれと同等であろう。「エサシッタ」は最も敬意の高いやや古い表現であり、それを自己の夫について他の人に語る時に用いているのである。こうした敬語の使い方は中越北部方言の一つの特徴である。
- (4) エカシタ 四段活用の未然形に「シャル」という尊敬の助動詞の連用形。前期江戸語の「エカシッタ」と関係があろう。(3)の「サッシャル」と意義は同じ。

- (5) タンボア コアーコアー 話し手は「タンボヤナンカ」(たんぼなど)と言ったと主張するが早口で発音がゆがんでそのようにはききとれない。
- (6) タヤラ 発音がはっきりしない。話し手にきいて分った。
- (7) ナスッタ 補助動詞尊敬のナサルの連用形。前述のシャル・サッシュ・タル類より新しいものらしい。
- (8) ネースカラ デスのデがたまたま落ちたもので、一般的なことではない。
- (9) キマサネ 「来ますわね」の変化。「サネ」は丁寧に呼びかける。老年男性語か。
- (10) ゴザシ 「ゴザッシャル」(来られる)の連用形。老年層用語。
- (11) オレ 男女全年層の自称代名詞。親しい人に対した時用いる。
- (12) エテ 促音も長音もない。言って。
- (13) マスデス 改まって、二重に丁寧語を使っている。

## 5. 長野県上伊那郡中川村南向

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A	尾沢 国蔵	男	明治31年生まれ
B	寺沢 直江	女	大正3年生まれ

A ゴメンナンショ  
ごめんくたさい。

- B アー オオヨリトクンナイショ(1)  
お寄りください。
- A ハールカ アメア フットタケード キョーワ テンキガ ヨク  
長いあいだ 雨が 降っていたけれど、きょうは 天気が  
ヨク ナッテ キモチガ イーナオン  
良く なって 気持が 良いね。
- B ソーエナ イー オテンキン ナッテー (A アー)  
そうですよね、良い お天気に なって…。
- A オジサマ オルカナー  
おじさま いるかね。  
(= 御主人)
- B ハー アノ オレニ オヨリトクンナイショ  
いるから お寄りになってください。
- A ソー カナ チョット イキ アイ テート (B アー) オモッテー  
そうですか。ちょっと 会いたいと 思って…。
- B オトーサン アー イマ オッタ ワケダガ(2) ドー シツラ アー  
お父さん、 今 いた わけだが どう しただろう  
マー チョット オヨリトクンナイショ ミテ クレニ  
ちょっと お寄りになってください、見て 来ますから。
- A ハイ アリカ<sup>ガ</sup>ト<sup>ト</sup> ゴザイマス  
ありがとうございます。
- B ドコ イッタカ<sup>ト</sup> (A アー) ドコイモ イク (A オイ )  
どこへ 行ったか。 どこへも 行く  
ワキャ ネー<sup>ガ</sup>  
わけは ないが…。
- A アー オイデ<sup>シ</sup> ヨーダ<sup>ガ</sup>ナ<sup>ト</sup>  
いらっしゃらないようですかね。

B チョット ミアタランケードモー  
ちょっと 見当らないけれども……。

A 木ホー ソイジャー オテンキガ イーデー ハタイデモ イッタ  
それでは お天気が いいから、 火田へでも 行った  
カ シランナウン  
か しれないね。

B サー タバコ カイーデモ イッタンダ<sup>(3)</sup>カモ シランナーア<sup>(4)</sup>マー<sup>(4)</sup>  
煙草を 買いにでも 行ったのだかも しれないね。  
ジキ カエルラニ<sup>(5)</sup> マー カケトクンナイショ  
じき 帰るだろうから お掛けください。

A アー ソーカナ アリカ<sup>6</sup>トー ゴザイマス マー タイシタ ヨー<sup>7</sup>  
そうですか。ありがとうございます。 大した 用で  
ジャー ネー チョットー/ノ ヨーダ<sup>8</sup>ガ アー イソカ<sup>9</sup>シー ヨー<sup>7</sup>  
は ない、 ちょっとの 用だが……。 忙しい 用で  
ジャー ネーデ マタ テムイテ<sup>(6)</sup> コズヨ<sup>(7)</sup>  
は ないので、 また 出向いて 来ようよ。

B アー ソー カナ  
そうですか。

A アー

B ソリヤ マー モーシワケナカッタナウン  
それは 申しわけなかったですね。

A アー ドーモ オジヤマ イタシマシタ  
どうも。 お邪魔 いたしました。

B ソイジャー マー カエッタラー アノ イクヨーニ イワズカナ<sup>(7)</sup>  
それでは り帰ったら 行くように 言いましょう

ナウンシ  
かね。

A ヤ ソンネン シテ クレナンデモ<sup>(8)</sup> オレ マタ デカケテ クル  
そんなに して くれなくとも、俺 また 出掛けで 来る  
デー  
から……。

B アー ゾーカナ (A ハー) ゾイジヤー マー マタ オイデ  
そうですか。 それでは また いらっしゃ  
テ オクンナイショ  
って くださいませ。

A キタッチュ コトダケ チョット エットイテ オクンナニヤレ  
来たという ことだけ ちょっと 言つておいて 下さいよ。

B ハイハイ

A オネガイシマス  
お願ひします。

B ソリヤ マー アリガト ござイマシタ  
それは ありがとう ございました。

A アー ドーモ オジャマシマシタ  
どうも お邪魔しました。

B マー アリガト ござイマシタ  
ありがとう ございました。

A アー

## 注

- (1) -ナンショは少し年代が新しくなると、このようにナイショとも言われる。
- (2) [wakeda:̐]。
- (3) 在来の方言ならば“カウエー”。
- (4) -ナーは少し年代の下の人ではナウンと同じように軽い敬意と親愛の気持をこめて用いられる。
- (5) カエルラニのルの子音は顎動音的。
- (6) テムイテの前に僅かな言いよどみがある。
- (7) -ズは「意志」を表わす。
- (8) モは、[mo]の子音[m]のように、完全に両唇は閉じていないと見られる。

## 6. 静岡市南字中村

### 話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
C	山本 俊男	男	明治44年生まれ
D	佐藤 とし	女	大正4年生まれ

- C オハヨー。キヨー カゼ フク ヒダケガ トーサン イタカヤー。  
おはよう。今日は 風が 強い 日だけゞ 御主人は いたかね。
- D ウラノ ハタケニ イルラ。  
裏の 畑に いるだろう。
- C ンー。  
うん。
- D アノー ョンデミルカ。  
呼んでみるか。
- C ンー。  
うん。
- D トーサン トーサン。 ドケー イッタノカナー。  
父さん 父さん。〔返事がない。〕どこへ 行ったのかなあ。
- C ンー。  
うん。
- D チット マッテテクレ。 ミテクルデ……。  
ちょっと 待っていてくれ。 見てくるから……。
- C ンー。  
うん。
- D ドッコニモ イナエーヤー。〔時計の音〕 ドケー イッタダカナー。  
どこにも いないや。 どこへ 行ったんだかなあ。
- C ンー ヤマニデモ イッタンデーレ。 ソイカ タンボデモ……。  
うん 山にでも 行ったんだろう。 それとも 田んぼにでも……。
- D ヤマニヤー イカネーッケガナー。  
山には 行かなかつたんだがなあ。
- C ンー。  
うん。

- D ナンダカ ヤクバニ ヨーガ アルッテケン ソッチーデモ イッ  
何だか 役場に 用があるということだったから そっちへでも 行  
タジャ ナエーか.  
たんじゅ ないか.
- C ソーカ.  
そうか
- D ンー。 タバコデモ カエー イッタジャ ナエーかナ一。  
うん。(それとも)タバコでも買いに行ったんじゃ ないかなあ。
- C ソエジャーナー……。  
それじゃなあ……。
- D ンー。  
うん。
- C アノー イナエーヨージャサー……。  
いないようならなあ……。
- D ンー。  
うん。
- C オレモ イソガシーモンダンデサ……。  
私も 忙しいものだからさ……。
- D ンー。  
うん。
- C マタ アトデ クルンデー (D ンー) アノー トーサンニ  
また あとで 来るから (うん) 御主人に  
ユッテテクリョーヤー。 オレ カエールカラ……。  
言っておいてくれよ。 私 帰るから……。
- D セッカク キテクレタニ ワリーッケナー。 ンジャ一……。  
せっかく 来てくれたのに わるかったねえ。 それじゃ……。

- C ナニ マタ クルヨ。  
なに、また 来るよ。
- D ナンジヤッタラ マタ ワリーッケガ マタ キテミテ……。  
なんだったら また わるかったけれどまた 来てみて(下さい)。
- C シニ。 ソー ソーシテ……。 タノムヨ。  
うん。 そうして(みるよ)。 たのむよ。

## 7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 鈴木 清光 男 明治27年生まれ

K 小林ハルコ 女 明治41年生まれ

- S 「イヤ (K ハッ) コンチワ ドーモ。  
いや 今日は どうも。
- K アー コンニチワ コマッタ オテンキデ ゴザイマス.  
今日は 困った お天気で ございます。
- S 「ケッコーナ オテンキデ ゴザイマス ドーモ アノ コーヘー  
けっこうな お天気で ございます どうも あの 幸平

サワ「ドッヂカイ オイデタカナ.

さんは どこかへ おいでかな。

K アレー オトーサン「ア一 ヘンジガ 「ナイガ (S シー)  
あれ? 「お父さん」 ああ 返事が ないが  
「チョット ヨソイ デカケタラシーガ (S アー) マー<sup>マ</sup>  
ちょっと よそへ 出かけたらしいが まあ  
オジサン ワルカッタネ.  
おじさん わるかったね

S 「ア一 ソーカ (K エー) ジャ マタ「デテ (K エー)  
ああ そうか では また 出て  
オメニ カカルデ.  
お目に かかるから.

K 「マ一 ソーシテ オクンナサイ 「ドーモ ~~~~~ テシタ アッ.  
まあ そうして 下さい どうも

S ソイジャ一 ゴメンナンショ一 ドーモ 「アッ.  
それでは ごめん下さい どうも.

## 8. 福井県武生市下中津原町

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 下出寅義 男 明治36年生まれ

K 加藤よ志子 女 大正10年生まれ

- S オハヨーゴエス。 オインナルケノー。  
 　おはようございます。 いらしゃいますかね。
- K アラ ヨー オインナリマシタ。  
 　あら よく おいでになりました。
- S キョーワ テンキア イーシノー。  
 　今日は 天気は いいしねえ。
- K ホントニ キョーワ オテンキア イーデスネー。 サッキヤー<sup>(5)</sup>  
 　本当に 今日は お天気は いいですねえ。 さきは  
 　チョット オテンキア フルソーデシタケド イー テンキニ ナ  
 　ちょっと お天気は 悪そうでしたけど いい 天気に な  
 　りましたねえ。
- S アンサン イナハルカ。<sup>(7)</sup>  
 　ご主人 いらっしゃるか。
- K ハイー イルト オモウンデスケド。 トーチャン トーチャン。<sup>(9)</sup>  
 　はい いると 思うんですけど。 父ちゃん 父ちゃん。  
 　アラ ドコ イッタンジャロ。 チョット ミテクルテ チョッ  
 　あら どこ(へ) 行ったんだろう。 ちょっと 見てくるから ちょっと  
 　ト マットクンナセ。  
 　待って下さい。
- S ベツニー イソイダ ヨージッテア ネンジャケドカノー。 マター<sup>(10)</sup>  
 　別に 急いだ 用事というのはないんだけれどもねえ。 また  
 　キテモ イーケドノ。<sup>(11)</sup>  
 　来ても いいけれどね。
- K ホントニ ドコ イッタンジャロ。 サッキマテ ココニ イタト  
 　本当に どこ(へ) 行ったんだろう。 さきまで ここに いたと

オマウンジャケド。<sup>(12)</sup>

思うんだけれど。

S エ テンキガ エーンデノ<sup>(13)</sup> ヤマニデモ イッタンカノー。  
天気が いいからね 山にでも 行ったのかねえ。

K サー キョーワ タブン ヤマエワ イカン<sup>xxxxxx</sup> イカント オモウン  
さあ 今日は たぶん 山へは 行かない 行かないと 思うんだ  
デスケド。 サー タバコデモ カイニ イッタンジャネンジャロ  
けれど。 さあ たばこでも 買いに 行ったんじゃないだろうか。  
カ。

S イナ<sup>xxxx</sup> イヤー マタ ジブンモ<sup>(14)</sup> マタ ヨシテモロテモ イー。  
いや また 自分も また 寄せてもらっても いい。

K ホーデスカ。 スンマシェン。 カエッタラ スグ シラシェルサ  
そうですか。 すみません。 帰たら すぐ 知らせるから  
ケノー。  
ね

S ン イヤー イーヨ。 タイシタコッテア ネンジャデエ マタ<sup>ヨ</sup>  
えん いや いいよ。 たいしたことは ないんだから また  
ヨシテモラウ。 (K 笑) サイナラ。  
寄せてもうう。 さよなら。

## 注

- (1) 朝の挨拶。オハヨーゴジエンスがよく用いられる。ohajo:godzensu  
→ ohajo:godze"su → ohajo:goēsu
- (2) 「居る」の尊敬語オインナルの連体形。
- (3) 「来る」の尊敬語オインナルの連用形。もちろん「行く」の尊敬語としてもオインナルは用いられる。
- (4) [teŋkiā]
- (5) [sakkiwa ]
- (6) 「なる」「なった」の丁寧表現としてそれナレンス、ナレンシタという形式がある。
- (7) 他家の主人をさしていう時の言い方。さらに丁寧な呼称としてオアンサン、さらにタンナンがある。
- (8) [inaharwka]。[h]の聞こえが弱くイナールカに近く聞こえる。
- (9) 主に中年層で妻が夫を呼び時に用いられる。
- (10) [jo:dʒittə]
- (11) イーンニャケド……と言いかけてイーケドノと言っている。[i:"ke-dono"]
- (12) オモウに対して終止形・連体形にかぎりオマウという形があらわれることがある。
- (13) [e:ndeno.]
- (14) 一人称代名詞としてのジブン。軍隊用語の名残かと思われるが、当地方言では現在でもわりに聞かれ、若年層でも稀に聞かれることがある。
- (15) [ʃifasefusakeno:]

## 9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 泉谷 正彦 男 明治35年生まれ

B 上垣 セキ 女 明治34年生まれ

A ア オハヨー。

あ おはよう。

B オハヨーサン。

おはようさん。

A キンノーノ ユーダチン ドージャッタ。キビシカッタロー  
昨日の 夕立の どうだった。 厳しかったろう  
が。

が。

B キビシカッタヨ。(笑)

厳しかったよ。

A キビシカッタロー。オトーン ドクソ イタカ。  
厳しかったろう。お父さんは 何処(へ) 行ったか。

B オトロシーヨーナ ナッツラ ダ。(笑)  
恐ろしいような 鳴ったろう ね。

A ン一 ノーラー。オトーワ ドクソ イタカ。オトーワ  
ねえ。お父さんは 何処(へ) 行ったか。お父さんは

ドクソ イタカ。 シランカ。

何處(へ) 行ったか。 分からないか。

B シニ。 ヒラダニー イッタンジャ ナーカシラン。 (A サー)  
平谷に 行ったのでは ないかしら。  
さあ

ダマッテ イッテ ワカラニヨ。

黙って 行って 分からないよ。

A ンー。 アノ シモ オトナシーヨッテノーラ。 (B 笑)  
あの 衆も おとなしいからね。

ハナシ~~~~~ ダマッテ イクンジャロ。 サー ヒラダニニ  
黙って 行くのだろう。 さあ 平谷に  
イッタンカイヨ。 カマ カターデ ヤマイカンゾ<sup>(1)</sup> イタンジャ  
行ったのかいね。 鎌(を) 担いで 山へでも 行ったのでは  
ナーカ。  
ないか。

B イッタハズジャヨ。  
行ったはずだよ。

A イヤニ ヤマエ イテ アノ一 キノ エダカンゾ ツキヨールン  
いや 山へ 行って あの 木の 枝など  
ジャナーカ。 トシ上 チガウカ。 ジャーゼス。  
違うか。 だせ。

B ヒラダニニ イッタト モウンジャケンド。  
平谷に 行ったと 思うのだけれど。

A ウーン ウン ウン。 ソリヤ イッタンカイノー。  
うん うん。 それは 行ったのかいね。

### 注

(1) 「山へかなぞ」と直訳できる。すぐ後のキノエダカンゾも同様に「木の枝かなぞ」となる。

## 10. 鳥取県八頭郡郡家町

### 話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	衣笠 光寿	男	明治38年生まれ
B	衣笠 トラ	女	明治34年生まれ

A オハヨーゴザンス。

おはようござります。

B エー ハヨーゴザンスナー。

はい おはようござります。

A アノ コノ オジーサンワ オ<sup>(1)</sup>レルカエ。

あの この(家の)おじいさんは 居られるかね。

B サー オジーサンワ イママデ ココラーニ オッタダケド イマ  
さあ おじいさんは 今まで こちらに 居たのだけれど。今

チョット… オジーサン オジーサン オランダカー。ミツサン  
ちょっと…。(大声で)おじいさん! おじいさん! 居ないのか。みつさん  
ガナー ヨーガ アッテ キテオレーダガ<sup>(2)</sup> オジーサン。ナンボ  
がなあ 用が あって 来ておられるが おじいさん。いくら  
オメー ョンダッテ コリャー オリャーセンダガ。 デモ<sup>(3)</sup>…  
お前 呼んだって これは 居りは しないが、でも…

- A マ チョット サガエーテ ミテエーナ ソトノ<sup>(4)</sup> マーリュー。  
ま ちょっと 探して 見てください 外のあたりを。
- B マー ンナラ ウラノ マワリニ イキテ ミューか。  
まあ それなら 裏の あたりに 行って みようか。
- A スマンナー。  
すまないなあ。
- B ダケド ウラニモ オルサーニャ アリヤセンシヨ。 ナニヨーダ  
だけど 裏にも 居りそうには ないしね。 何の用だ?  
一ア。

- A サーナー ショードクー ワカイ モン スルッチュオルケド  
さあなあ 消毒を 若い 者が すると言っているけれど  
ナシノオ。 チート タランケー アンネーニ イキテ ミー  
梨のを。 少し(消毒薬が)足りないので あの家に 行って 見なさい  
アンネーニ アリヤーセンカッテ ユーケーニ ソレテ キタダケ  
あの家に ありはしないかと 言うから それで 来たんだ  
ドナ。  
けどね。
- B ソーカー。 ウチゲーニャナー アノモンダガ<sup>(5)</sup> ワカイ モンガ  
どうかあ。 私の家ではなあ あのう 若い 者が

ナンデモ サクマウダ<sup>(6)</sup>ケー ショードクグスリガ ドンナンガ  
何でも とりしきっているから 消毒薬 が どんなんのか  
アルダー ナイダー オジーサンワ チョットモ シットリヤー  
あるのか ないのか おじいさんは 少しも 知っては  
センターケー オジーサンダ<sup>(7)</sup>エー イケメーハ アノ ワカイ コガ  
いないのだから おじいさんでは だめだろう 若い 子が  
モドッタラ ワカルダ<sup>(8)</sup>ケド---.  
戻ったら 分かるのだけれど.

A ンナ マ (B ソシ---) ヒルー ナエート ナンダ<sup>(9)</sup>ワ (B ンー)  
それではま 昼で ないと なんだね  
ハジ<sup>(10)</sup> モドッテカラ (B エー) マタ クルヤーニ スルケーナ.  
はじか 戻ってから (ええ) また 来るように するからな。

B サー. オジーサンダ<sup>(7)</sup>エー ワカルマエーハ アノー ワカイ  
さあ. おじいさんでは 分かるまいよ 若い  
モンデ ナキャーナー。 アルワー. <sup>(8)</sup>タ<sup>xx</sup>ダンタ<sup>(9)</sup>ニ サー<sup>(10)</sup>  
者で なければねえ。(あるには)あるよ。 あれこれ何人の人が  
ソイッテ コラレルケナー。  
そう言って(借りてくれと言って)来られるからね。

A マ マタ (B ソシ---) ンナ クルケーナー。  
また それでは 来るからね。

B エー。 ンナ マー モドッタラ アノ コガ ソシタラ (A  
ええ。 では まあ 戻ったら あの子が そうしたら  
エー) トーテ ミトクヤーニ シヨーカ。  
ええ) 問うて(聞いて)みておくように しょうか。

A エー ハジニ ンナ ソノコト タノンデーテナ。  
ええ はじめ では そのことを 頼んでおいてね。

B エー。 ゴクローサンデシタ。

ええ。 御苦勞さんでした。

A ドーモ (B ~~~~~) オジャマシマシタナニ。

どうも お邪魔しましたねえ。

B エー ナニガ。 スンマセン。

ええ どういたしまして。 すみません。

### 注

- (1) 「オリヨルカエ」とも聞こえるが、話者によれば「オラレルカエ」と言っているつもりの由。
- (2) 「キテオレーダガ」と聞こえるが、話者によれば「キテオラレルダガ」と言っているつもりの由。
- (3) あまり意味のないつけたし(間投詞的)。
- (4) 用例「コノ本読ンデエーナ」=この本を読んでください。
- (5) アノモンダガ 言いさしのことば。「あのう」
- (6) さくまえる ①整理する。整頓する。広島・愛媛。②指図する。  
山口県大島。 (『全国方言辞典』)
- (7) Bさんの息子の「はじめ」氏のこと。
- (8) ダンダンニ いろいろ、たくさん。「あれこれ何人の人が」は意訳。  
だんだん ①いろいろ、いつもいつも。「ダンダンお世話になります」島根・壱岐。②略 (『全国方言辞典』)
- (9) 注(7)参照。

# 11 島根県仁多郡横田町大字大馬木

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 戸屋 英明 男 明治36年生まれ

B 戸屋マサヨ 女 大正4年生まれ

A ヤー オハヨー コンツィワ.

やあ おはよう 今日は.

B ハイ マー オハヨーゴザイマスィ. オエデマスィタ.

はい まあ おはようござります. いらっしゃいました.

A ナント キョーワ エー テンキニ ゴザイマスィネ.

なんと 今日は よい 天気にござりますね.

B ハイ マー キョーワ テンキニ ナリマスィタネ. キューニ

はい まあ 今日は 天気になりましたね. 急に

アツイー ナリマスィタネヤ.

暑くなりましたねえ.

A オズィズワ オツイン オーカネ.

お爺さんは 家に 居るかね.

B アー サッキマデ オーマスィタガ. オトーサン アラー ドコ

ああ さっきまで 居りましたか. お父さん あらあ どこ

エ エッタデショーカー. チョット マー デテミマスィケン

へ 行ったでしょうか. ちょっと まあ 出て見ますから

マッチョットクダサエンシェヤ。<sup>(1)</sup>

待っていて下さいませ。

- A エヤー ベツニ イソイダ ヨーズイ ジャーナイケン ソイジャー  
いやあ 別に 急いた 用事ではないから それでは  
マー マタ コート キマショーカ。  
まあ また 来ましょうか。
- B マー ソゲデスイカ。 ドコ エッタデスイ ヤラネ。 サッキマテ  
まあ そうですか。 どこへ 行ったですやらね。 さっきまで  
モニワニ オーマスィタドモネヤー。  
庭に 居りましたけれどもね。
- A ヤー テンキガ エーダケンネ。 ヤマエデモ イカレタジャーナ  
やあ 天気が よいのだからね。 山へでも 行かれたではない  
イカネ。  
かね。
- B サー エンヤ オーカタ ヤマーエワ キョーワ エカンダラー  
さあ いいや おおかた 山へは 今日は 行かないだろうと  
オモイマスイガ。 ヤクバノホーエ ヨーガ アッテ デルヨーニ  
思いますが。 役場の方へ 用が あって 出るよう  
イッテオーマスィタケン マー オーカタ タバコ カエニドモ  
言っておりましたから まあ 多分 たばこ(を) 買いにでも  
イッタジャニイカト オモーデスイガネー。 マー カケチョット  
行ったのではないかと 思うのですがねえ。 まあ(腰を)かけていて  
クダサエンシェ。  
下さいませ。
- A イヤー ワスイモ ホカニ ヨーズイガ アーケン ジャー マタ  
いやあ 私も 外に 用事が あるから では また

キマスイワ.

来ますわ。

B ソゲーデスィカ。マー スインマシエン。マタ カエッタラ  
そうですか。まあ すみません。また 帰ったら  
ホンナラ ヨースィスィマスイワ。<sup>(2)</sup>  
それなら お知らせしますわ。

A イヤイヤ ヨーゴザンスイヨ。ベツニ ヨースィスィテモラエ  
いやいや よろしいですよ。別に 知らせて貰わなく  
<sup>(3)</sup> デモ ジャー ア タイシタ ヨーズィジャーナイデスイケン。  
ても では あ たいした 用事ではないですから。  
じゃ サエナラ。  
では さよなら。

## 注

(1) 「クダサンセ」がこの人のは「クダサエンセ」に聞こえる。

(2) 様子のことで、ここでは「知らせる」の意。

(3) 中国地方は、否定に「イデ」を用いる。「モラウンデモ」と同じ。

## 12. 愛媛県越智郡伯方町木浦

詠 1 手

(田名号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	山岡寅夫	男	明治42年生まれ

B	馬越コクニ	女	明治38年生まれ
---	-------	---	----------

A オハヨー。コクニサーン。

お早う。 コクニさん。

B ハー。オハヨー。トラサン ハヤイシヤ (A アー。) ナイ カイ。  
けあ。 お早う。 寅さん。 早いでは。 ああ。 ない。 かわ。

A イヤー。ガイニ ハヤモ ナインシヤガ オイサンワー ナン カ  
いや。 たいへん 早くも ないのだが、 主人さんは、 何 かわ。

1. オッテ カナ。

おられま かわ。

B サー イマ ソコニ オッタシジヤガ チョットー ョンテ ミョ  
さあ。 今。 そこの いたのだが、 ちょっと 叫んで みよう  
一 ワイ。 (A シー。) オイサン。<sup>(1)</sup> ウ <sub>xxx</sub> テモ オラン ヨーナケニ<sup>(2)</sup>  
わい。 ( しん。 ) あげた! <sub>xxxxxx</sub> いない どうだから。

( A シー。 ) ドッカエ ( A アー。 ) イック ンカシラン。  
しん。 どこかへ ああ。 行った。 のかしら。

A ソー カナ。イヤー ソリヤ マー ライシタ ヨージモ ナイン  
う カナ。 リヤ。 ソリヤ まあ。 たいした 用事も ないの

ジャケンド <sup>ナ。</sup>  
たけんどう カ。 (Bンー。) オットラー チョット ハナシ シ  
タラト オモイヨッタ ンヨ。  
たらと 思っていた のよ。

B アー ホー カ。 (Aンー。) ソリヤ チョード カ <sup>xxx</sup> ワルイガ  
ああ。 さう カ。 うん。 もは。 ちうど。 悪いけれど、  
エンドー <sup>(3)</sup> ハマジョ / <sup>(4)</sup> ホーイ ヨージガ アリツーニ イオッタ  
浜の 方へ 用事か あるように、 言っていた  
カー ソノ ホー イッタソジャロー カー。  
の 方(へ) 行ったのだろう かねえ。

A ハーハー。ソーカナー。 (Bンー。) イヤー ソリヤー ナン  
はあはあ。 そ カね。 ジュ。 ハヤ。 もは。 何  
ヨー。カマン ノヨー。タイシタ ヨージモ ナインジャケンド  
よ。 かまわぬ のよ。 たしかに 用事も、 ないのだけれど  
ナ。 (Bアー。) ンジャツ タラ マタ キマス ウイ。  
カ。 ああ。 たぶたら。 また 来る よ。

B ツテ キドクナガイナラ <sup>(5)</sup> ソーシテ モラオ カー。  
気の毒だけれど、 そうして もらおう かねえ。

コツカラモ マタ イッテモ カマンケンド。  
こちらからも まだ 行っても かまわぬけれど、

A イヤー。イヤー。ソガソシテ モラワイデモ <sup>(6)</sup> ナ。 (Bアー。)  
いえ。 いえ。 そんなに して もらわなくて カ。 ああ。  
ワシガ マタ コツチ一 ナシ ヨー。アルトキニ アンタ ト  
私が まだ こちへ 何 よ。 来る 時に、 あなた(の) 所  
コエ ヨッテ ミマス ウイ。  
へ 着て ミエイ よ。

B アー ソー カフ。 ( A エー エー。 ) ソレ <sup>(7)</sup> ヒナラ ソーシテ モ  
ああ。 う かわ。 (えええ。) それなら そしテ も  
ライマシヨ。  
らいまじょ。

A エッ エー。 やー。 ドーモ オジャマ シマシタ。  
えっ ええ、 やあ。 どうも お邪魔しました。

B ソリヤ ソリヤ ( A シー シー。 ) ゴクローテ ゴザイマシタ。  
それは それは ( んさん。 ) ご苦労で ございました。

- (1) オイサン……妻が夫を、他人の面前で、大声で呼ぶ時のことは。  
訪問者Aも、「オイサン」と呼称している。
- (2) ケニ……鹿島県では、「ケー」と言うことが多いが、当地では、明確に、[keni]と発音するのが注目される。
- (3) ワルイガエンドー……前後の文意から推して、「悪いけれど」の意と解される。
- (4) ハマジヨ……漁師の意か。山の手の人々が、海岸辺をさして言う。
- (5) キノドクナガイナラ……気の毒だけれど、と意訳した。
- (6) モラワイデモ……中四国で広く、このような否定形式が、見られる。
- (7) ソレヒナラ……前後の文意から推して、「それなら」の意と解される。後の確認調査で、「ヒナラ」は「ホナラ」とも変形することが、判った。「ヒ」「ホ」は、「ソレ」に由来するものであろう。

### 13. 高知県南国市岡豊町滝本

話の手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 田島正実 男 明治29年生まれ

B 森田多賀恵 女 大正4年生まれ

A コンニチワ。 オハヨーサン。  
今日は お早うさん。

B ハイ オハヨーサン。 マー ハイットーゼ。 ハイッテ クレ  
はい お早うさん。 まあ はいって下され。 はいって くれと  
ユータ云 キタナイ トコロゾガ一。 ココニンデモ カケト  
言つたて 全たない ところだ。 ここに でも かけて  
一ゼ。  
下され。

A オーキニ。 オーキニ。 トキニ キューワ アシャー マサニ  
ありがとうございます。 ありがとうございます。 時に 今日は わけは 正に  
キヨッコリ ヨージンガ アッテ キタゾガ一 ハヤ ミエンガ  
ひよつと 用事が あって 来たが けや 見えなが  
ソドコソ シゴトニンデモ ヌデテ イタカヨ。  
どこか 社事に でも 出て 行いたれ。

B ヌデチャ一 イカン。 イカン。 キューワノ一 アサノ ウチ ラ  
出では いかない。 いかない。 今日は ねえ 朝の うら う  
チノ ラエキノ テイレンデモ ショコ一カ イーヨッタキニ  
の 植木の 手入れでも しておこうかと言つて いたから

ソコニ オルト オモウンガ チョット ヨンデ ミル。 オンデ<sup>(1)</sup>  
そこじ いろと 思うが じょっと 呼んでみる。 ちじ  
ーチャン。 オンデーチャン。 マサミサンガ ヨージンガ アッ  
ハシヤン。 おじいちゃん。 正密さんが 用事が あ  
テ キテ クレナユーキニ チョッコリ モンドッテ キテ ミー  
テ 来て くれてるから じょっと もどって 来てみなさ  
ヤ。 オンデーチャーン。 オンデーチャン。 アリヤ インママ  
いよ。 おじいちゃん。 おじいちゃん。 あれ 今ま  
クデ アコウテ ミエヨッタニ オランガ ノドコ イタロー。  
で あそこで 見えていたのに いなが どこに行たろう。  
アテンガ チョッコリ イテ ミテ クルキニ チックト マチヨ  
わたしが じょっと 行て見て 来るから じょっと 待つて  
ツトーゼ。  
て下され。

A ナンチャ一 ナンチャ一。 ソンナニ ワザワザ ヨビニ イテ  
いや いや。 そんなに わざわざ 呼びに 行て  
モラインヂ チソー カクベトタ イソイソダ ヨージンデモ<sup>(2)</sup>  
もしはなくたって うう 格別 急いだ 用事でも  
ナイ ガンチャキニ マタ バンカタニンデモ ノデナオシテ ク  
ない の だから まだ 夕方に でも 出直して 来  
ラーヨ。  
うふよ。

B ソーカヨ。 キョーワ ヒルカラ コクブノ ユキコンクノノ一  
うかね。 今日は 積から 固分の 雪 子の家のねえ  
コンレイエ イカナ イカシヨーニ ナッ チューキニ メッソー  
婚礼へ 行かねえ いけないようになってるから あまり

エンポーエヤ イキ センロート オモウケンド ヒョット ャ  
遠方へは 行きは しないだろ? と 思うけれど ひょっと 山  
マナカノ ミセエ タバコンデモ カイニ イ左一カモ ワカラ  
津の店へ たびこでも 買いに 行つてらかも わか  
ン。 チット マチヨッテ ミトーゼヤ。  
ない。 すこし 待つていて みて下され。

A ソー マチヨッテモ エーケンドノー。 フジャー チョーノド  
うん 待つてもよいけれどねえ。 わたしは ひょうと  
ケサ ヨージノ アル ヒトンガ キテ クレル コト=ナツチ  
今朝 用事のある人が 来てくれることになつて  
ヨルキニ マタ ヒトイ ナデナオシテ クラーヨ。  
るから また 一日 出直して 来らう。

B ソーカヨ。 ソリヤ シー スマンノー。 ホンナラ モンドリ  
テうかね。 それは たいへん すまないねえ。 そんなもどり  
シンダイ オマンクエ ヤルヨー=スラーヨ。  
次第 わんたんとこへ 行かせてよにすくあ。

A ソーカヨ。 ソリヨードマンデニ シテ モラインガ チ カマ  
テうかね。 それほどまたにして もくわなくとも かま  
ンガンガ ケンドノー。 ホンナラ ハヨー モドッテ キタラ  
わなないのだけれどねえ。 それなり 早く しどつて 来べ  
タコリ アシンクエ オコシテ クレルカヨ。  
ひょっと わんとこへ きて くれるかね。

B ハイ ショーチシマシタ。  
はい 承知しました。

A ナドーモ ナドーモ オテオ トメマシタ。  
どうも どうも お辛を とめました。

B ザドー モ アリ ザガト ンゴザイマシタ。  
どうし 有り がとう ございました。

A オーキニ。 オーキニ。  
有り難う 有り難う。

### 注記

(1)(2)(3)(4) これらのチは [d̪i] にやや近い。  
⑤このチは [t̪i] にやや近い。

(6) 地名

## 14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 平尾 忠太郎 男 明治31年生まれ  
B 山崎 キメ 女 大正2年生まれ

A オハヨー。 ココン <sup>(1)</sup>ジードナ オラルレッジャロ カー。  
おはよう。 ここに じいさんは おられるだろうか。

B オハヨーゴザイマース。 オジーサーン。 ア<sup>(2)</sup> オラーンゴタル  
おはようござります。 おじいさん。 あ あらないようだ  
バーイ。

ねえ。

A アー マメナカ モンジャッケン ネー アリヤ。 ドコンカシコ  
ああ こまめな 者だから ねえ あれは。 どこのかしこ  
ンノテ チョロチョロ チョロチョロシテ サルイテー <sup>(4)</sup>ウリヤ  
のと ちょろちょろ ちょろちょろして 歩き回って いくら  
<sup>(5)</sup>キテモ ヤーワ エン ター。  
来ても 会うこととはできないよ。

B ドコニ イキマシタトデショ カヤー。  
どこへ 行きましたのでしょうか。 かね。

A シラン。  
知らない。

B ハタケニ イタッデショ カネー。 ドコニ イタッデショ カネ  
畠へ 行ったのでしょうか。 かね。 どこへ 行ったのでしょうか。 かね。  
一。

A サ<sup>(6)</sup> ミゾグチエテモ <sup>(7)</sup>イタッジヤ ナカロ カネー。 マター テ  
さあ 溝口(人名)へても 行ったのでは なかろうかね。 また 出  
ナエテ コズバー。  
直して 来なければ。

B ドーモ フザワザ キテ モラッテ スイマシェンデシタ ネー。  
どうも わざわざ 来て 貰って すみませんでした ねえ。  
アリガトゴザイマシター。  
ありがとうございました。

## 注記

- (1) 「ジードナ」は、「ジードンナ」の連声形からのもの。
- (2) 「オラーンゴタル」の「ゴタル」は、「ゴトアル」から序立てみな、比況の助動詞。
- (3) 「マメナカ」は、ふつうは「マメカ」。
- (4) 「ウリヤ」と聞こえるが、諸者は、「イクラ」と言っているつもり。
- (5) 「ヤーワ」は「アイワ」(会いは)の音変化。
- (6) 「ミヅグチエデモ」の「エ」は、ふつう、「ニ」、「サニヤ(ン)」である。
- (7) 「イタツシジャ」は、「イタトシヤ」の音変化。

## 場面(6)

道で知人に会う



# 1. 青森市大字牛館

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

C 棟方 トミ 女 大正2年生まれ

D 坂本 チヲ 女 明治41年生まれ

D アレ ムナガタサンデ ネガ一。  
あれ(あ) 棟方さんで ないか。

C アエ。  
はい。

D ワエ スンバラグダジャー。  
わあ しばらくだね。

C アエ サガモンドサンデ ネガ一。  
あれ(あ) 坂本さんで ないか。

D アエ ソンダエーヤ。 (C アエニ) ワガッテル。  
はい そいたゞよ。 わかってる?

C ワガッテル ワガッテル。 (D ワガッテル) スンバラグダノー。  
わかってる わかってる。 しばらくだのう。

D スンバラグダノー。  
しばらくだのう。

C ンー。 アンダノ マンコダキーウ オキグ ナタベヌア。  
あんたの 孫 は 大きく なったろうね。

- D ウーン。モー スタテス ヨメコ モラネ エンダモノー。  
 うん。もう だってさ 嫁(を) もらう(の)に いいんだもの。  
 (C ウーン ホダエノー) <sup>(1)</sup> タッテノー。ナガナガ オモーヨニ  
 うん そだよのう) だつてのう、なかなか 思うように  
エガネッキー。 (C ンニ) オラ モラルンデ ネアスサー。  
 いかないよね。 私(が) もらうんで ないし  
 (C アー) ホンニン モラウンダハンデノー。 (C アー)  
 ああ 本人(が) もらうんだからう。 (ああ)  
 アンダダッテ <sup>(2)</sup> アエダベサ。マンゴ。タエスタ オッキグ ナッタ  
 あんただつて あれたろうさ。孫(が) たいへん 大きく なった  
 ベサ。  
 ろうさ。
- C ホンダー、オエノ。レー、マンゴ。ハー、マズネ エル ヤズ。  
 そだよ、私の家の。ほれ 孫(は) はあ、町に(住んで)いる 奴(は)。  
 ハー アエダオ、キヨネンノ アギ、ハー、ヨメコネ ナッテ  
 はあ あれたよ。去年の 秋、はあ、嫁に なって  
 エッテサー。 (D ウン。咳) シテ エンマ ハー マンダ  
 行ってさ。 (うん。) そして 今 はあ また  
 ウンム ドゴダオ。ホレー。 (笑) マエル ドゴダオン。  
 生む ところだよ、ほれ。 生まれる ところだよ。
- D タノ。トコサンノガー。 (C アー) アーレー (C ウン)  
 誰の(ことか)、トシさんの(ことか)。 (ああ) あれ(まあ) (C ウン)  
 ウン。ユキエ コ マンダ。  
 うん。ユキエ(は)子(は)まだ (生まないか)?
- C ウン ユキエアズサ マンズ アエダ。フタリ アッテア (D ウン)  
 うん ユキエの(は)さ ます あれた。二人(の子が)あつて (うん)

- ソステ ハー オッキ アズ コーコダオン。 (D ウウーン)  
 そして はあ 大きい 奴(は) 高校だよ。 (うん)
- ウーン。 (D ホンダエノー) (咳) ユーコチャン アンダ/  
 うん。 そうだ(ろ)よのう 雄子ちゃん あなたの(家の)
- ユーコチャン ドゴニ エルベア。  
 雄子ちゃん(は) どこに いるだろう。
- D アサヘカワニ エルノ (C ウーン) トーエハンデス ナガナ  
 旭川(市)に いるの (うん) 遠いからさ なかな  
 ガ アソンブニ コレアネス ホレア。  
 か 遊びに 来れないし ほれ。
- C アー、ン一 ステ、タエコチャ ドーステルベア。  
 ああ、 そして、妙子ちゃん(は) どうしてるだろう。
- D タエコ アキタ。 (C ウーン) コナエダ アソブニ キテ  
 妙子(は) 秋田(だ)。 (うん) この間 遊びに 来て  
 アッタバタテスア。 コンドワ ユックリ アソンブニ コヘヤ、  
 いたけれどさ。 こんどは ゆっくり 遊びに 来て下さい。  
 (C アー) ノー。  
 ああ のう。
- C アー アンダモ コンド (D アエ) ユックリ キテノー。  
 ああ あんたも こんど (はい) ゆっくり(遊びに)来てのう。
- D オラモ エガハンデノー (C アー) ユックリ コンダ ハナ  
 私も 行くからのう (ああ) ゆっくり こんど 話  
 スコ スピスサ。  
 (を) しようさ。
- C ホンダエノー。  
 そうだよのう。

- D アー。ノー 上 オダガエニ マー ワルグ ナネンデ ナガエギ  
ああ。のう お互いに まあ(体が)悪く ならないで 長生き  
スピスサー。  
しようさ。
- C マ ナガグ エギルエニ ステノー。  
まあ 長く 生きるように してのう。
- D ノー ウンダ。 ナガグ エギテ …… (笑)  
のう そうだ。 長く 生きて…
- C ウン エズネンデモ ナガグ エギレバ マンダ トグダッキヤ。  
うん 一年でも 長く 生きれば また 徳だよね。  
(D ウンダイノ) ア エンマノ ヨノナガノー。  
うん そのの 今の中(は)のう。
- D ウン (C アー) ダンダン エグ ナラハンデノー。  
うん ああ だんだん よく なるからのう。
- C アー。マ。  
ああ。ま。
- D ジャ。  
じゃ。
- C ウン コンド マ ユックリノー。  
うん こんど まあ ゆっくり(話さう)のう。

### 注

- (1) 「スタッテノー」の「ス」が聞こえない。
- (2) 「アエ」の指示内容は以下の「孫が大きくなつたろう」ということ。
- (3) 「アエ」の指示内容は以下の「去年の秋、嫁になつた」こと。
- (4) 「アズ」は「奴」。

## 2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

話し手

(略号) (氏名)(性) (生年)

A 小林 ち志ゑ 女 明治40年生まれ

B 井上 ト リ 女 明治43年生まれ

A シバラクダッタネー オトリサン。

しばらくだったねえ、おトリさん。

B アニシバラクダッタムシ。

ああ、しばらくだったねえ。

A マニヒサシブリダネーカ。

ああ、久し振りじゃないか。

B アニヒサシブリダッタムシ。

ああ、久し振りだったねえ。

A ベツニ ビヨーネモ (<sup>B</sup>アニ。)シナカッタカマー。

別に 病気も (<sup>B</sup>ああ。) しなかったがね。

B アー オイモ マー ソイデモ ヨワラズニ マー カセーデ<sup>(2)</sup>

ああ、私もまあそれでも弱らずにまあ精出して働いていた

トコダ。

ところだ。

A アー ヨカッタ ゲダイ。 (B ア-。) オトリサン<sup>(3)</sup> …。

ああ 良かったようだね。 (B ああ。) おトリさん

B コンター<sup>(4)</sup> タッシャ ダイノ。

あなたは 達者 かね。

A ア-。

ああ。

B ヨカッタ …

良かった …

A ケ-コ<sup>(5)</sup> シナカッタ カヤ。

養蚕 しながったかね。

B ケ-コ- シネ- ダサー。 (A ア-。ソ-カイ) ダカ-<sup>(6)</sup> チッタ-  
養蚕 しないのだよ。 (A ああ。そう かね) だから 少しは  
ラク- シタ トコサー。  
樂を した ところさ。

A ヘ-。オラ- ケ-コ- シタフ ケダ ケド サー。 (B シ-。)

へえ。 私は 養蚕 したわけだけさあ。 (B うん。)

B ジマ- ツカレタチ-。

では 疲れたなあ。

A アー。ソ<sub>xx</sub> リイデモ サー オラ- クワ クレル ッキリ テ (B シ-)

ああ。 それでもさあ、 私は 桑を やる だけで (B うん。)

アノ コガ トッテ キ<sub>1</sub>チャ-<sup>(7)</sup> クレルカ-<sup>(8)</sup>。

あのう 子供が って きては くれるから。

B シ- ソイジマ- チッタ- ラクガ デキライチ-。

ふうん それでは 少しは 樂が できるよなあ。

A イッコニ セワーネーサ。

一向 世話がないさ。

B ムカシノ ヨージャ ネー。<sup>(Aアーノ)</sup> ショワット<sup>(9)</sup> イーモノー。

昔の 様では ない。<sup>(Aああ。)</sup> (桑を)背負わなくても いいもの。

A アー。マーリアレダケド オメーラガチジャ ワケーシガ アサ  
ああ。まあ あれだけど あなた達の家では 若い人達が 朝  
イチ ネーンジュー イグデ<sup>(Bアーノ)</sup> イ一ゲダイ。  
市に 年中 行くので<sup>(Bああ。)</sup> いいようだね。

B リイダッテ ケーコー シネーダモノー<sup>(Aンーンー)</sup> アサイチ

それでも 畜産を しないのだもの 朝市

グレー チッターナシナケリヤ マッテゲネーヤイ ダッテ<sup>(10)</sup>。

ぐらい 少しは しなければ やつていけないよ、 だって。

A リンナ コターネーサー。<sup>(B笑)</sup> オメーラガチジャ マーズ ア  
そんな ことは ないさ。 あなた達の家では まあず あ  
レダッチュグレー コンニックガ オメー<sup>(Bアーノ)</sup> ナンチョーブ  
れだというぐらい 菊 菊が、 あなた<sup>(Bああ。)</sup> 何町歩  
モ アルダッチューモノー。

も 有るのだというものの。

B コンニック コンニック センモンダッチューフーダー。<sup>(Aン</sup>

菊 菊 専門だという風だ。<sup>(Aう、</sup>

ン。) ハド インキヨサマダカラサー <sup>(Aオラガチナンザー<sup>ー</sup>)</sup>

うん。) だけど 隠居様だからさあ,<sup>(A私の家などはさあ)</sup>

イッコニ セワーネー。

一向 世話がない。

A オラガ ウチナンザ<sup>(11)</sup> アレダデ オメーラガチノ キゴト アレ

私の 家などは あれだよ、 あなた達の家の 木ごと あれ

タオ<sup>(12)</sup> セリアウグレーシカ ウ子ノテ ネーダテ<sup>(13)</sup>。

だよ、競り合う位 しか 家ので 無いのだよ。

B アー リーカイ。(A アー。) ソイデモ マー イロイロ スルカ  
ああ そうかね。(A ああ。) それでも まあ 色々 するが  
ラ。(イロイロ、タッテ) オラガチワ ソレッキリダモノー。  
う。(A 色々といつても) 私の家は それきりだもの。

A ダメサー オ<sub>x</sub> オッカーガ<sup>(14)</sup> オラガチジマ ホラ オツトメダッペ  
駄目さあ、お母が 私の家では ほら、お勤めだろう。

二。

B ン ソレダカラ イーマイ。

それだから いいよ。

A アー。ソレダカラ イッコイ アイサー オレガ ウチューマ<sub>x</sub> マゴマ  
ああ。それだから 一向 あれさあ、私が 家を。まごま  
ゴ シテルダカラ リージモ(B アー) シナケリマ ヒテ モンザ。  
ごしているものだから 掃除も(B ああ) しなければ ひどい ものさ。

B ソイダッテ イーヤ(A 笑) イロイロ スレバ ホンナ<sup>(15)</sup> デキネー<sup>一</sup>  
それだって いいよ、色々 すれば そんな できない  
モノ。ウチューチレニ スレバ シゴトガ デキネー。  
もの。家を きれいに すれば 仕事が できない。

A マー ハヤク イエバ オーチャクナ ホーサチ。リージ シネ  
まあ 一言で 言えば 横着な 方さなあ。掃除をしな  
ーナンチューニ(B ン) ナー。(笑)  
いなど という のは。

B オーチャクデモ ネーヤ。ソイダケ ャレバ オーテキダ。オラガチ  
横着でも ないよ。それだけ やれば 大出来だ。私の家

ナン<sup>(16)</sup> ナー三毛 シネーッタッテ イッコ (A やー ザ) ナニモ  
などは 何も しなくても 一向, 何も  
シネー。  
しない。

A ダメダイナー。オタガイニ ホラ トシートルト。

駄目だよなあ。お互いに ほら、年を とると。

B デモ ヨメゴガサー アサイチニ イッチャ一 ソイデ マー ク  
でも 嫁がさあ 朝市に 行っては それで まあ く  
ルカ一 (A シー) カセグ ラケジマ ネンカヤ,  
るから 繰ぐ わけでは ないの。

A ソニダイネー。

そうだよねえ。

B デ ココノチ<sup>(17)</sup> ヨニ イロイロ シネーダカラ (A シー)  
ここ家の 様に 色々 しないのだから  
ソレッキリダカ一。(笑)

それきりだから。

A ダッテ一 オタガイニ タチバガ アルカラサー (B アー)  
だって お互いに 立場が あるからさ (B ああ)  
ショーガネーダイナー。デ コドモガ ...  
仕方が ないよ なあ。 子供が ...

B タダ ラ タダ ラク一 シテモ オラガ スル 下キノ ヨージャ  
ただ ただ(嫁)渠を しても 私が する 時の 様では  
ネーサー。(A シー) ハーコモ シナキマ ナニモ シネーダカ一。  
ないさ。 養蚕も しなければ 何も しないのだから。  
アサイチダケダ。  
朝市だけだ。

- A ダッテ オラー ケーザイガ ソレデ ャッテゲレバ (B ハー。)  
 だって ほら 経済が それで やっていければ (B はあ。)  
 イーダイ。  
 いいよ。
- B マー イート スルダイナー。  
 まあ、いいヒ するのだよなあ。
- A ンニ。ツテ ホネー オルベーガ (B ナー) ノージャ アンメー。  
 骨を 折るばかりが 能では あるまい。  
 (B 咳払) オレガ ウチニ イル ジブンナンザー ホントニナ  
 私が 家に いる 時分などは 本当に なあ  
 ー (B 笑) アサハンメーニ オメー ウチジュー<sup>(18)</sup>デ アサ アレダ  
 朝飯前 に、あなた、家中で あれだ  
 ッペー (B 笑) サクモリ イッテ キテ。 (B リーダ。<sup>(19)</sup> 笑)  
 ろう、 さくせりに 行って きて。 (B そうだ。 )
- オメラガ ウエノ キリドーシ ノボットグト ヴーット スルホド  
 あなた達の家の 上の 切通しを 登っていくと ぞっと するほど  
 サブカッタデー。 (B 笑)  
 寒かったよ。
- B リンナ 下キダッテ (A ンニ) アサズクリ<sup>(19)</sup> シタダモンナ—。  
 そんな 時 だって 朝づくりを したのなものなあ。
- A アンナ オメー シタッテ イッコ<sup>(20)</sup> 口 口クニナー ナニモ  
 あんな 思いを しても 一向 ろくになあ、 何も  
 トリヤー サレネンダ<sup>(20)</sup>。 (B 笑) イマナシザ オーチャクー シー  
 取れは しないのだ。 今などは 横着 しな  
 シー トレレダモノ テーテー<sup>(21)</sup> イーヤイ。  
 がら 取れるのるもの たいそう いいよ。

B ジドーシャエ ノリハッテ。(笑) (<sup>A</sup>アー。) ムカシノ コト  
自動車に 乗り回って。 (<sup>A</sup>ああ。) 昔の 事を  
イバサー オラガチ ワケーヌノ ワローケド<sup>(22)</sup>マ一 ショニガ  
言えばさあ、 私の家の 若い人達が 笑うけど、 まあ、 仕方が  
ネーマイ。  
ないよ。

A アー。 (B 咳払)  
ああ。

間<sup>(23)</sup>



B ソイジャ一 マ一。  
それでは まあ。

A ソイジャ一 マ一 マタ一 (<sup>B</sup>アー。) イキオーベー。  
それでは まあ また (<sup>B</sup>ああ。) 会おう。

B マタ一 イキオーベー。ネ<sup>ヤ</sup>。  
また 会おう。 ねえ。

A マ一 オタガイニ タッシャテ。  
ああ、 お互に 達者で。

B アー カラド一 キオ ツイテ (<sup>A</sup>キオ ツイテ クラスベー。)  
ああ、 身体を 気を つけて (<sup>A</sup>気を つけて くらそう。)  
マ一 (<sup>A</sup>アー。) カセガッシャイ。  
まあ (<sup>A</sup>ああ。) 精出してお働きなさい。

A ジャ一 ゴメンナサイ。  
では 御免なさい。

B アイ。

はい。

### 注

- (1) 「ダネーカ」の「ダ」は、断定の意を表す助動詞ではなく、「デワ」の融合した、「ジマ」の変異形と考えられる。
- (2) 「カセグ」は、金銭的収入を得るという意ではなく、精を出して働く、という意味である。
- (3) 「オトリサン」は、呼びかけ表現。続けて何かを言おうとしたが、次のBの発話によってさえぎられた。
- (4) 「コンタ」は、「こなた」の変化した形。群馬県では、利根郡・吾妻郡で用いられる。敬意はない。
- (5) 「ケーコ」は、「カイコ(蚕)」の融合形。
- (6) 「ダカー」は、「ダカラ」の弱まり形。
- (7) 「トッテ キチュー」は、[totte kitchū]のように発音される。「キ」は、気音が激しく、「シ」のようにも聞こえる。
- (8) 「クレル」の「ル」の母音はあいまい。「カー」は、「カラ」の弱まり形。
- (9) 「ショワット」は、「ショワズトモ」の変化した形。
- (10) 「ダッテ」は、逆接の接続助詞の反復。この後同席の小林弥太郎の笑いが聞こえる。
- (11) 反復になっているが、はじめの発話は、Bの発話と重なってしまって、二度目には、はっきり言おうとして、「オラガウチ」と基本形式を用い、弱まり形「オラガチ」を用いていない。
- (12) 「アレダオ」は、「アレダヨ」の弱まり形。
- (13) 「うちで作っている分全体であなたの家で作っている一本のこんにゃくの木と競り合う位しかないから」の意。相手がたくさん栽培していることのオーバーな表現。
- (14) 「オッカー」は、家の主婦・息子の嫁をさしている。

- (15) 「ホンナ」は、ひとまとまりに早口で発話。「ソンナ」の弱まり形。
- (16) 「オラガチナン」は、「オラガチナンザー」の弱まり形。
- (17) 「ココノチ」は、相手の家を指している。
- (18) 結婚前の時。
- (19) 朝仕事。
- (20) 「トリヤー サレネンダ」は、「トリヤー サレネーノダ」の弱まり形で、「サレネー」は、サ変動詞に可能の助動詞、打消の助動詞が後接したもの。
- (21) 「テー テー」は、「大抵」の融合形で、「たいていでない」の意を込めて、「たいそう」という意味で用いられている。
- (22) 7行五段活用動詞で終止形が「一マウ」となるもの（笑う・洗うなど）は、融合して「一オー」となる。
- (23) Bの咳払の後の間の部分に、収録担当者上野勇の発話が入っている。

### 3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
S	鈴木 ぎん	女	明治37年生まれ

A	綱仲 きん	女	明治30年生まれ
---	-------	---	----------

A バーサン ドイ イグダカ。  
ばあさん どこへ 行くのかい。

S アイヨ イマノー (A ンー) フネガ ヘッテ クンタッペト  
あいよ 今ね 船が 入って くるだろうと  
オモッテノー ハマー ミー インベト オモッテ。  
思ってねえ 浜を 見に 行こうと 思って。

A アンノ イマ リョーガ アルカヤ。  
何の 今 漁が あるかい。

S エ タイシタ リョーガ ネッケンサーा。  
え たいした 漁が ないけど。

A ハー。デ コノアイダワ ムラガ<sup>(1)</sup> マタ ゴッツォサマデシタ  
はあ。で、この間は むらが また 御馳走さまでした  
オサカナ モラッテ。  
お魚 貰って。

S ヨー ツマラネ モンデーヤー。  
よう つまらない 物で。

A ウン ウン デ マタ (S 夕) コンダサ (S アイヨ)  
うん うん で、また 今度さ (あいよ)  
アッタラ アンデン メッケトイテ クラッシュエーヨー。  
あったら 何でも 見つけておいで くださいよ。

S エー マタノー (A ウン) イマ イッテサ。ハ ジキ  
またねえ (うん) 今 行ってさ。もう ジキ  
フネガ ヘッテ クンタッペカラ マタ ツマラネ (A ンー)  
船が 入って 来るだろうから また つまらない  
モンデン アッタラ モッテ トドケベヤー。  
ものでも あったら 持って 届けましょうよ。

A ハハニ。 オメ タッシャテ イーノー。 (S 笑) オンデ…  
ええ。 あんたは 健康で いいねえ。

S マ イマン ブンデワノニ。 (A ン一) ベツニ イテー トイ  
ま 今 の ところはねえ。 別に 痛い ところ  
モ (A ホーカ) ナシサ アンダカラ コーシテ ハタライテ  
も ( そうか ) ないし あればから こうして 働いて  
イラデヤ。  
いるんですよ。

A ホンデ トシコサン<sup>(2)</sup> ホーワ アノー アジョダカヨ コノゴロワ。  
それで とし子さんの 方は どうですかね このごろは、

S ハイヨ コノアイダ チョットノー (A ン一) デンワ ヨゴ  
はいよ この 間 ちょっとね 電話 よこ  
シタッケンサ ハ フタンノ コドモガ ヒトリワ ショーガッコ  
したけどさ。 もう 二人の 子どもが、 一人は 小学校  
ニネンセー。 (A ン一) コトシヤ コノ ニガツデモッテノー  
二年生。 ことしは この 二月でもってねえ  
フタタンジョーニ ナッダヨー。  
ニ 誕生に なるんですよ。

A ハー ホッテ イッタノー オメモ マゴワ アルシ ジョートダ  
はあ それで よかったねえ あんたも 孫は あるし 上等だ  
デー。  
ねえ。

S アイ アリガト (A ン一) ゴザンスヤ。 ダッケンノ ホラ  
あい ありがとう ございますよ。 だけどね。 ほら  
ハ ヒトッテ ネッペト オモッテタラノー (A ン一)  
もう 一人で ないだろうと 思っていたらね

イマン ナッテ ホラ コトシデ ニガツデ フタタンジョ タ  
今に なって ほら ことして 二月で 二誕生だ  
デキタカラノ<sup>(4)</sup> ヨロコンデルヨー.  
できたからね よろこんでいるよ.

A アー オメラ ジーサンモ タッシャダシサ (S 笑) ミンナ  
ああ お宅の じいさんも 元気だしね みんな  
ヨーテ イーヤデ。  
よくて いいですね。

S アリガトー ゴザンスヤ. イマノ ブンデワ マー (A エー)  
ありがとう ございますよ. 今の ぶんでは まあ  
ノー オメモ イヤデーヤー. コラー オメダッテ ャッパリ  
ねえ あんたも いいですねえ. これは あんただって やっぱり  
タッシャデ ハー コドモワ ミンナ マゴワ オッキュー ナッ  
元氣で 子どもは みんな 孫は 大きく なっ  
チマッテサー オメホソ ハー ホット シタッペヤー ~~~~~  
てしまってさあ あんたこそ もう ほっと したでしょうよ.

A タダ オラー マー ノー コッデヤ コドモガ スクネッタカラ  
たたかわたしは まあ ねえ これで 子どもが 少なかったから  
サ マー マゴデモッテ (笑いながら) マ タノシンデルカラ  
さ まあ 孫によって ま 楽しんでいるから  
ヨ.  
よ.

S ジョトーダヨ オメーワヨー。  
上等だよ あんたはさあ。

A マ オタゲニサ (S アイヨ マニヨ) ジョブデ イベヤー (笑)  
ま お互いにさ ( あいよ まあ ) 丈夫で いいでしょう

- S イヨー ホンデマ。 イッテクイカ<sup>ン</sup>ノ サヨナラ。  
じゃあ それでは。 行ってくるからね サよなら。
- A アー ジヤ イッテ (S ン一) キャッセーヨ。  
ああ じゃ 行って きなさいよ。
- S アイ サヨナラ。 イッテキマスヨ。  
あい、 サようなら。 行ってきますよ。

### 注

- (1) むらが — むらは家族の名前か。
- (2) とし子 — 鈴木ぎんさんの末っ子。
- (3) ことしは ~ 二誕生になるんですよ — 「二番目の子どもは」が省略されているため、二年生の子が二誕生を迎えるようにとれる。
- (4) 今になつて ~ できたからね — 「今になつて、ほらことしの二月で二誕生の子どもができたからね」の意で、=の部分が省略されている。

## 4. 新潟県柏崎市大字折居字餅糰

### 話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	高橋 チユノ	女	明治34年生まれ
B	高橋 ミサノ	女	明治39年生まれ

B アー コンチワ.

ああ こんなにちは。

A ハエ. マニ … (笑)

はい.

B ダッタト モータラ オマエサンダネー.

誰かと 思ったら あんただねえ。

A ダースケア マー オマエサン アノ アッデスカ アノ ドコエ  
だから まあ あんた あの なんですか あの どこへ  
エッテ ゴザシタネー。 エヤ ドコエ エキナサルネ。  
行って 来られましたね。 いや どこへ おいでですか。

B オレカネ (A ハエ.) オラ ナカシマノ ホアーテモ チョコリ  
わたしかね、( はい.) わたし 中島の 方へでも ちょっと  
エッテ コアート モーテ エタンダードモ.  
行って 来ようと 思って いたのだけれども。

A ア ソーカ. オレモネ チョエト アコラマデ エッテ  
ああ そうか。 わたしもね ちょっと あの辺まで 行って  
キタンダガ モドリニヤ ヨッテ マー オチャノ エッペアモ  
来たのだが、帰りには 寄って まあ お茶の 一杯も  
ノンデッテ クラサエネ。  
飲んで行って 下さいよ。

B アリガトナー ゴザエマス.  
ありがとうございます。

A ンニ.  
うん。

B アーン コトシノ ボンワ フッテバーッカ エテ コマッタ  
ああ 今年の お盆は 降ってばかり いて 困ったじゃ

ネアーカネ.

ないかね.

A ソアーデスネー. マー タビカラ オキックモ キマシタドモ  
そうですねえ. まあ よそから お客様 来ましたけれども  
カエスイヨクネモ エカンネアシ ウチデモッテ ニヤクヤ シテ  
海水浴にも 行けないし 家で のりくらりとして  
マシタガ (B ソアーデスネー.) アッデスエネ マーマー コレ  
いましたが、( そうですねえ.) なんですね、まあまあ これ  
カラ チッター ハレテ モラワンケラー オーゴトダ"ネー.  
から 少しは 晴れて もらわなければ 大変だ"ねえ.

B ホンーネ コマッタ トシデシタンガ.  
ほんとうに 困った 年でしたから.

A ソアーダネー.  
そうだ"ねえ.

B マー ニンゲンモ カゼ ヒクヨアーダシ (A 笑) エネモ  
まあ 人間も 風邪を 引くようだ"し 稲も  
カゼ ヒクヨアーダシネー.  
風邪を 引くようだ"しねえ.

A マー ホンネ アキガ アンジラレルヨアーダエネ.  
まあ ほんとに 秋が 案じられるようですよ.

B ソアーデスネー. (A ン一) オマエサン ソッテ ボンウチ  
そうですねえ. ( うん) あんたは それで 盆中  
ナントモ ノアーテ……  
なんとも 無くて……

A アー マー (B アンデシタカ.<sup>(7)</sup>) オカゲサンデ ミンナ  
ああ まあ ( なんでしたか.) お陰さんで みんな

ソア一 カーチャンヤ コドモガ ハタラエテ クッテ エマシタ  
それ 嫁や 子供が 働いて くれて いました  
ドモ ナカナカ アメバッカ フッテマスエネ <sup>(8)</sup> ソトエモ デラン  
けれどもなかなか 雨ばかり 降っていますから 外にも 出られ  
ネアシ アッデスエネ コマッタ モンデスエネ.  
ないし なんですよ 困った もんですよ。

B ホーンネ コトシワネー オキックガ エッペー<sup>(9)</sup> アッテソア一.  
ほんとうに 今年はねえ お客様が たくさん あつてさ.

A アー ソーーー ソーーー.  
ああ そうか そうか.

B ホアーシテ コトシヤ ホレ ヤサエガ ネー トシダローネー.  
そして 今年は それ 野菜が 無い 年だろうね.

A ンーーー.  
うん うん.

B ハナシ キータラ ホアーボージューデ マー フソクダナンテ  
話を 聞けば あちらでもこちらでも まあ 不足だなどという  
ハナシ キキマシタガソア一.  
話を 聞きましたがさ.

A ソーーー コトシワ エッパンネネー マー カタデリ カタ  
そうそう 今年は 一般にねえ まあ 片照り 片  
<sup>(10)</sup> ブリノヨアーナ ワケデ ヤサエモンガ デキガ ワーリテ<sup>(11)</sup> ミンナ  
降りのような わけで 野菜が 出来が 悪くて みんなが  
フジュー シマシトアーネ.  
不自由 しましたよね.

B ソーーー<sup>(12)</sup>スネ。 オメアサン コレカラ ドコエ エカッシャルネ。  
そうですね。 あんた これから どこへ 行かれるね.

- A コレカラネー オラー (笑) オワ アッデスエネ ヨージネ  
 これからねえ わたしは (わたしひ) なんですよ 用事に、  
 ヘー アサシゴト(13) エッテ キタンデスエネ。 (B アソッカ  
 朝飯前の仕事に 行って 来たのですよ。 あ そうか  
 ソッカ.) ハー。 マー コレカラ ウチネ エルスケーサ  
 そうか.) はあ。 まあ これからは 家に 居るからさ  
 (B ハエ.) アー ヨッテ アノー モドリニヤ (B ハエ.)  
 はい。 ああ 寄って、あの 帰りには はい。  
 ヨッテ マー オチャデモ ノンデ (B アリガト(14) ゴザエ  
 寄って まあ お茶でも 飲んで ありがとう ござい  
 マス。) マタ セケンバナシデモ シテ ケーッテ クダサエ。  
 ます。) また 世間話でも して 帰って 下さい。  
 B ソアーデスネー マタ ヨシテモエードモ キヨアーワ マタ  
 そうですねえ また 寄せてもらうけれども 今日は また  
 オレ エソガシースケ (A アーー。) アトデ マタ  
 わたし 忙しいから ああ ああ。 あとで また  
 ヨシテ モラフエ。  
 寄せて もらいますよ。
- A シー ソアーダネ。 (B ハー) イヤ マタ エネカリガ ハジ  
 うん そうだね。 はあ やあ。 また 稲刈りが 始  
 マルマデモ モー チット アエモ アルシー…… マー オボン  
 まるまでには もう 少し 間も あるし まあ お盆  
 メーウチャー サンザ アレシテ ツカレテモ エルスケ(15)  
 前の間は さんざん なにして 疲れても いるから  
 チッター アッデスコテ ユルヤカニ シマショアーサネー。  
 少しは なんですよ ゆっくりと やりましょうよねえ。

B ソアーデスネ.

うですね。

A ハー。

はあ。

B マーマー コッテ ワカレヨーサネ.

まあまあ、これで 別れようね。

A (笑) ソアーダネー。(笑)

うだねえ。

B マタ ソノ ウチニ ウチン ナカデモツテ ユックリト マタ

また その うちに 家の 中で ゆっくりと また

(A 笑 シー ソアーダネー。.) オチャデモ ノンデ アレ  
うん うだねえ。) お茶でも 飲んで なにを

スルガニ。

するのに(して)。

A マニ マタ アキガ クルト (B 咳払い) チャント シテモ  
まあ また 秋が 来ると じっと しても

<sup>(17)</sup> エラレマセンスケアー マー エマノ ドコ チョエト シテエキ  
居られませんから まあ 今の ところ ちょっと 一息

シテ マタ マー ハタラキマスコテ。

して、また まあ 働きますよ。

B ジャ サエナラー。

では さようなら。

A アエ ジャ マー エッテ ゴザシッテ クダサエ。

あい、では まあ 行って おいでになつて 下さい。

B ハエ。

はい。

## 注

- (1) ナカシマ 地名。小字の名。
- (2) エタンダドモ 発音がは、きりせず。話し手にきいて分った。
- (3) タビ 他郷、県外の土地。
- (4) ニヤクヤ 副詞。ぶらぶら。なにをするでもなくすぐさま。  
「にやくや」「にやふや」(あいまいでは、きりしないさま)の意で  
辞書にも載っている。茨城県・滋賀県方言に「ニヤクヤ」(あいまい  
なさま)がある。
- (5) ンガ 「モンガ」の変化。理由原因を表わす接続助詞だが、ここでは終助詞となり余韻を残しておわる。全年層用語。
- (6) エネモカゼヒク 稲が冷雨のために病害を受けることを「風邪を引く」とおもしろく表現した。「フケガハイル」又は「アケガハイル」と言って葉や穂首に赤茶色の斑点が出来る、いもち病の発生をさすらしい。
- (7) は、きりしない。話し手にたずねて「アンデシタカ」(あれでしたか)であることが分った。
- (8) エネ 接続助詞。理由原因を表わす。老年層用語。「エニ」の変化。語原は「故に」であろうか。
- (9) ソーー [so:] 間投助詞。又、終助詞。確認・強調の気持をこめて訴え話しかけたり、口調をととのえたりする。「サ」より古くそれよりやや多用されるように思われる。主として老人層語である。名詞「こと」助動詞「う・よう」に下接して文末に来、また連体詞「あの・この」格助詞「が」「から」接続助詞「で・て・たら」に下接して文節末に来る。この中「て」に下接する間投助詞の例が最も多い。間投助詞「サ」「ネ」に最もよく似ている。馬瀬良雄氏は長野県の「サオ一」を「候」に由来するとされた。中越南部方言に多く用いられ長野県奥信濃地方にまで及んでいる。この対話では話し手Bが「ソーアー」を、Aが「サ」を多く使用している。その差の意味は未詳。
- (10) カタデリ・カタブリ 共通語「偏照り・偏降り」。
- (11) ワーリテ 「わるくて」の変化。形容詞は語頭音を固定的に長音化

する傾向がある。

- (12) ッシャル 四段活用動詞に下接する尊敬の助動詞。
- (13) アサシゴト 朝飯前にする作業。
- (14) サ 間投助詞。Aはここを「ソアー」とは言わないといふ。
- (15) モアー 「貰う」の終止形。モロアーフモアー [r] の脱落。この方言では終止形はモラウと連母音であることが多いようである。
- (16) アレシテ 忙しく働いてということを言いたかったのであろう。
- (17) シトエキ [ʃi] か [ʃi] か微妙である。

## 5. 長野県上伊那郡中川村南向

話し手

(略号)

(性)

(生年)

A 清水 ちま	女	明治37年生まれ
B 寺沢 直江	女	大正3年生まれ

A コンニチワ

今日は。

B アー コンニチワ

今日は。

A ヨ<sup>(1)</sup> ヨー<sup>(2)</sup> オネーサン<sup>(2)</sup> ドチラエ オイ テ"ルノー<sup>(1)</sup>  
良く お姫さん どちらへ いらっしゃるの。

B ウン チョット<sup>(3)</sup> カイモノイ イッテ コット<sup>(4)</sup> オモッテナー  
ちょっと 買物に 行って 来ようと 思ってね。

A フントー ソー イエバ マー コナイダ"ワ マー オイシー オ  
そうですか。 そう 言えば この間は おいしい お  
カシオ タクサン イタダイテ スイマセナンダ" (B ハ二)  
菓子を 沢山 いただいて 済みませんでした,

アリガト ゴザイマシタ  
ありがとうございました。

B ホーンノ スコーシバカリテ" アノ トーキョーニ オル ムスコ  
ほんの 少しばかりで 東京に いる 息子が  
か。 オクッテ クレタモンデナー チョットバカデ" オカシカッタ  
送って くれたものだからね。 ちょっとばかりで おかしかった  
ナウン  
ね。

A イーエ イーエ ソンナ ドコカナー ソエデモー オウチノ ム  
いいえ、 いいえ、 とんでもありません。 それでも お宅の 息  
スコサンワ ホントニ オヤコーコーデー オアリテー<sup>(5)</sup> イマ ド  
子さんは 本当に 親孝行で いらっしゃつやつて…。 今 ド  
一コニ オツトメテ オイデルノエナーシー  
こに お勧めで いらっしゃるんです?

B テンキカイシャニ イットレンダ"ケードナー  
電気会社に 行っているんだけれどね。

A アレ ソー カナー マダー ソイジャー シトリデー<sup>(6)</sup> オイデルノ  
あれ、 そうですか。 まだ それでは 一人で いらっしゃるの?

B フン ハエ ハチン ナッタデ" ボツボツ ヨメサマーデモ ムラ  
もう 八に なったから、 ぼつぼつ お嫁さんでも 貰わ

ワニヤート モ ケード ダレカ イー ヒタ ナイラカナー オ  
なければと 思うけれど、誰か 良い 人は ないでしょうかね，  
バサマー  
おばさま。

- A アルレッテヤー アルク<sup>ア</sup>ライジヤ ナイテ" マター ヨリアッテ ミ  
ありますよ。 あるところでは ないから。 また 一緒に手伝って  
ツケズ"ナーシー  
見つけましょうね。
- B オネガイ<sup>(7)</sup> モーシマス  
お願ひ いたします。
- A ソイジヤ マー マタ アノー オヨメ~~ヨメ~~ ヨメサマワ キンジョノ  
それでは また， お嫁さんは 近所の  
シトガ<sup>ア</sup> イーッテ ユーテー (B エー) アノー キゴコロ~~コロ~~<sup>カ</sup>  
人が 良いと 言うから， 気心が  
シレトッテ イーデ" マタ ヨリアッテ ミツケズ"ナーシー  
知れていて 良いから， また 一緒に手伝って 見つけましょうね。
- B アノー イマン トコジヤー ウチノ ムスコモー イー シトモ  
今の ところでは， うちの 息子も 良い 人も  
ナイラシーデ ドーカ マー アノ ココロガケトイテ オネガイ  
ないらしいので， どうか 心掛けでおいて お願い  
モーシマス  
いたします。
- A ソエジヤ マー オダイジニ (B ア-) イットトイデナンショ  
それでは お気をつけて 行っていらっしゃい。
- B アリカト ゴザイマス ソレジヤー マー ゴメンナイショ  
ありがとうございます それでは ごめんください。

### 注

- (1) ヨーはヨク（良く）のイ音便形。
- (2) オネーサンは自分より年の若い女性を親しんで呼ぶ語。「お上さん」と訳してもよい。
- (3) チョットの前に言いよどみがある。
- (4) コズト（来ようと）の音韻変化。
- (5) オアリル（「ある」の敬語）の連用形に -テが下接したもの。
- (6) シトリテーのあとに言いよどみがある。
- (7) オネカイの前に言いよどみがある。

## 6. 静岡市南字中村

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

D 佐藤 とし 女 大正4年生まれ

E 後藤百々代 女 大正2年生まれ

E アー コンチワ。

ああ 今日は。

D ア コンチワ。 キョーワ エー テンキダヨ。

あ 今日は。 きょうは いい お天気だよ。

- E オメー ドッカエ イクダカ イマッカラ……。  
お前 どこかへ 行くのか 今から……。
- D ンー イマッカラナ ヤギサンエ チョックラ カイモンニ イク  
うん 今からな ハ木さんへ ちょっと 買物に 行く  
ダヨ。  
んだよ。
- E アー センコラー ワリーッケヤー アンナ アノー エー オカ  
ああ 先日は わるかったねえ。 あんなに、 いい お菓  
シヨー タクサン モラッテ……。  
子を たくさん もらって……。
- D ンー トーキョー ムスコガナ オクッテクレタモンデサ。  
うん 東京の 息子がな、 送ってくれたものでさ。  
チーットバカダケーガ……。  
少しばかりだけれど……。
- E ~~アンタッチヨ~~ オマッチノ ワケーシワ マダ ~~ド~~ ドケーツトメ  
あなたの家ね お前の家の 若い衆は まだ どこへ 勤め  
テル。  
ている？
- D デンキガイシャエ ツトメテルダヨ。  
電気会社へ 勤めているんだよ。
- E ~~マ~~ ~~マダ~~ マダ ヒ アノー ヒ ヒトリデ イル。  
まだ 独身で いる？
- D マー ニジューハチン ナッタダケーガナ アノー コマルダヨ  
まあ 二十八に なったんだがな（まだ独身で）困るんだよ。  
ダレカ イー ヒト ナエーカナー。  
だれか いい 人 ないかなあ。

- E ジブンデ ハエー エー ヒト ミッケテ アルダカモ シレネーワ。  
自分で もう いい 人を 見つけて あるのかも しれない。
- D ダレモ イナイラシーヨ。 ハタラキガ ワルクテ。 ドッカニ  
だれも いないらしいよ。 働きが わるくて。 どこかに  
イー ヒト アッタラ オセーテヤー。  
いい 人が いたら 教えてよ。
- E ソーダナー イナカノ ヒトガ イーダカー マチノ ヒトガ  
そうだなあ 田舎の 人が いいのか 町の 人が  
イーダカナー。  
いいのかなあ。
- D ドコノ ヒトデモ イーヨ。 アノー キテクレシャーシリヤー  
どこの 人でも いいよ。 来てくれさえすれば  
イーダンテ ……。  
いいんだから ……。
- E ソーダナー。 マタ ヘージャー エー ムスメ アッタラ キオツ  
そうだなあ。 また それじゃ いい 娘が いたら 気をつ  
ケテ アノ ミテテミルヨ。  
けて 注意していくみるよ。
- D ンー タノムヤー。  
うん 頼むよ。
- E ヘージャー イッテクリヤーエー。  
それじゃ 行ってくれればいい。

## 7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

K 小林ハルコ 女 明治41年生まれ

T 堤 ふじよ 女 明治39年生まれ

K 「ホイ アンタワ ナン アノ オメーワ ナンダ」 ヒラオカノ  
おい あんたは あの お前は 何? 平岡の  
ナニー セッコツイ 「イツ イッテキタ.  
何へ 接骨院へ いつ 行ってきた?

T ホー オトトイ イッテキタヨ (K オトツイ イッテキタニ)  
うん おととい 行ってきたよ ( おととい 行ってきた?! )  
オトトイ イッテキタ.  
おととい 行ってきた.

K オリヤー キョー イッテキタ.  
私は 今日 行ってきた.

T キョー イッテキタ.  
今日 行ってきた?!

K キョー イッテキタ.  
今日 行ってきた.

T フントー.  
本当 (そうですか).

K 「ケサ ニバン」 アノー ハチジー イカットモッタガ。  
けさ 二番列車 の 八時に 行こうと思ったが。

T エー。  
ええ。

K ハチジマートモッテ ノリオクレタデ ソレカラ「クジヨン  
八時前と思って 乗り遅れたので それから 九時四…  
ゴジューアップンデ イッテキタ。  
五十一分で 行ってきた。

T ホント オリヤー (K エニ) ナンダニ シート オトツイニ  
本当に 私は 何ですよ おとといに  
ナナナナ ヒチジ イッタ。  
七、七時に 行った。

K ホー (T エー) ソイデ イッテミタラネー (T エー)  
ほう それで 行って見たね  
アレ アノー ハヤシサンノ「ミヤコサン オッテ。  
あれ あの 林さんの みや子さんが いて。

T エー。  
ええ。

K ソレカラ シャツ シテモラットタワイネ (T アーホント)  
それから 指圧 してもらっていたよ (ああ 本当)  
ソレカラ マー ワシモ ソノウチニ ヘーカラ シアツ ヤッテ  
それから まあ 私も そのうちに それから 指圧 やって  
クレテネー。  
くれてね。

T ヘー。  
はい。

- K ソレカラ マー ニ イチジョンジュー イチジョンジーナンパン  
 それから まあ 一時四十 一時四十何分  
 カノ デンシャデネ キタヨー。  
 かの 電車でね 来たんですよ。
- T カエッター。  
 帰ったの。
- K ウン キテタ キタヨー。  
 うん きて、 来たよ。
- T シニ フント オレモ ヒチジュー ヒチジ ヒチジ ゴジュー  
 私も 七十 いや、七時 七時 五十  
 ナンパンダヨー ムコーオネー (K ホッホー) ウン ソーシテ  
 何分だよ むこうをね うん そうして  
 ヴチデ アノ ボーカージュオ カッテコイチューモンダデヨー<sup>1)</sup>  
 家で あの 買ってこいといふのでね  
 (K ホー) エー (K ホー) チャッ<sup>(1)</sup> アノ ハヤク  
 早く(のいいさし)あの 早く  
 イカニヤー ノリオクレルニッテ (K エー) ユーモンデヨー  
 行かねば 乗り遅れるよって いふのでね  
 (K ホー) ソイデ トンデ<sup>2)</sup> (K ホー) アノ クミアイマデ<sup>3)</sup>  
 それで 駆けて あの 組合まで  
 ノーキョーマデ トンデッテヨ。  
 農協まで 駆けてってね。
- K エライ ハレ (T エー) エラカッツラ。  
 たいへんだったでしょ。
- T ソイデ カッテ ソイカラ イヌノ ナニガ ナイモンダデ<sup>4)</sup>  
 それで 買って それから 犬の 何が ないので

アノー ミツノ イヌオ カットルモンデテニ。  
あのう 三匹の 犬を 飼っているのでね。

K ハニ。  
はあ。

T ソイダモンデ ナンダ ムギガ ナクナッタモンデ (K ホー)  
だから 何だ 麦が なくなったので  
タノマレリヤ セナンダガネー ソイデモ ソレオ マタ カッテ  
頼まれは しなかったがね それでも それを 又 買って  
ヨ イソイデ (K シニ ホー) サテ ソレオ カツイデヨ  
ね 急いで サテ それを かついでね  
(K ホー) ア ヒルヒナカ アツイニ (K ホー) アノー  
日 中 暑いのに あの  
キタネー (K ホー) ウチノ ヨメガ ホント オバーサン  
来たね 家の 嫁が 本当に おばあさん  
エラカツラ (K ホー) ワシャー ケサ タノミタカッタン  
たいへんだったでしょう 私は 今朝 頼みたかったけど  
タノミャーシナンドイッテ アノー ユツツガネー (K ~~~~~)  
頼みはしなかったよって あのう 言ったけどね  
エー ユツツガ 「ソーヤッテ キタガネー。  
ええ 言ったけど そうやって 来たけどね。

K ソイデ エッカラ アルイタカエ。  
それで 駅から 歩いたのかね。

T ヨリカラ 「エキカラ アルイタ アルイタ。  
(駅から)のいいえ) 駅から 歩いた 歩いた。

K ホー。  
ほう。

- T アル<sup>リ</sup>イタ<sup>ガ</sup>ネー ニカイグライ ヤスマニヤ アル<sup>キ</sup>ャー シナン  
 歩いたがね 二回ぐらい 休まなくちゃ 歩きは しなか  
ドヨ。  
 たよ.
- K アニ ソーカ ソーカ.  
 ああ そうか そうか.
- T エー エラスギテ.  
 たいへんすぎて.
- K オレ キョーワ オレ キョーワ ミヤコト イッショダッタモン  
 私 今日は 私 今日は みや子と 一緒にたつたので  
 ダデ ソレカラ マー エギー オリテ ソレカラ マー クルマ  
 それから まあ 駅に おりて それから まあ 車  
 モ ネーシ (T エー) カサー カブッテ コツコツト アル  
 も ないし 笠を かぶって ニフニフと 歩  
 イテ キタ.  
 いて 来た.
- T ブントー (K エー) ワシモ アル<sup>イ</sup>テ バッカヨ. (K ンー)  
 そうですか 私も 歩いて ばっかりだ.  
 エー アル<sup>イ</sup>タ ホーガ マー アノ イー ツカッタ ホーガ  
 歩いた 方が まあ あの いい,(体は)使った 方が  
 イーッチューモンダデ ケッゴー ツカッテ ソイダモンダイネー  
 いいっていでの けこう 使って たからね  
 (K アー) エー アル<sup>イ</sup>チャ一 クルガヨー.  
 ええ 歩いては 来るがね.
- K アニ ソーカ ソーカ.  
 ああ そうですか.

T エー ウンドーン ナッテ イーモンダーテネ.

ええ 運動に なって いいのうね.

K ウンドーン ナッテ イーテ"ネー シーダ" ソーダ".

運動に なって いいからね。 そ、うだ、そ、うだ。

### 注

(1) 「早く」をチャットというのがこの地方の方言である。

## 8. 福井県武生市下中津原町

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

M 道端 初江 女 大正11年生まれ

K 加藤 よ志子 女 大正10年生まれ

- M アラ ジョリサン<sup>(1)</sup> ドッカエ イキナハルノ。  
あら 奥さん どこかへ いらっしゃるの。
- K ハイ チョット カイモンニ イクンニヤア<sup>(2)</sup>。  
はい ちょっと 買い物に 行くんです。
- M アー ホーデスカー。 アラ コナイダ<sup>(3)</sup> キノドクナ ドモ オ  
ああ そうですか。 あら このあいだ(は) 申し訳ありません どうも お  
イシイ オカシオ ヨーケ イタダイテ (K ナーニ アンナ。  
いいい お菓子を たくさん いただいて なに あんな)  
オイシカッタワズ。  
おいしかったわよ。
- K (笑) アンナモ ホンノ スコシイ。(笑) コドモガ  
あんなもの ほんの 少し。 子供が  
トキヨーニ イレンデエ<sup>(3)</sup> アノー オクッテキテ クレンタンデス。  
東京に いるので あの 送ってきて くれたのです。
- M アー ホーデスカ。 イマ ドッチーノ ホエ ツトメテ イナ  
ああ そうですか。 今 どちらの ほうへ 勤めて いら  
サルエンデスカ<sup>(4)</sup> ムスコサン。  
っしゃるのですか 息子さん。
- K デンキカイシャニ イッテレンニヤケノ。  
電気会社に いっているんですよ。
- M アー ホーデスカ。 マタ<sup>(5)</sup> オヨメサン モライナハラン。  
ああ そうですか。 まだ<sup>(6)</sup> お嫁さん(は) おもういにならない。
- K ハイ。 マタ<sup>(7)</sup> マタヤケノ。 モーオ ハチニ ナルンジャケドノ。  
はい。 まだ まだですよ。 もう 8に なるんだけどねえ。  
ソロソロオ<sup>(7)</sup> アノー イー シトカ<sup>(8)</sup> アノ ナイカト オモテレン  
そろそろ あの いい 人が あの ないかと 思っているん

じゃア。

だよ。

M ホヤア。ホヤケド イマドキノ ヒトア ミーンナ ジブンデ イ  
（8） そうです。だけど いま時の 人は みんな 自分で い  
ー シトオ ミツケテエ （笑） イナハルデネーエ。  
い 人を みつけて おいでだからねえ。

K ジマー ウチノ ムスコワー （笑） タレモ エーンノヤロト  
まあ うちの 息子は だれも いないんだろうと  
オモウンジャ。イー イー シトガ アルトオ オヤニ シラシェ  
思うんだ。いい いい 人が あったら 親に 知らせ  
レッテ ユーテ イレンニャケドオ。  
と 言って いるんだけどね。

M ホーヤア ホイ----- ヤッパ ホーユート コッチノ シトノ ホ  
（9） そうだ やはり そういうと こちらの 人の 方  
一カ トチノ シトノ ホーカ イーノワ イーワネ。 キノココ  
か 土地の 人の 方が いいのは いいわね。 気心が  
口か ナンカ フカッテ イー。 イーイ。  
（10） なにか わかって いい。 いい。

K ソーデス。 モーオ ドナタカ エー シトガア アッタラ シエ  
そうです。もう どなたか いい 人が あたら 世話  
ワ シトクンナシェー！。（笑）  
してくださいよ。

M ホーヤネ。 ドッカ ココロカケテ ドッカ （笑） ヒトリ ド  
（11） そうだね。 どこか 心かけて どこか ひとり ど  
ーデモ オシェワサシテ モラワンナランネ。 （笑） ホンデア。  
うでも お世話をさせて もらわなくてはいけないね。 それでは。

K ジャ オネカイ シマス。  
それではお願ひ します。

M ン ホンデア マタ ~~~~~~~~~<sup>(15)</sup> キマスデ (く笑) イッテラッシ  
うん それでは また いってらっしゃい。  
ヤイ。 (笑)

K (笑) ハイ。  
はい。

### 注

- (1) 階層でいえば上位に属する家の奥さんに対する呼称。さらに敬った呼称としてオジョリサンがある。福井県嶺北地方のかなり広い地域にジョリサンあるいはジョルサンという語の分布することが方言集などで確認できる。
- (2) 当地方言では「気の毒な」本来の意味とは別に、感謝の意を表わす場合によく用いられる。
- (3) [i[wndē̥e] 独得のゆすりイントネーション。
- (4) 尊敬の助動詞ナサル。
- (5) 尊敬の助動詞ナハル。
- (6) 年齢の28を言うつもりで省略している。
- (7) [sofosofo'rō] 語末にあらわれれる独得のイントネーション。
- (8) [ho̥ja'a]
- (9) [s̥itoə̥]
- (10) [s̥i'teo̥] 注(9)では[s̥i]と聞こえたが、その他は概ね後続子音[t]にいかれて舌が前寄りとなる [s̥i]に聞こえる。加藤氏も [s̥i'to̥]である。
- (11) お嫁さんをもうのならば近くの人がいいと言っている。
- (12) 気心が知れての意。

- (13) [ ちとし ]  
(14) [ hondæ ]  
(15) おそらくココロカケトキマステ”とでも言っているのだろう。

## 9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 上垣 セキ 女 明治34年生まれ

B 後木美智恵 女 大正元年生まれ

A コンニチワ.

今日は.

B コンニチワ.

今日は.

A アツテ エライノー.

暑くて 大変ね.

B マイニチ アツイノーラ.

毎日 暑いね.

- A シー。ミンナ ゲンキカイ。  
皆 元気かい。
- B ウン。イマン トコ ゲンキナケンド。  
うん。今の 所 元気だけれど。
- A ジャー ホリヤ イーノー。モー ボンモ クルシノー イソガ  
では それは 良いね。もう 盆も 来るしね 忙しい  
シーワ。  
わ。
- B ホンマニ。  
本当に。
- A ナニモカモ タコーテ エライノー。  
何もかも 高くて 大変ね。
- B エライノーラ。ナニモカモ カワソナランケンド (A シー)  
大変ね。何もかも 買わなければならぬけれど  
タカースカ (A ノー) エライワ。  
高いから 大変よ。
- A マー エロテモ ボンワ シテ アスボーライ  
まあ 大変でも 盆は して 遊ぼうよ。
- B ホンマニ。  
本当に。
- A (笑) サヨナラ。マタ デアオーラヨ。  
さようなら。また 出逢おうよ。
- B サヨナラ。  
さようなら。

## 10. 鳥取県八頭郡郡家町

話し手

- (略号) (氏名) (性) (生年)
- A 衣笠 トラ 女 明治34年生まれ
- B 衣笠 寿賀 女 明治33年生まれ

- A スガサン キョーワ アツイナー。  
寿賀さん 今日は 暑いなあ
- B ツアニ<sup>(1)</sup> キョーワ エー テンキデ エーナー。  
そう 今日は 良い 天気で 良いなあ。
- A ツアニ<sup>(2)</sup> ソイッテナー アノ トッショリガ ココノカノ ヒニナー  
そう それでなあ 年寄りが 九日の 日になあ
- ア ミンナガ デヨッテ<sup>(3)</sup> イッテ イーヨッタ コト一 イットラ  
皆が 出かけようと 言って 言い合わせたことを言っておられる
- レルカ ソレオ (B エー) ツレノ ンユーニ。  
か(伝えておられるか)それを (ええ) 仲間の 人達に。
- B アノヨー (A エー) ニサンニンニ イットルケド マンダ  
あのねえ (ええ) ニ三人に 言てあるけれどまだ(全部の人には)  
イットランケドヨ (A ンニ<sup>(4)</sup>) タエ一ガエ一 デラリヨーヤー。  
言てないけれどね (うん) 大概(の人は) 出られるだろうよ。
- A ホンニヤ ソースリャーナー<sup>(4)</sup> (B ンニ<sup>(4)</sup>) ソノ コナイタ  
それではなあ (うん) この間

- Aノ キメタヤーニナー (B ンー) ソイッテ<sup>(5)</sup> アノ コメ  
 決めたようになあ (うん) それで 米を  
 マー チート モッテ デタリ (B エー) ソレカラ (B マー)  
 まあ 少し 持って 出たり (ええ) まあ  
イッショーデ エーフェーナ。) サー ソノ コト一 イッテナ  
 一升で 良いわな。) そうそのことを(話し合ったことを)(仲間に)言ってなあ  
 (B ンー) ソイッテ ソノ デラレサーナ ヒトニ ソイッテ  
 (うん) それで 出られそうな 人に それで  
 イットクガ エー イジョー<sup>(6)</sup> ソガエー オモイヨルトコター。  
 言っておくのが 良い(と) いつも そのように 思っているところだ。  
 B サー (A       ) ヨスジノ オバーサンニモ イワート  
 そう (四筋の) おばあさんにも 言おうと  
 オモイヨルケド イジョー モリュー<sup>(8)</sup> シテ アガエーシテ シト  
 思っているけれど いつも 子守りを して あのようにして して  
 ラレルケーナー (A フン) ドゲニヤー ワカランシ (A  
 おられるからなあ (ふん) どうであるか 分からないし  
 フーン) スルケド マー ハネーテ<sup>(9)</sup> ミュート (A サー)  
 ふうん) するけれど まあ 話して 見ようと そう  
オモイヨルケドナ。 (ブザーの音)  
 思っているけれどね。
- A ソレデ ソノ タイガイナラ アノ フターツ トマラーッチュコト一  
 それで 大概なら(=たぶん) 二晩 泊ろうということを  
 イットクガ エージェ ソシナラ。  
 言っておくのが 良いよ それなら。
- B エー アノ サイショニ イットカニヤーナ (A エー エー)  
 ええ あの 最初に 言っておかねば (ええ ええ)

イケンケガ (A サー そう) ンナ ソガイ ムキン ショーカ。  
いけないから では そんな ふうに しょうか。

A 工一工一。  
ええええ。

B ンナ ソガエイッテ<sup>(10)</sup> (A エー. エーエー.) ヨスジ) オバー  
では そういうわけで (ええ. ええ ええ.) 四筋の おばあ  
サンヤ (A フーン) アノー ナニ フデサンニ イッタラヨー<sup>。</sup>  
さんや (ふうん) ふでさんい 言ったらね  
(A フーン) フデサンモ ット ナカマニ シテ エーッチョー<sup>。</sup>  
ふうん ふでさんも 仲間に して 良いと言って  
ラレタ。 (A \_\_\_\_\_.) エー。 (A フーン) ダケー ンナ  
おられた。 ええ。 (ふうん) だから されでは  
マ ツムキニ ショーカ。  
その ように しょうか。

A ドロオトシ(11) ブンダケナー ( B サー マニ) マー タノシン  
泥落としの 分だけなあ ( そう まあ) まあ 楽しん  
ドレダケー ミンナデネー。  
でいるのだから 皆でねえ。

B タケー ソースリャーヨー ウチノ ソラノ アノ タケオサン  
だから それでねえ 家の 上の だけおさん  
ノ エナ フタツデモ ミツツデモッ上 (A フーン) エーッ  
の 家では 二泊でも 三泊でも (ふうん) 良いと  
チョラレタケドナ (A フーン アレモッカ) エー アレモ  
言っておられたけれどね (ふうん あれもか) ええ あれも  
(A フン. フーン) サー ヨーニ ~~吉~~ ワカラシケドヨー  
ふん. ふうん さあ 良く 分からないけれど

アレモダラーヤー. <sup>(13)</sup> ( A フーン フーン フーン ~~~~~. )  
あれもだらうねえ。 ( フーン フーン フーン )

ンー。

A ンナ マー ソレオ ヨーニ キメテナー ( B エー エー エニ )  
それではまあ それを 良く 決めてなあ ( ええ ええ ええ )

エー ソイッテ アノ---  
ええ それで あの

B ツア. タケド マ アンネーワ ナンニンダッテ ナントモ アリヤ  
たけどまああの家は 何人たって 何とも ありは  
シェンタケーナー.  
しないのだからなあ。

A エー ソーソー. マー ヤドヤデー ナシナー.  
ええ そうそう。まあ 宿屋では ないしなあ。

B ヤドヤデー ナシ. ( A フーン ) ンナ ソガイ ムキニ  
宿屋では なし。 ( フーン ) それでは そんな ムキニ  
( A エー. ンナ--- ) ハナイテミル.  
ええ。 それじゃ 話してみる。

A エー。 ンナ ソノ コトオ キミョーゼ。 ( B エー )  
ええ。 それでは その ことを 決めようね。 ( ええ )

## 注

- (1) ツアー 相づちのことば。「サー」と言うこともある。
- (2) ソイッテナー 直訳すれば「そう言ってなあ」。「ソイッテ」は接続詞的にも良く使われる。「それで」「そういうわけで」。

- (3) テヨッテ 「出よう」(意志)は「デヨー」がふつう。ここは「デヨーッテ」が変化した形。なお、「見よう」は「ミュー」がふつう。
- (4) ソースリャーナー 直訳すれば「そうすればなあ」
- (5) 注(2)参照。
- (6) イジョー いつも、常に。用例「〇〇サンワ イジョーニ ワルイコト シテルワ」  
いじょー **副** ①まるで、全く。岩手県上閉伊郡・高知。②必ず。群馬県吾妻郡。③しじゅう。常に。鳥取。(『全国方言辞典』)
- (7) ヨスジ 十字路にある家の屋号。
- (8) モリュー モリ(守=子守り)を
- (9) ハネーテ ハナシテ>ハナイテ>ハネーテ
- (10) ソガエイッテ 「ソイッテ」(注2参照)に同じ。
- (11) 5月すぎに行う骨休めの行事を「泥落とし」と言う。用例「ドロオトシニ 出ル」  
どろおとし 田植終りの休日。淡路島・広島県安芸郡・石見・山口・高知・大分・宮崎。(『全国方言辞典』)
- (12) そら ①上。「机のソラにある」石川県江沼郡・岐阜・滋賀県愛知郡・三重・京都府加悦谷・兵庫県養父郡・岡山県阿哲郡・広島県双三郡・出雲・大分県北西部郡。(②以下は略)(『全国方言辞典』)  
ただし、当地では「机ノソラニ」とは言わない由。
- (13) このあたり、会話の真意不明。

# 11 島根県仁多郡横田町大字大馬木

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 戸屋 マサヨ 女 大正4年生まれ

B 野原 フジエ 女 大正6年生まれ

A マー オバサン デナハッタネヤー。  
まあ おばさん 出なさったね。

B ハイ チョッコ 力エモノニネヤー。  
はい ちょっと 買い物にね。

A ハー マー ソゲデスィカー。 コナエダワ スィンマシェン  
まあ まあ そうですか。 先日は すみません  
オミヤゲオ モラッティー。  
お土産を 貰って。

B マー ホンネ スィコスィバカーダドモ トーキョーニ オー  
まあ ほんとに 少しばかりだけれども 東京に 居る  
ワケ モンガ オクッテゴエタモンダケン スィソウケデスィワ。  
若い 者が 送ってくれたものだから すそわけですわ。

A マー ホンネ オマエサン トコノ ワカイ スィーワ ホンネ  
まあ ほんとに あなたの 所の 若い 人は ほんとに  
イマンドキナイ エー ワカイ スィーデスィネ。 エマ ドコエ  
今時にはない よい 若い 人ですね。 今 どこへ

ツイトメチョーナハーデスィカ。

勤めていなさるのですか。

B アリヤー デンキグワイシャニ エッチョーマスイガネヤ。

あれは 電気会社に 行っていますが。

A ハー ハー マンダ" ヒトリデショーネヤ。

はあ はあ まだ 独りでしょうね

B ハー モー ハツイニモ ナーダ"ドモネー。 ソロソロ ヨメ

はあ もう ハにも なるけれどもね。 そろそろ 嫁(を)

モラーゴサニャー エケンダ"ドモネーヤ。

貰ってくれねば いけないのだけれどもね。

A ハー マー ソーデモ イマンゴロノ ワカイ ヒトワ ワーーー

はあ まあ それでも 今頃の 若い 人は 自分達

ガ ズィブンデ エー ヒトオ サガスイナハーダケンネヤー。

ガ 自分で よい 人を 探しなさるのだからね。

B ウツイノ ムスイコニャー ダレンモ オランラスィーガ ナンズイ

私の 息子には 誰も 居ないらしいが 何か

エー スィーノ オラッシャッタラ オヤニ イエ イーチョー二

よい 人が 居られたら 親に 言え(と)言っているのに

マンダ" ナンダリ イーテコンガ。

まだ" 何も 言ってこないが。

A ホンニネ ソーデモ ヤッパリ ヨメサンワ トコロノ ヒトガ一

ほんとに それでも やっぱり 嫁さんは 土地の 人が

エーダケンネ。 ナントナクー キガ" スイレチョッテア。

よいのだからね。 なんとなく 気が 知れていて。

B ソゲーカモ スイレンケン マー エー スィーノ オラッシャッタラ

そうかも 知れないから まあ よい 人の 居られたら

タノンケン シエワスイチャッテ ゴサッシャエヤ。  
頼むから 世話してやって 下さいや。

A ハイ ハイ ホンナラ マー マタ ココロニ カケチヨキマスイ  
はい はい それなら まあ また 心に かけておきます  
ケンネア一。  
からね。

B オネガイスマシワ。  
お願ひしますわ。

A ハイ ハイ。  
はい はい。

B ジー ホンナラ。  
では それなら。

A マー マタ テテゴスイナハイ。  
まあ また 出て下さい。

## 注

- (1) この人はよくナハルの敬語動詞を言う。
- (2) ワレワレ → ワーワーは出雲の一般的な言い方。

## 12. 愛媛県越智郡伯方町木浦

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 阿部ヒロミ 女 明治38年生まれ

B 阿部チヨエ 女 明治37年生まれ

A アリヤ。チーャン。

あら、 チヨエさん。

B ハイ。ハイ。

はい。 はい。

A オータ テー。ココデ。(笑)(B笑) ドコイキヨーン。  
会った ね。 これ。( ) ( ) 行こうとしているの?

B セトハマイ イキヨーン / ヨ。  
<sup>(1)</sup>  
瀬戸内へ 行こうとしている のよ。

A ン一。ホー カー。ホリヤエー ウ。キニヨーワ オーケニ。  
ふうん。 そう が。 それは いわ。 昨日は。 ありがとう。

アノ エー モン ヨーケ モイテー。  
あの、 いも もの(?) たくさん もらって。

B イー イー。マー オイシ ナイケド テー。セッカク ムスコガ  
いえ れ。 まあ おいしゃく ないけれど れ。 セっかく。 急子が  
オクッテ キタモソジヤケン (A エー。エー。アン……。) マ  
送って 来たものだから。 ええ。 ええ。 あの……。 まあ。

ニ チート スソワケ ショー オモーテ……。

ちと すわけ はう(ヒ) 思って……。

A アリヤ リー。マー オーテニ。アンタ ムスコ ドコー イキ。  
あらら。 まあ。 ありがとう。 あなた。 息子(は). ところへ 行って  
ーン！  
の？

B アレワ ネヨー。<sup>(4)</sup> (Aシ一.) トキョー／ニホンムセン ユー  
われは カネ。 うん。 東京の 日本音楽(は) ハイ  
下コエ デオラー。  
折へ おひらわ。

A アリヤー エー コト ヨフー。エー トコジヤ / モー  
あい。 ハー こと よねえ。 ハー 折だ カネ。 ハイ  
ホデ ヨメサン モイラン カフ。  
それで、 娘さん(は). もらたの カネ。

B イエ。マダ モラワン ノヨ。

いも。 まだ。 もらわなー のよ。

A アリヤ。ホリヤ マー モー ハイ モラワニヤ イカン フー。  
あらら。 それは まあ。 もう けや。 もらわねば いけない カネ。

B モラワニヤー オモーテー (Aシ一.) モー オヤウ シンパ  
もらわねば(ヒ) 思って、 もう 親は 心配  
イ ショーン/ジャケド フー。 (Aシ一.) コドモガ ナカナカ  
していろのだけれど カネ。 (うん.) 子どもが なかなか  
ツノキン ナラン ワイフー。  
その 気に ならない よねえ。

A (笑) ドッコモ フー。ソ一 ナッテカラー、シ一。  
とんち がい。 う なつ。 うん。

B ドコゾニ エー ヨナ オラン カル。  
どこに、 おきうな(おはなし)、 いなー かわ。

A ンーッテ マー ノー。ソリヤー キノ<sup>(5)</sup> ソノ トコロカラ も  
ええと、 まあ、 ね……。 それは、 木の(浦)、 その、 所から も  
ラワダッタラ イカン ノー。  
らわなかつたら いかなー わ。

B ノー カノー。  
う かれ。

A ア<sup>(6)</sup> モー サイサイ モンテ クレンケー (B ノーンー。)  
ああ。 もう、 再々 もとて くれないから。 んさん。  
マー ソイデー ドコゾテ マー エー コー モラウ ノヨノー。  
まあ、 それで、 どこで まあ、 い… こ(おはなし)を もう のよねえ。

B マー サカシテ ミトーケレー。  
あ、 採て みておくれ。

A マー キー ツケトラニヤー イカン ノー。  
あ、 気を つけておられはば いけない わ。

### 注

- (1)瀬戸浜……木浦の北東に隣接する小集落
- (2)モイテー……「もらって」の簡略形式。過去形は「モイタ」である。未然形は、「モラワ」となる。ていう。
- (3)オイシ ナイ……「オイシュー ナイ」と拗音化していなーのが、注目される。
- (4)ネヨー……文末詞「ネヨー」は、親(い間柄)で使用される。
- (5)キノ……「木浦」と言おうとしたが、途中で言いさして、「トコロカラ」という言葉に変えた。
- (6)モンテ……「モドッテ」の簡略表現形式。

### 13. 高知県南国市岡豊町滝本

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 窪添久子 女 明治34年生まれ

B 窪添紹惠 女 明治43年生まれ

- A アラ マー コンエサン シバラク。 ズイブン オトンドシカッ  
ちく まあ 紗連さん しばりく。 ザハムン 久しぶりだ  
タネー。 アイカーラズ オンゲンキ。 オハナノ ホーワ ンド  
たねえ。 相変らず 御元氣。 お花の方は ど  
ー。 ウレマスカ。  
う。 売れますか。
- B アリンガト。 ミナサンノ オカン ゲンデネ。 ミナ ヒーキ  
ありがとう。 皆さんのおかげで ねえ。 みな ひいき  
ニシテ モローテ マヨー ウレヨリマス。  
にして 6つ 7 まよく 売れています。
- A マー コノ ハナワ ナント ユー オハナ。 キレイネー。 ア  
まあ この 花は 何といつ お花。 きれいねえ。 あ  
タシ イケ イケテ ミタイト オモウワ。  
いい 活けて みたいと 思うわ。
- B アノネー アノー ハナニ マー イケルノ ガワネー ャッパリ  
あめねえ あめう 花に まあ 活けらのけねえ やっぱり  
アノー に モツ モンガ ヨー アノー ウレラレマスンガ  
あめう 日の 持つ ものが よく あめう <sup>xxxx</sup> <sup>xxxx</sup> <sup>xxxx</sup> 売れますか

ネー。

ねえ。

A ソー。マーアンタワ エー ショーバイオ シテ イルネー。  
テう。まあ あんたは よい 商 売 を し て いるねえ。  
コンナ キレイナ オハナオ ナガメテ オカネオ モーケテ  
こんな きれいな 花を ながめて お金と うけつ  
イイコト ウラヤマシイワ。  
よいこと うらやましいわ。

B ソレモネー ミンナー！ オカンゲンデスラーネ。 ホントー ア  
それもねえ みんなの らかげ ですよ。 ほんとに あ  
ノー モー シバラク ジューネンモ イチヨルキニネー。 オカ  
のう もう しばらく 十年も 行ってろからねえ、 おか  
ンゲンデ ミンナー＝ ヒーキニ シテ モローテネー マー ア  
げで みんなに ひいきにして うらやましいねえ まあ あ  
ノー エンポー！ カタモネー ワザワザ キテ モラウキニ コ  
のう 遠方の 方ねえ わざわざ 来て うらやま  
ンドラ ヤスマニタイト オモーテモネー ヤッパリ アノ ミナニ  
んどは 休みたいと 思ってもねえ やっぱり あの 間に  
キテ モラウト オモヤ ヒトニ アノ ウソニ ナルキニネー  
来て うらやまと 思えば(他)人に あの うそに なるからねえ  
アノー ニチヨーも イツモ イキマスン ガネー。  
ちのう 日曜も いつも 行くはずのよ。

A マー エー コト。 ソレニ ヒキカエテ<sup>(1)</sup> アタシフネー コト  
まあ よい こと。 それに ひきかえて あたしけねー この  
トーリ アシンガネー シンケイッサンデ<sup>(2)</sup> ノーンガ フルクテネ  
通り 足 がねえ 神経痛 で 具合が 悪くてね

ー。 ホント アンタ ガ ウラヤマシイワ。 ハヨー ケンユー  
え、 ほんとにあんたが うやましいわ。 早く 健康  
= ナリタイト オモウ。  
になりたいと 思う、

B ネー ミンナー ガネー トシ トレバネー。 ヤッ パリ イタイ  
ねえ みんな が ねえ 年を 取ればねえ。 やはり 痛い  
トコロモ シデキラーネ。 シデキルケンド ヤッ パリ ジット  
ところも できぬ。 できなければ やはり じと  
シテ ッタラ ヤッ パリネー アノー ヨケー アノー アシモ  
していく やはりねえ あのう 一層 あのう 足し  
タタシヨー ナルキ アタシモ イッ ショーケンメイ マー アノ  
立たねどうになつたら あたしも 一所 懸命 まあ あの  
一セオ ダシテ イキヨリマス。  
う 精を 出して 行ってます。

A ソー ソラ エーワネー。 ソラ ソートネー アタシノ ムスコ  
テう それは よいわねど。 それは そうとねえ あたしの 息子  
ハヤ = 沢 - シチニ ナッ タグネー シドウ カエー エン  
はや ニナセ に なつた がねえ どこか よい 縁  
ダンワ ナイロー カネー<sup>(3)</sup>。  
談は 無いだらうがねえ。

B アリマストモ。 ネー アノー アタシモ ボトゥ ボトゥ ヒト  
ありすとも。 ねえ あのう あたしも ばつ ばつ 人  
ノ オセワモ サシテ モローテネー マー アノ エングミモ  
の 御世話してて もう ねえ まあ あの 縁組、  
ショリマス ガネー。 マタ アノー エー ヒトノガ アッ タラ  
して ます がねえ。 また あのう よい 人が あたし

A マー ミトゥ ケテ オイナキマス。  
まあ 見つけて おいておきます。

B ンドーヴ ゼヒトモ セワンテ チューバダイネー。オネンガイ  
どうぞ ゼひとし 世話を 組う だいねえ。お願ひ  
シマスヨ。  
しますよ。

B ハイ ヨロシュー ソゴザイマス。  
はい よろしく ござります。

A アー キーワ ヨカッタ。ヒサカタヅリニ アンタニ オメニ  
あら 今日ひ じかた。久方ぶりに あんたに お目に  
かかッテ ヨカッタ。  
かかって じかた。

B マタシモ ホントニ ウレシカッタデス。  
あたしも ほんとに うれしかったです。

A コンゴモ ヨロシク タノムジネ。  
今後も よろしく 願ひま。

B ハイ ヨロシュー ソゴザイマス。ソレナラ ソラキンデンヨー  
はい よろしく ござります。それなら 海機嫌よう  
い。

A ソレノデワ オンゲンキ デネー。サヨーナラ。  
それでは 御元気でねえ。さようなら。

B サヨーナラ。  
さようなら。

## 注記

- (1) キの母音が並声化しているようである。
- (2) ノーヌガワルイ（具合が悪い）ノーヌガエー（具合がよい）この「ノーヌ」は「能」か。
- (3) このローブ「しん」の変化したものか。
- (追記) 深澤久子さんは東京在住の長女の間係で、共通語が若干入っているが、方言寸劇に応じて下さる言葉ばかりにマウンドなので、やむを得ないのだ。

## 14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A	山崎	キメ	女	大正2年生まれ
B	竹島	マシ	女	明治34年生まれ

A コンニチワー。

今日は。

B コンニチワー。

今日は。

- A (笑) ヨカ オテンキデゴザイマス。  
良い お天気でござります。
- B アー ヨカ オテンキ ナルマシター。 オジーチャンタチャ ド  
ああ 良い お天気になりました。 おじいさん達は ピ  
ギャン シトラレマッシュ カー。  
う しておられましょうか。
- A ヘイ。 オジーサンナデス ナー。 モー コノゴラ ゲンキニ  
はい。 おじいさんはです ねえ。 もう この頃は 元気に  
ナッテー モー クサー ハタケニ クサトリバカリ  
なって もう 草を 火田に 草取りばかり  
イキオリナストデス ヨー。  
行っておられるのです よお。
- B ソーリヤ ケッコナ コトデゴザイマース。  
それは 結構な ことでござります。
- A (笑) オタクノ オジサンナ ドガン シトリナッショ カー。  
お宅の おじいさんは どんなに しておられましょうか。
- B ウケノ オジサンナ カンガ <sup>(1)</sup>サワッタトデッシロ。 モー コンゴ  
私方の おじいさんは 寒が障ったのでしょう。 もう この頃  
テ ネコロンデバッカリ <sup>(2)</sup>オリマストデス ヨー。  
は 寝ころんではばかり ありますんですよ。
- A シー ソリヤ ヒド アンナス ナー。 シー。 (B笑) (笑)  
うん それは 大変でござりますねえ。 うん。  
<sup>(3)</sup> オウチナ ナロ ワッカ ヒトタチャ ナンバ シオンナッショ  
あなたの家では だったら若い人達は 何を しておられるんで  
カー。  
しょうか。

- B (笑) コノゴラ ミカンエンバッカリ シオラレマストデス。  
この頃は 密柑園ばかり しておられます。
- A (笑) ソリヤ ヨー アンナス ナー。 (B笑) コトシャ モー<sup>(4)</sup>  
それは よう ござりますねえ。 今年は もう  
ミカンノー ヨカ ネーノ シマシテ。  
密柑かー 良い 値か しまして。
- B ヘー サクネンヨリカ ナー。 ヨカ ネノ シマシテ ヨー ゴ  
はい 昨年よりか ねえ。 良い 値か しまして 良う こ  
ザイマス トー。  
さーいませんよ。
- A ホントー。 ヨー アンナシター。 ソッシャ ナー。 マー ハッ<sup>(4)</sup>  
ほんとうに。 よう あられました。 それでは ねえ。 まあ  
<sup>(5)</sup> オキバンナッシェー。  
精をお出しください。
- B ハー。 オキバンナッシェー モ。  
はい。 精をお出しください。
- A サヨナラ。  
さようなら。
- B サヨナラ。  
さようなら。

### 注記

- (1)「サワッタトデッシロ」は、「サワッタトデスジャロ」からのもの。
- (2)「オリマストデス」の「マストデス」は、改まつた時に現われる形態。
- (3)「オウチナ」は、「オウチニワ」からのもの。
- (4)「ハツ」は、笑い気味での間投的音声。
- (5)「オキバンナッシェー」の「ナッシェ」は、「ナサイマセ」の縮形。



## 場面(7)

道で目上の知人に会う



# I. 青森市大字牛館

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 桜田 鉄弥 男 明治36年生まれ

B 八木沢千代三郎 男 明治43年生まれ

B キヨー ドッツノ ホーサ エッテ キスター。  
今日(17) どっちの 方へ 行って 来ましたか?

A ウーン キョーワ、ホラー、ヤンマ ドンダベドモッテー ヤンマ  
うん 今日は ほら、山(が) どうだううと思って 山(を)  
ミニ エテ キタエナー。  
見に 行って 来たよなあ。

B ウーン ドッツノ ヤンマノ ホーサ エッテ キター。  
うん どっちの 山の 方へ 行って 来た?

A ウーン アラー ~~アコノ~~<sup>(1)</sup> アッコノ ムゲアノ、ヤマチョーガラ  
うん あれ あそこの 向いの 山長から  
~~キ~~<sup>(2)</sup> カッタ ヤマガラ (B ウンウン) ソエカラ コンタ  
買った 山から ( うんうん ) それから こんど  
ミンズギジャワサ エッテ ミンデヨー (B ウン) スタキヤ  
水木沢へ 行って みてよう ( うん ) そしたら  
ズンブ ヤッパリ ユギデ (B ウン) ウーン キー コロンデ  
すいぶん やっぱり 雪で ( うん ) うん 木(が) (倒れ)転んで

ラネナー。

いたよなあ。

- B ウンダガ、ワー マンダ コドス ユギ スグダハンデ マンダ  
そうか。吾(は) また 今年 雪(が) 少ないから また  
ソ一 コロンデ ネガドモテダエナー。  
そう(木は倒れ)転んで いないかと思っていたよなあ。

- A ヤー エテ ミレバ マンダ ホンデモ ネアデバ。 (B アー  
やあ、行ってみると また そうでも ないぜ。 (ああ  
ウンダガ) ウン <sup>(3)</sup> ソズコズ グット キー タオエデ マテヨニ  
そうか うん そちこち(に)どうにもこうにもならないほど木(が) 倒れてしまつよう。

- B ウン <sup>(4)</sup> ウンウン。ヤ、キヨネンモ タンケ<sup>ト</sup> コロンデ アッタンダケンド  
うんうん。やあ、去年も かなり (倒れ)転んで いたんだけれど  
モ タンケア ウー キタヶッタリ ナンタリスト マンダ コド  
も かなり <sup>(5)</sup> 切ッタリ なんかして まだ 今年  
ス エッテ ミネドゴデ ワモ キニ カゲデラケンドモ ナガナ  
(は) 行って みないから 吾も 気に かけていたけれども なかなか  
ガ マー コノ ウズニ マンダ エッテ ミネバ マエンドモテ  
(行けないで)ああ この うちに また 行って みないと だめだと思って  
エダケンドモ。 デモ タンケア ゼンメアコ <sup>(6)</sup> タンケア トッテ  
いたけれども。 でも かなり ゼンまい (を) かなり 採って  
キタデバナ。

来たではないか。

- A ウン アツコズ コンタヨー (B ウン) <sup>(7)</sup> スマテカラ コー  
うん あちこち こんどよう (うん) (仕事が)済んでから こう  
ナンガ ジェンメアガ ナンガ ワランビガ やー オエデ ネベ  
何か。 ゼンまいか 何か。 わらびか(が) やあ 生えていないだろう

ガドモッテ アルエテ ミンダキヤ (B ウン) ヤー ヨー<sup>(9)</sup>  
かと思って 歩いて みたら (うん) やあ

アツコツ マンダ ナンダエナ (B ウン) オエデ エダネナー。  
あちこち(い) また なんだよな (うん) 生えて いたよなあ。

B アー アノ スラサ エッテ ミンダベ。  
ああ あの 斜面へ 行って みたろう。

A ウーン スラノ ホー ズット マワッタケヨー (B ウン)  
うん 斜面の 方(そ) ずっと 回ったらよう (うん)  
ソエデモ マンダ ウーン ゾー ヤマサ アリタ<sup>(11)</sup> ゴトモ ネバ  
それでも また うーん そんなに 山へ 歩い(て行,)たことも ない  
タテ (B ウン) エー エヌモ アルゲバ ボーニ アダルテ  
けれど (うん) えーと 犬も 歩けば 棒に 当たるといって  
マンダ (B ウン) アダル モンダエナー。  
また (うん) 当たる もんだよなあ。

B ヤヤ コノキン トレバ タエスタ モンダジャ。  
やあやあ このくらい 採れば 大した もんだよ。

A ウーン ワンツカ (B ウーン) ダバタテヨー。  
うん わずか (うん) だけれどよ。

B ウン ヤー ツケア ウズニヨー フタリ マー スコドノ スギ<sup>(12)</sup>  
うん やあ 近い うちによ。 二人(で)まあ 仕事の 暇(そ)  
ミンデ モ エッカエ エテ ミンビスヨ ヤンマ ミネ。 オンメ  
みて もう 一回 行って みようよ。 山(そ) みに。 お前(は)  
モー フトドゴ アンダベ ヤマ。  
もう 一 所(が) あるんだろう。 山(が)。

A ウーン ホンダ。 マンズ アズノ ホー ヤンマ ミネアハンデ<sup>"</sup>  
うん そうだ。 まず あっちの 方の 山(そ)(今日は)見ないから

ナ一。

なあ。

B ウン ヤ ワモ エグ キナッテラハンデヨー。<sup>(14)</sup> エー エッカエ  
うん やあ 吾も 行こうと思っているからよ。 エーと 一回  
エッショニ エグベス。  
一緒に 行こう。

A オヤ エッタラ マンダ<sup>”</sup> ナンダ<sup>”</sup> ジャ、 (B ウン) ソゴソ エー  
おう(そうだ) 行たら また 何だよ。 (うん) それこそ エーと  
スマッタラ ジェンメアダリ ワランビダリヨー (B オヤオヤオヤ)  
済んだら せんまいなり わらびなりよ (おうおうおう)  
フタリデ ズット ヤマ マワッテア (B ウン) トッテ キベス  
二人で ずっと 山(を) 回って (うん) 探って 来よう  
ヨー。  
よ。

B オメア ハー キョー エッテ コノグレア トッテ キレバ  
お前 今日 行って このぐらい 探って 来れば  
ハー コノツキ<sup>(15)</sup> エゲバ ダエジョブダネ。ワ カダテ エグ<sup>”</sup> ジャー。  
はあ この次(に) 行けば 大丈夫だよ。 吾(は) ついて 行くよ。

A ヤ ソエサ マンダヨ。 (B アー) アラ アコノ ゴサ<sup>(16)</sup>  
やあ それに またよ。 (ああ) あれ あそこの  
ゴースザワノ ホーノ (B ウン) ボグジョーサ エゲバ  
合子沢の 方の (うん) 牧場へ 行くと  
(B ウン) アツツア エゲバ ウッテ アルズデバー。  
(うん) あっちへ 行くと うんと あるというじゃないか。

B アーアーアーアー アノ アレハシズノサワニナー (A ウーン)  
ああ ああ ああ ああ あの 有畠の沢になあ (うん)

ウンウン、ヤー キョー コノキン トレバ ダエジョーブダ。  
うんうん、やあ 今日(は) このくらい 採れば 大丈夫だ。

A ウーン (B ウーン) マンダヨー (B ウーン) コンダ  
うん (うん) またよ (うん) こんど  
フタリ エッテヨー、(B ウーン) ヤンマ ミンタラヨ。 (B  
二人(で) 行ってよ、 (うん) 山(を) 見たらよ。  
ウン) コンダ スマタラ コンダ ズット (B ウン) ボグ  
うん こんど 済んだら こんど ずっと (うん) 牧  
ジヨノ ホーガラヨー (B ウン) アノー ゴースザワノ ホー  
場の 方からよ (うん) あのう 合子沢の 方  
ノ ガグエン<sup>(19)</sup> ホー アラー (B ウン) アド ズット コー  
の 学園の 方(など)あれ (うん) あと ずっと こう  
エッペア ミンナガラヨ (B ウン) エッテ キベスヨー。  
いっはい 見ながらよ (うん) 行って 来ようよ。

B エッテ キベス。 (A アー) ヤ ドーモ キョー ゴグローサ  
行って 来よう。 (ああ) やあ どうも 今日(は) 御苦労様  
マデスタ。  
でした。

A ヤーヤ ホントネ コンダ アー エグ ドギ エッショニ エグ  
やあやあ ほんとうに こんど ああ 行く 時 一緒に 行  
ベスー。  
こう。

B ハエハエハエ、エッショニ ツツデ エッテ モラウガナ。  
はいはいはい、 一緒に つれて 行って もらうかな。

A オヤオヤ。  
そうそう。

B アエ ジャ ドーモ。  
はい ジャ どうも。(さようなら)

## 注

- (1) 以下の「ヤマガラ」へかかる。その「山」は牛館地区所有の山からみて向い側の山であり、それを山上長一(青森市大字新町野)から買ったという。
- (2) 収録地から4kmほど南方の山へ入ったあたりにある。「水木沢」という漢字名称にするのが良いかどうかは不明である。他に「ミンズクジャ、ミンズクザン」ともいう。「水木」というのは山野に自生する落葉喬木で、山の神の木として、以前は県内各地で小正月用のまゆ玉を飾る木に使つたもので、小正月にはこの沢へ村人がおのおのとりに行つたという。現在、共同管理している山だという。以上のことから「水木沢」という漢字名称を訳に掲げておく。
- (3) 程度の甚しい様をいう副詞。定まった訳はなく文脈により決めざるを得ないことばである。
- (4) 漢字は「大概」。
- (5) 「切る」を「キタケル、キッタケル」と言うことが多い。
- (6X8) 春の山菜「せんまい」「わらび」
- (7) 訳の「仕事が済んでから」の「仕事」は、春先に自分の所有する山へ入り、冬季中の倒木のあとしまつをしたり、木の下枝、下草を刈り払つたりすること、をいう。
- (9) 特に「ヨー」は無意味の発音に近い感じもある。
- (10) 「スラ」の語源は不明。
- (11) 単純に「山を歩いた」と訳すべきか。が、当地では「山サ歩いた」と表現することも多く、「山 歩いた」という表現との区別から、やはり「山へ歩いて行った」と訳すのが妥当だろう。
- (12) 漢字は「隙」。
- (13) こここの文の意は「山菜の採れる良い山、つまり、あの場をもう一か

所知っているんだろう」

- (14) 「エグ キナッテラ」は直訳すると「行く気になっている」
- (15) 「ネ」は「エ」とも聞こえる。
- (16) 当地では「合子沢」を「ゴサ」とも言うことが多い。青森市大字合子沢、収録地から 2 km 離れている。その後背の山の名をも合子沢という。
- (17) 合子沢の牧場をさす。
- (18) 収録地から 4 km ほど南方の山へ入ったあたりにある。むしろ、「アレハダの沢」だという。「アレハンズ」も「アレハダ」も現在の地図には載っていない。が、江戸時代末期の当地の地図に「有畑」とあるのによる。「有役畑（アラギハダゲ）」から出たことばだろうといふ。焼畑にして、火をつけたその年菜種を播き、翌年ソバを播く。その後、放置しておくと荒畑になる。従って「荒畑」と書くのも妥当かもしれない。
- (19) 青森県立青森学園。

## 2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

話し手

(略号) ( 氏 名 ) (性) ( 生 年 )

A 井上 嘉十 男 明治35年生まれ

B 小林 弥太郎 男 明治40年生まれ

B アーヴゲン カジューサンカイ。アーコンチワ。  
ああ 嘉十さんかね。 ああ 今日は。

A ハイ ドーモ。  
はい どうも。

B ヒサシブリダッタネー。  
久し振りだったねえ。

A イー アンバイデ<sup>(1)</sup>サー。  
良い 持配でさあ。

B ドコイ デカケルイ。  
どこへ 出かけるのがね。

A アー キョーワネー オーヨーノ ホー イッテ<sup>(2)</sup> クベートモッテ。  
ああ、 今日はねえ、 大場の方へ 行って こようと思って。

B アー ソーカイ。  
ああ そうかね。

A アー。  
ああ。

B ドーダイ ソノゴ カーリヤー ネーカイ♪。  
どうだね、 その後 変わりは 無いがね。

A アー。ベツニ ドーモ カーリモ ネーケドネー。ドーモ ハー。  
ああ。 別に どうも 変わりも 無いけどねえ。 どうも もう  
トシュー<sup>(4)</sup> トッタカラ アシコシガ ワルクッテ ドーモ  
年を 取ったから 足腰が 悪くて どうも

B ドーモ ソレモ ショーガネーマイナ一。  
どうも それも 仕方が無いよねえ。

A オモーヨージャ ネーマイ。  
思う様では 無いよ。

B トシ トッテ トシノ セーダモンネー。  
年の せいだものねえ。

A ソーダヨ。アンタン トコジヤ ドーデー。<sup>(5)</sup> ワケーシナンザー<sup>(6)</sup> キ  
そうだよ。 あなたの どうだぬ。 若い衆などは  
ヨーワ ナンシダイ。<sup>(7)</sup>  
今日は 何をしているのだね。

B キョーワ テンキガ イーナンチュンデ コジニックスノ ショード  
今日は 天気が 良いなどと言うので、 菖蒲の 消毒  
ク イッタヨー。  
に 行ったよ。

A アー ワーカイ。(B アー) マー テンキツツキダカ一<sup>(8)</sup> チョード  
ああ そうかぬ。(ああ) まあ 天気続きたから ちょうど  
イー アンベーダイネー。  
良い 按配だよねえ。

B リーダイネー。  
そうだよねえ。

A アー。<sup>(9)</sup> ハー ソイジャ一 イツグンデ オラー マー。  
ああ。 では、 それでは 急ぐので 僕は まあ。

B アー リーカイ。  
ああ そうかぬ。

A ココネーデ ナンダガ。  
このあたりで 何だが。

B ハイ ゴメンナサイ。  
はい、 御免なさい。

A マタ イキオーベー。  
また 会おう。

B マタ イキオーベー。  
また 会おう。

A ハイ ゴメンナサイ。  
はい、御免なさい。

B ゴメンナサイ。  
御免なさい。

### 注

- (1) 「イー アンバイ」は、天候の挨拶。Aの発話は「サー」で言いきしになっている。次の、Bの発話にさえぎられたためである。
- (2) 地名。大字追貝の中の小字名。収録地の字追貝より二つしもになる。
- (3) 「イッテ クベー」の「テ」の母音は無声化している。任意（非義務的）の無声化である。「トモッテ」は、「ト オモッテ」の「オ」が脱落した弱まり形である。
- (4) 「トシュー」は、「トシオュ」の融合形。
- (5) こゝに間あり。間を置くことにより、話題の転換をおこなっている。
- (6) 「ワケーシ」は、息子とその嫁をさしている。
- (7) 「ナンシ」は、「何為」、「何を為」。
- (8) 「カー」は、「カラ」の弱まり形。「ラ」の子音が脱落した。
- (9) 「アー」の後に間あり。間を置くことにより、話題を打ち切り、別れの挨拶へと進めている。

### 3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

T 武田 松雄 男 大正6年生まれ

M 森 留吉 男 大正11年生まれ

M エー オハヨーゴザイマス。タケダサン ドチラエー。  
ええ おはようございます。武田さん どちらへ。

T アー オハヨー。エ イマノー クミアイカラ リジカイガ  
ああ おはよう。え 今ね 組合から 理事会が  
アルカラッчу タンワダモソダカラ イグトンダヨ。  
あるからという 電話だものだから 行くところだよ。

M オー ホラ タイヘンダネー。マニアウカナー。(T 笑)  
おお そら 大変だねえ。間に合うかな。

T エッ ソラ ソート オメラ ムスコサン ソロソロ アンダッペ  
ええ それは そうと お宅の 息子さん そろそろ あれでしょ  
シンガクノ ジキダッペ アジャタッナッダイ。  
進学の 時期でしょ どうなるのかい。

M アイヨ ヤロサマガヨー オー チュー<sup>(1)</sup>ガク アワコーノネ エー  
あいよ 野郎様がね おう 中学 安房高のね ええ  
ニネンノ ケンドーブダケドネ マー イチネンガ アルケドサ  
二年の 剣道部だけどね もう 一年が あるけどさ

(T シー) ャッパリ センパイノ ャッパリ シンガツホーシンオ  
やはり 先輩の やはり 進学方針を  
アノー カンゲテネー エー ャッパイ ソレ キボー シテイル  
あのう 考えてね ええ やはり それ(を) 希望 している  
モンダカンネ オヤジト<sup>x x x x x</sup> オヤトシテネ ホント アタマガ イテ  
ものだからね 親父と 親としてね 本当 頭が 痛い  
トコナンデスヨー.  
ところなんですよ。

T ウーン ホダナー。 ホンデ オメラガ ム ムスメサンワ ケッ  
ううん そうだなあ。 それで お宅の 娘さんは 結  
コン サセネバ オイネッチューシ ムスコワ シンガクタ" ナン  
婚させなければ いけないというし 息子は 進字た" なん  
カット ナカナカ コラ アタマガ イテノー。  
かといって なかなか これは 頭が 痛いねえ。

M ソーダネー ムスメンナゴトネ (T シー) ジジョトヨー<sup>(2)</sup>  
そうだねえ 娘おなごとね 次女とね  
コイモ イッチャク ノッコミデノー (T 木 木ホー)<sup>(3)</sup> フタリ  
これも いっしょに 乗り込みでね (ほ ほほう) ニ人  
イッチャクニヨニ ナル カタチニ ナッチマウダヨ。 (T ホニ)  
いっしょに なる かたちに なってしまうのだよ。 (ほほう)  
ソイセ アレダッペ ヤロサマガ コンダ ナオ ダイガク シン  
それに あれでしょう 野郎様が 今度 なお 大学 進  
ガクン ナイトネー オヤトシテ ホラーネ ヤラザルオ エナイ  
学に なるとね 親として それはね やらざるを えない  
ケドモネー イジョー シンコクダト オモウノー タケダサンノニ  
けれどもね 以上 深刻だと 思うねえ 武田さんねえ。

T        ノー リョーワ ネシサ。ダケン マ フリゴトモ バッ  
ねえ 漁は ないし。だけど ま 悪いことも は  
カリ ネカンノ マタ リョーガ モ デテクンダッペカラ マー<sup>(4)</sup>  
かり ないからね また 漁か もう 出てくるだろから まあ  
ガンバラッショ。  
頑張りなさいよ。

M ダケンネー ~~イマ~~ <sup>今</sup> イママデン ネー アンダネー チョーリュー  
だけどね 今までに ない あれたね 潮流  
イヘンチュコト カンゲラレンネー。タケダサンモ クミアイ  
異変といふこと(も) 考えられるね。 武田さんも 組合  
チョーダッケン オレ カンジ ャッテーベー イママデン ネー<sup>(4)</sup>  
長だけど 私 幹事 やってらでしよう 今までに ない  
ヨ コトシノネー (T ン) アンダ ハマノネー コノ シオ  
よ ことしのねえ あれた 浜のねえ この 潮  
ノ アンダ イヘンチュートコワ コレー シンコクナ ハナシ  
の あれた 異変といふことは これは 深刻な 話  
ジャ ネーカノー。  
では ないかねえ。

T シノー コリヤ テンネンゲンショードニモ ショーガネッケン  
うん、ねえ これは 天然現象 どうにも しょうがないけど  
マ ナキゴトバリ ユッタッテ ショーガネカラ マー ガンバル  
ま 泣きごとばかり いったって しょうがないから まあ 頑張り  
ベヨー。  
ましょうよ。

M ソーダヨ。 マ ガンバンベ ガンバラネバ イケネヤネー  
そうだよ。 ま 頑張りましょう 頑張らなければいけないやねえ

( T アニ ) アンシテン ワレワレモ グンタイデネー アーシテ  
ああ 何しても われわれも 軍隊でねえ ああして  
イジカンデ イシン カジリツクヨーナ ジョータイデモッテヨー<sup>（5）</sup>  
頑張って 石に かじりつくような 状態でもってさあ  
コンクケツボーニ タエテ ガンバッテ キタダカラサ ( T アー )  
困苦欠乏に 耐えて 頑張って きたのだからさ ああ  
ホントン ダッケン コラー オーキナ モンダイジャ ネカネー。  
本当 だけど これは 大きな 問題 では ないかねえ。  
クミアイチヨーネー。

組合長ねえ。

T アー ジャ マ。  
ああ じゃ ま。

### 注

- (1) 中学、安房高のね——安房高校二年生の息子を、つい中学と言いちがえてしまった。
- (2) 娘おなご——特に二語を合わせたことの意味はない。娘とおなごをもののはずみで連ねてしまったもの。
- (3) 乗っ込みで——結婚の時期が姉妹でほぼ同じ頃になることを、船員用語の同時に船上に乗り込むという表現を用いたもの。
- (4) 組合長だけど——組合長は武田松雄氏の実兄で、松雄氏は理事だが内容に合わせて、組合長と仮定した。
- (5) じゃ ま——録音を意識して、別れの挨拶がスムーズに出ない。

## 4. 新潟県柏崎市大字折居字餅糰

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 高橋 武義 男 明治45年生まれ

B 高橋 森一 男 明治38年生まれ

B ハエ <sup>(1)</sup> オハヨーゴザエマス。

はい おはようござります。

A ア <sup>(2)</sup> ドーモ オハヨーシタ。

ああ どうも おはようございました。

B ハエ オメアサン ドチラエ エギナサル。

はい、あなた どちらへ お出かけですか。

A アー キョアーワネー マチニ クワイギガ アリマシテサ  
ああ、今日はねえ 市に 会議が ありました、

(B ア ソアーデスカ。) コレカラ デカケマステー。  
( あ そうですか。) これから 出かけますよ。

B アー ソアーデスカ。 (A ア。) ハエ ソアーデスカー。  
ああ そうですか。 ( あ。) はい、 そうですか。

A ドーシタエ ボンダガ アノ ヤマガタエ エッテル カズエサ  
どうしたね お盆だが あの 山形へ 行っている 和枝さ  
ンタチワ キマシタカ。  
ん 違は 来ましたか。

B アー エマ マー クルテ ユンデ" マー チョット ワタシッ  
ああ 今 まあ 来ると いうので まあ ちょっと わたしが  
マー チョット… トチューマデ デ… デマシタンデステ.  
まあ ちょっと… 途中まで 出ましたのですよ。

A ア ソアーカ. (B ハ) ソラ タイゴクロアードラー.  
あ そうか. (はい) それは 大御苦勞だね.

B ハエ ハエッ.  
はい はい.

A アー ゴクロアーサン.  
ああ 御苦勞さん.

B ハエ ドアモ ハエー.  
はい. どうも はい.

A マー ナカナカ コトシ/ オボンモー マイニチ アメア フッテ  
まあ なかなか 今年の お盆も 毎日 雨が 降って<sup>(4)</sup>  
タイヘンダネー.  
大変だねえ.

B ソアーエンデステ. マー コマリマシタエネ アー. アノ一  
そうなんですよ. まあ 困りましたよ. ああ. あのう  
マ ツイタチカラー エチニチ エーバッカデ エー オテンキガ  
まあ 一日から 一日 いいばかりで いい お天気が  
ナクテ コマリマスワ. アー. (A ヤー) アンタ ドチラエ  
無くて 困りますわ. ああ. (やあ) あなた どちらへ  
オデカケエス.  
お出かけです.

A ヤー ジツワ マイニチ クワイギノ レンゾクテー アンマリ  
やあ 実は 毎日 会議の 連続で. あまり

イー ハナシバッカ ヨノナカニ<sup>(5)</sup> ナイモンデ アー シャバ"ジュー  
いい 話ばかりは 世の中には 無いもので、 ああ 妻婆中  
ガ サワギ"デ コマッタノア一 コレー。  
が 騒ぎで 困ったねえ これは、

B ソアーデスカ。 ソ オボンメアーダ"テノン ナカナカ エソガシ一  
そうですか。 そう お盆前だ"というのに なかなか 忙しい  
ンデスネー。 ハエ。  
のですねえ。 はい。

A イヤー オヤカタガ イロイロノ モンダイガ オキタリ シテル  
やあ 親方が いろいろ 問題が 起きたり している  
モンダ"カラ一 (B ンマ マー ソアーデショニー。) シモノ  
状態だから ( うんまあまあ そうでしょう。 ) 下部の  
ホアーマテ<sup>(8)</sup> ナカナカ ヒビクヨアーナ ヨーステ ヘア一  
方まで なかなか 影響するような 様子で もう  
コマットアー。  
困ったよ。

B ハエー。 ソラー ナカナカ オマエサンガタモ ヨアエジャ  
はい。 それは なかなか あなたがたも 容易では  
アリマセンワ。 (A 笑 ン。) ソアーデスカ。 ナカナカ  
ありませんわ。 そうですか。 なかなか  
ヨアエジャー (A ハニ) ネアーガ ソッテ一 アンタガタ  
容易では ( はあ ) ないが、 それで あんたの方の  
コドモサンタチワ ドアーシマシタエー。  
子供さん達は どうしましたね。

A アー ウチデモ アッター ト一イノワ コトシワ キマセンドモ  
ああ 家でも なんだ。 遠いのは 今年は 来ませんけれども

ネー (B ハー) チカエ アノ コドモガ マー オボンニ  
ね (はい) 近い 子供が まあ お盆に  
エー ヤッテキテ ソエデ マー アー トショリオ <sup>(9)</sup> ヨロコバシ  
ええ やって来て それで まあ ああ 年寄りを 喜ばせ  
テルノサ.  
て居るのさ.

B アー ソアーデスカネ.  
ああ そうですかね.

A アニ.  
ああ.

B エヤー ウチノ ヤロードモモ <sup>(10)</sup> ナカナカ クル クルッテ  
やあ 家の 野郎どもも 来る 来ると  
エッテテ キョアー オレ デマシタンテスドモネ (A アー)  
いっておいて 今日 僕が 出ましたのですけれどもね. (ああ)  
ホーデ マー ミエマセンエネ <sup>(11)</sup> (A ヤ.~~~~~) エマ チョット  
それで まだ 見えませんので や. 今 ちょっと  
マー ワタシモ ヒッケアーシテ キマシタンテスティ.  
まあ わたしも 引き返して 来ましたのですよ.

A アー ソアーカネー.  
ああ そうかねえ.

B ハエ.  
はい.

A ター タノシミデ ケッコアーダノアー.  
やあ 楽しみで 結構だねえ.

B ソレア マー マー ソッデモ コドモガ <sup>(12)</sup> キュールノワネ  
それは まあ まあ それでも 子供が 来るのは

マー ウレシーテスワ。  
まあ 嬉しいですわ。

A ソアーダ<sup>(B ハエ)</sup> ソアーダ<sup>(はい)</sup> そうだ。

B ハエ。 ソアーデスカ ソアーセヤ アンタモ マー ヨーエジ  
はい。 そうですか それでは あなたも まあ 容易では  
アリマセンドモ マー キヨアーワ クエギダト セヤ マー  
ありませんか、 まあ 今日は 会議だと すれば まあ  
(笑) (A マー) ジドアーシャネ ノランケ ナランカラネー。  
(まあ) 自動車に 乗らなければならぬからねえ。

A バスノ ジカンモ アルノデ (B ソアーソアーソアニ) マー  
バスの 時間も あるので ( そう そう そう ) まあ  
コレデ シツレー シマスガ。  
これで 失礼 しますが、

B ハ ハエ。  
は はい。

A ドアーノ<sup>(B)</sup> ヨロシク。  
どうぞ よろしく。

B エッテ オエデ<sup>(B)</sup> ナスッテ。 ッア。  
行って おいでなさい。 あ。

## 注

- (1) ハエ 呼びかけの感動詞。改まった感じがある。
- (2) ア 感動詞。応答のことば。「ハイ」よりくだけた感じ。
- (3) オハヨーアシタ 「オハヨーアシタ」の変化。「アス」は丁寧の助動詞。「ゴザイマシタ」よりもくだけた感じがある。
- (4) タイゴクロアー 「オーゴクロアー」とも言う。「ドラー」は「だ」(断定)より強い。長野県中信濃にもあるといわれ、馬瀬良雄氏は「だ」に古代の詠嘆の助詞「を」に由来する「オ」が下接して出来た語とされる。本県でも中越地方に「トナー」(たよ)「ドナー」(だよ)がある。
- (5) ヨノナカニ 「ヨノナカナ」のようにもきこえる。「世の中には」のつもりか。
- (6) シャバ 古めかしい感じだがよく使用される老人語。社会・世の中の意。
- (7) サワギ 大さわぎ。いわゆるロッキード事件のこと。
- (8) ヘアー 「はや(早)」の変化。大変の意。
- (9) トショリ 老人の意で話し手とその妻をさしている。
- (10) ヤロアードモ 男どもの意。この人には男の実子はないから、娘たちの夫やその男の子たち(つまり孫)をさしている。やや乱暴にぞんざいに言ったのであって、卑下の気持はあっても、ののしる意識はない。
- (11) エネ 「エニ」の変化。故に。理由をあらわす接続助詞。老人層語。
- (12) キュールノワ 「クルノワ」と言うつもりであったが「舌がよく回らなかつた」と話し手自身が説明した。
- (13) エーテ オエテ この部分はことばが重なってはっきりききとれず、話し手にきいて文字化した。

## 5. 長野県上伊那郡中川村南向

話(手

(略号)

(性)

(生年)

- |         |   |          |
|---------|---|----------|
| A 井沢 順一 | 男 | 明治32年生まれ |
| B 尾沢 国藏 | 男 | 明治31年生まれ |

A ヤー ドーモ コンニチワ  
どうも 今日は。

B アー コンニチワ  
今日は。

A アー ドーモ オヒサシュー ゴザイマシタ  
どうも お久しゅう ございます。

B ハールカブリタッタネー ~~~~~  
久しぶりだったね。

A ドーモ イッモ オタッシャノヨーデ ケッコーデ ゴザイマスナ  
どうも いつも お違者のようで 結構で ございます  
ウン  
ね。

B ヤー トシニヤー カテンワイ オレモ モー ワズカデ カゾエ  
年には 勝てないよ。俺も もう 僅かで 数え  
ドシジヤ ハチジューダワイ  
年では 80だよ。

A アハーソレニ シチャー ドーモ タッシャナ モンテ ケッコー  
それに しては どうも 違者な もので 結構だ。

ダ マー トニカフ アレダ"ナーン トジウオ トルッチュ コトタ"  
とにかく あれだね。 年を 取るという ことだ"  
ケワ ドーモー ショーナイナー ソレデモ マー ワルイ ト  
けは どうも しようがないね。 それでも 悪い と  
ユガ" ナクテ キヨーマデ" タッシャデ" クラシテ キタッчу  
ころが" なくて きょうまで 達者で 蓦して 来たという  
コトワ マー ゴ<sup>(1)</sup> ゴドーヨーニ<sup>(1)</sup> マー シヤワセナ コトデ  
ことは、 御同様に 幸せな ことで  
ゴザイマスナウン  
ござりますね。

B トショ一 ヒロウ ヤツァー コリヤー ショーネーナー ソオレモ  
年を 取る のは、 これは (ようがないなあ。 僕も  
マー コノ クレートルガ<sup>(2)</sup> オメーサマモ テーブ" ジョーブソ  
この 蓦しているか、 お前様も 大分 丈夫そうで  
ーデー ケッコーディヤ ネーケー<sup>(3)</sup>  
結構では ないかね。

A アー オレモ マー ドーカ コーカー キヨーマデ"アナー ワリ  
僕も どうにか こうにか きょうまではなあ、 悪い  
ーッчу トコガ ナクテー ソコソコ マー ウチノ<sup>(4)</sup> シゴト一  
という ところが なくて、 何とか うちの 仕事に  
ニ オテツダ"イグライナ トコー ャットルケード"ナウン  
お手伝いくらいな ところを やっているけれど"ね。

B アー ヨク シゴタ テ"キルヨーデ" ケッコーダー ソリヤー ソ  
良く 仕事が できるようで 結構だ。 それは そ  
ートー アニーワ ドコイ ツトメトルエ  
うと、 (跡取り)息子は どこに 勉めているかね。

- A オラホノ<sup>(5)</sup> ムスコワナー コノゴロ アーイータノ ホーノ デンキ  
俺のうちの 息子はなあ、 この頃 飯田の方の 電気  
ガイシャエ ツカッテ ムラウヨーニ ナッテナー<sup>(6)</sup>  
会社に 使って もらうように なってなあ。
- B ハーハー イータッチュート  
飯田 というと。
- A マー チキヨネンカラ オセワン ナッテ イットルケード マー  
去年から お世話になつて 行っているけれど。  
イマントカー マー イーンダ"カ ワリーンダ"カ ナンダ"カ ワ  
今のところは 良いんだか 悪いんだか 何だか 判  
カラん トニカク ジゾーシャニ マエンチ ノッテク アブラテ  
らない。とにかく 自動車に 毎日 乗つて行く 油代  
一オ カセグンダ"ンダ"カ ナンナンダ"カ ワカラニヨーナ モンタ"  
を 稚ぐのか 何なのか 判らないような ものだ  
ケード マー ソレデモ ナンデモ オベントー モッチャヤー マ  
けれど。 それでも 何でも お弁当を 持つては 每  
イニチ イットル トコデナウ  
日 行つてはいる ところでね。
- B ヤー ジドーシャノー ヒヨーガ カカルナー ゴドーヨーデ オ  
自動車の 費用が 扱かるのは 御同様で、 俺  
ラマーリデモ コマガネー カヨットルケードー ナカナカ ヒヨ  
の家の近所でも 馬鹿根に 通つてはいるけれど、 なかなか 費用  
一ガ イルヨーダ" ソレデモ チューブ"デシリヨクイ ツトメリヤ  
が 要るようだ。 それでも 中部電力に 勧めれば、  
一 シッカリ シタ カイシャダ"デー イーズエ マー イマ<sup>(6)</sup>ハ  
しっかり いた 会社だ"から いいですね。 今 入

イッタバッカダテ アレダ"ケードモ (A マー) ダンダン ヨ  
つたばかりだから あれだけれども, だんだん 良  
ク ナルデ  
く なるから。

- A シノウチニヤー イーカト モッテ オルトコダ"ケードナー  
そのうちには いいかと 思って いるところだけれどね。  
ソリヤー (B ア-) ソート アノ キョーワ ドチラエ オテ  
それは そうと, きょうは どちらへ お出  
カケデ オアリル  
掛けで いらっしゃるんですか。

- B キョーワー シンセキデー ナクナッタ オジッコノ ジューサン  
きょうは 親戚で 亡くなった 叔父さんの 13回忌を  
カイキオ スルッテノー (A ハーハー) ホージニ ヨバ"レテ  
するってね。 法事に 招かれて  
オレ イマ デカケテ <sup>(7)</sup>キタ トコダ一  
俺 今 出掛けて 来た ところだ。

- A ソーカナ ヘー ソンネニ ジューサンネンニモー ナルノカナー  
そうですか。もう そんなに 13年にも なるのかなあ。  
ハヤイ モンダナー  
早いものだね。

- B ツキヒノ タツノア ハヤイ モンデ"ノー  
月日の 経つのは 早い ものでね。

- A ハー ホリヤ マー オダイジニ イッテ オイデ"ナンショ  
それは お気をつけて 行って いらっしゃい。  
B アー ソレジヤー マー イッテ メーリマス (A エ-)  
それでは 行って 参ります。

### 注

- (1) ゴドーヨーニの前に言いよどみがある。
- (2) クレー トルはクラシテオルのサ行イ音便形クライテオルの音韻変化形。
- (3) ネー ケーと書いたが、ネーの母音もケーの母音もともに多少2重母音的である。
- (4) ウチノの前に言いよどみがある。
- (5) [ɔrəhono]。同じ行のホーの子音も [h]。
- (6) [jm]と聞える。
- (7) [dexakete]のように聞える。

## 6. 静岡市南字中村

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	佐藤 吉平	男	大正5年生まれ
C	山本 俊男	男	明治44年生まれ

- A ヤマモトサン オハヨーゴザエマス。  
山本さん おはようござります。
- C アー オハヨー。  
ああ おはよう。
- A キョーワ アノー ドチラエ オデカケニ ナルンデズカネ。  
今日は どちらへ お出かけに なるんですかね。
- C ヤー シヤクショエサ ア チョックリ アノー ドーロノ コン  
やあ 市役所へさ。 ちょっと 道路のこと  
デサ ムラノ シューガ ヤイヤイ ユッテクルモンダ"デ シヨン  
でさ、村の 人たちが やいやい 言ってくるので 仕方が  
ネー イソガシーケーガ キョーワ イクデーレ。  
ないから 忙しいけれど 今日は 行くんたゞよ。
- A ソリャー タイヘンデスネー。 ウン ソリャーソート オタク  
それは 大変ですねえ。 うん、 それはそうと お宅  
サンノ ムスコサン コノゴラー ドーデスネ。  
さんの 息子さんは このごろは どうですか。
- C イヤ サー イツモ アイカワラズサ アンマリ センセーニ  
いや さあ いつも 相変わらず あまり 先生に  
ミコー ヨク ナエーモンダ"デ マタ センセーニ アノー  
覚えが よく ないもので また(その)先生に (私が)  
シカラレーサ キヨーモ チョックリ アノー キャーリニ  
お説教をしてもらいに 今日も ちょっと 帰りに  
ヨッテクルツモリダケーガサ。  
寄ってくるつもりだけどさ。
- A オタクサンノ ムスコサン ナカナカ シズカダ"シ エー ムスコ  
お宅さんの 息子さんは なかなか おとなしいし 良い 息子

サンダシ ソンナニ センセーニ アーダ"コーダ" イワレルコター  
さんだし、そんなに 先生に ああだ"こうだ"と 小言を言われることは  
ネージャ ネーデスカ。ナニモ  
ないんじゃないですか。何も

C ナーニサ ヤッパリナ アノー ナキャー ヒヤーッテミルト  
何さ やっぱりな 中に(その環境へ) 入ってみると  
ナカナカ シー ソーバッカニヤー イカナエーモンダデ シー  
なかなか そうばかりには いかないもので うん  
オヤモ クローシルダヨ。 ヤッパリ センセニヤーナ ヤッパイ  
親も 苦労するんだよ。 やっぱり 先生にはな、 やっぱり  
ヒトオシ オサレテルダヨ。  
(威厳で)おさえつけられているんだよ。

A ワシラノ ムスコモ コマルケーガ オタクサンノ ムスコワ  
私の 息子も (世話がやけで)困るが お宅さんの 息子は  
ソンナ コター ネーデショ一。  
そんなことは ないでしょう。

C ナーニナニ ヤッパリサ ヒトン ミテルヨーナ グアエニヤー  
なに やっぱりさ(外から)人が見ているような ぐあいには  
コドマー イカナエーモンダデサ ヤッパリサ アー キャーッテ  
子供は(うまく)いかないものだからさ やっぱりさ 帰って  
キチャ一 ヨク コゴト一 センセニサ テンワデ クレモンタデ  
きた時に よく 小言を 先生から 電話で言われるものだから  
ウチモ カーサント フターリダガツラエーメオ シチャー  
家でも 妻と 二人たゞか 辛い思いを しては  
イルダヨ。  
いるんだよ。

- A ヤッパ コドモワ ミンナ ドコノ コドモモ ナキャー ヒャーッ  
 やはり 子供は 皆 どこの 子供も それぞれの環境へ 入,  
 テミリヤー ナカナカ タエ一ヘンナ モンダエーナー。  
 てみれば なかなか 大変な ものですなあ。
- C フントニア マー ツラエーヨ。 ソエダモンダンデ センセーニ  
 本当には まあ 辛いよ.. それだものだから 先生に  
 モサ ナニカ アゲチャ一 コッチン マー タノシジャー クル  
 もさ、 何か とどけ物をしては こちらで まあ(息子のことを)頼んでは くる  
 ワケサ。  
 わけさ。
- A サー ドーモ……。 ゴメンナサエ マズ ダエージニ イッテラッ  
 さあ どうも……。 ごめんなさい。 ます 大事に 行っていら  
 シャイ。  
 しゃい。
- C エー。  
 ええ。

## 7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
S	鈴木 清光	男	明治27年生まれ
H	鈴木 英雄	男	明治34年生まれ

- S 「イヤ ケッコーナ オテンキデ ゴザイマス ドーモ。  
いや けっこうな お天気で ござります どうも.
- H 「ア一 ドーモ エー ヒテ ゴザイマス.  
ああ どうも 良い 日で ござります.
- S 「ドーモ ハナシ キキャー ムスコサンガ カラダガ ヨワカッタ  
どうも 話を きけば 息子さんが 体が 弱かった  
フーダガ 「イマワ 「ドンナ グアイテスー.  
ふうですが 今は どんな 具合です?
- H 「ア一 アリガトーゴザイマス アノ イマー ケッコー マメン  
ああ ありがとうございます あの 今は けっこう 健康に  
ナッタガネー.  
なったかね.
- S 「ア一 ゾリヤー (H エー) オメデトーゴザイマス (H アリガトー  
ああ それは (ええ) おめでとうございます (ありがとう  
ゴザイマシテ アッ) 「ケッコーデ ゴザイマス ドーモ 「アッ.  
ございまして けっこうで ござります どうも.
- H アノー アンタノ アノ ムスコサンワ 「ドンナ グアイダネ.  
あのう あんたの あの 息子さんは どんな 具合だね.
- S 「エー オカゲサマニイエ (H ハー) ア 「イマー マメデ  
ええ おかげさまでね (はあ) 今は 健康で  
ハタライドルガナー.  
働いとるかね.
- H 「ア一 ゾーカネ.  
ああ そうかね.
- S エー.  
ええ..

H ソリヤ ソリヤー アー ケッコーデ ゴザイマス。  
それは それは けっこうで ござります。

S ソイジャー シツレーシマス ドーモ。 (H アー ドーモ)  
それでは 失礼します どうも。 (ああ どうも)  
ゴメンナンショ ドーモ (H ハイ) アッ。  
ごめん下さい どうも はい

H ゴメンナンショ。  
ごめん下さい。

### 注

(1) あいさつして頭をあげる時出す声で、この地方の習慣である。

## 8. 福井県武生市下中津原町

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

T 谷口松樹 男 明治32年生まれ

S 下出寅義 男 明治36年生まれ

S アー コンニチワ。

ああ こんにちは。

T イヤッ モホニチ<sup>(1)</sup> アハッ。  
いや ああ

S アー オタッシャケノ。

ああ お達者かね。

T アハッ モーオ カラダダケア カタインニヤケドカ<sup>(2)</sup> (<sup>s</sup>アニ)  
ああ もう 体だけは 丈夫なんだけれども  
モー (<sup>s</sup>アーハ) イマデア トシガ イッタラア モー ミ  
もう (ああ) 今では 年が い、たら もう 道  
チ アルクンデモ ナモー ワカイ ヒトンテニ モー ナンデ/  
(を) 歩くのでも そんなもの 若い 人みたいに もう なにでな  
ーテ ボチボチトオ (笑) イマ エー……。  
くて ぼつぼつと 今 エー……。

S アー ケッコ<sup>(6)</sup>……。 ドコ イキナルエンニエノ。  
ああ 結構(だ)。 どニ(へ) いらっしゃるんだね。

T オー キョ アノー タケフニイ<sup>(8)</sup> アノー 力<sup>(9)</sup> アノー コドモア  
うん 今日 あの 武生に あの あの 子供が  
アノー チューモンガ<sup>(10)</sup> キョー タクサンデ トテモ ウチ  
あの 注文が 今日 たくさんで とても 家  
デ テガ マエンチーデ<sup>(11)</sup> (エ-) オジジニ テッタイニ キテクレ  
で 手が まわらないと言うから、 ええ おじいちゃんに 手伝いに 来てくれ  
ンカッчу キョー アサ デンワ 力カッタンヤネ。 (<sup>s</sup>アーハ)  
ないかという 今日 朝 電話(が) かかったんだよ。 (ああ)  
ホイデ イマ アー ナンジャ アノー ベントー<sup>(12)</sup> ノ アノ コ  
それで 今 ああ なんだ あの 弁当の あの 米

メ カシキニ <sup>(12)</sup> ( <sup>S</sup> アー ) ホー。 アノ ナンジャ ~~コ~~ ( 笑 )  
(を) ときには <sup>ああ</sup> うん。 あの なんだ  
ホメカシキクリヤ <sup>(13)</sup> ホノ ワカイ トキカラ サカヤ <sup>(14)</sup> イッテノー<sup>一</sup>  
米ときぐらいは その 若い 時から 造り酒屋 行てねえ  
( 笑 ) ( <sup>S</sup> オー ( 笑 ) ) ャッテルモンヤサケ ナレテルサケ。  
＼ うん やっているもんだから 慣れているから。  
ホイデ オジジノカタ ワカイモントア マタ ホノー エーモ  
それで おじいちゃんの方が 若い者とは まだ その 上手に  
<sup>(15)</sup> ンネ カシーテ クレルサケ エイッチュサケ オー。 ( <sup>S</sup> アー  
といで くれるから いいと言うので うん。 ( ああ  
ソラ~~~~ ) ホンデ キョーモ マタ イアノー ナンジャ アノー<sup>一</sup>  
それは それで 今日も また あの なんだ あの  
コイッチュ キテクレッチュサケ オーイッチューテ <sup>(16)</sup> ( 笑 )  
来いと言う 来てくれと言うから 「おーい」と言って  
イマ ( 笑 ) ジュージノ アノ バステ <sup>(17)</sup> ( <sup>S</sup> アー ) アノ イ  
今 10時の あの バスで ( ああ ) あの 今  
マ イクンデスグネ。  
行くんですね。

S ホラ ゴクローやノー。 ( <sup>T</sup> オー ) ( 笑 )  
それは ご苦労だねえ。 ( うん )

T ( 笑 ) アノ オタクノ アノー オニーサン アノー ウ ナンシャ  
あの お宅の あの ご長男 あの なんだ  
ドコエ エ イマ ~~オ~~ オシコトヤネ。  
どこへ 今 お仕事だね。

S <sup>(18)</sup> アリヤ アレモノ ( <sup>T</sup> ホー ) オカゲサンテ カラタ ~~タ~~ タッシャ  
あれは あれもね ( ほう ) おかげさまで 体(は) 達者

テ ( <sup>T</sup> ホー ) ホデ マー ム <sup>xx</sup> ムラタエ <sup>(19)</sup> ツトメテルンニヤ。  
で ( うん ) それで まあ 村田へ 勧めているんだ。

T アラー ( <sup>S</sup> アー----- ) ホーデスカ。 ( <sup>S</sup> アー ) アノ。 コ  
あらー あー----- そうですか。 ( ええ ) あの こ  
ナンジャ アノ。 マエー イッティナシタノニ <sup>(20)</sup> アノ。 ナンカ  
なんだ あの 前(に) 行っていらしたのに あの なにか  
ゴツゴー デ カワソナシタンニヤ。  
ご都合で お変わりになつたんだ。

S アー <sup>ンニヤ</sup> モー シ ナニシテ ヤッパ <sup>(21)</sup> オンサンノ ウチャ  
うん もう ん なにして やはり おじさんの 家は  
ナニカ <sup>カニ</sup> カニカニツケノー ( <sup>T</sup> フン ) <sup>ヤッパー</sup>リ キ  
何かにつけてねえ やはり 気  
ママ デルデ オタ ガイニ。  
まま(が) でるから お互いいに。

T アッ アー ソー カ。  
あ、 ああ そうか。

S ホデ モーオ ( 笑 ) ( <sup>T</sup> フン フン フン <sup>フン</sup> ) <sup>ナンシテ</sup>  
それで もう なにして  
カワツタンニエー。  
変わったんだよ。

T アー ( <sup>S</sup> エー ) ホーデスカ。 ホラ マー ナンジャ コ ナカナカ  
ああ ( ええ ) そうですか。 それは まあ なんだ こ<sup>う</sup> なかなか  
ソノー キヨービワ モー ソノ アノ ケーキガ チョイット ソ  
その 近ごろは もう その あの 景気が ちょっと そ  
ノー ナンシテルモンジャサケー モー ハイリトテモ ハイレン。  
の なにしてるもんだから もう はいりたくても はいれない。

(23)  
アラ エー トコエ ( <sup>s</sup>エー エー ) マー。 マー オタク /  
あら いい所へ ええ ええ まみ まあ お宅のは  
ア マー マー マエカラ モー ソノー ツトメル/ニワ ハタ  
前から もう その 勤めるのには 働き  
ラキブリガ マジメナサケ。 アーレフ。 ホーデスカ。  
ぶりが まじめだから。 それは。 そうですか。

S アー ア イヤ ホンナコトモ ネーケド ( <sup>T</sup>ハイ ) オカケ  
ああ あ いや そんなことも ないけれど ( はい ) おかげ  
サンデ<sup>(24)</sup> マ ハイラレテ ヨカッタト オモテルンニヤ。  
さまで まあ はいれて よかったと 思っているんだ。

T ホリヤ ヨゴジエンシタ。 ( <sup>s</sup> 笑 ) ヘー。 ホーデスカ。 ホ  
それは ようございました。 へえ。 そうですか。 そ  
ンジャ マー ゴメンナサイ。  
れでは まあ ごめんください。

S アー ア ゴメンナサイ。 マー。 ( 笑 )  
ああ あ ごめんください。 まあ。

T ハイッ。  
はい。

### 注

- (1) 何かを言いかけてやめたものと思われるが意味不明。
- (2) [kaʃadadakeə]
- (3) 体が丈夫で元気のいいことを体がカタイという。
- (4) [ittaʃaa] ゆすりイントネーション。「年をとる」ことをトシカイクという場合が多い。

- (5) 速く歩けなくてとてもいう意味か。
- (6) 谷口氏が元気だと言ったのに対して、それは結構だと言っている。
- (7) 尊敬の助動詞ナル。
- (8) 武生(1日)市内をさす。
- (9) 谷口氏の息子さんの一人が武生市内で寿司屋をやっていてその人をさす。
- (10) 忙しくて自分だけでは手が回らないからの意。マエンチーデ(エ)は本来ならばマエンチューデ(エ)となるところか。
- (11) 当地における祖父の一般的呼称。ここでは谷口氏が自分自身をさしてオジジと言っている。なお、当地方言では家格のちがいなどによる親族呼称の使い分けはほとんどみられず、一般に次のような呼称が用いられる。
- オジジ(祖父)、オババ(祖母)、トーチャン(父)、カーチャン(母)、アンチャン(兄)、ネーチャン(姉)
- (12) 米をとぐことを米をカシク(カシクとも)という。
- (13) [homekaʃ!kiŋwʃja] 米[kome]の語頭子音[k]の閉鎖がゆるんで声門摩擦音[h]に変化している。
- (14) 谷口氏は若い頃から冬の積雪期間中、杜氏といわれる酒造り職人として京都方面の造り酒屋に行っていた。
- (15) [e:monne]
- (16) 手伝いに来てくれという息子さんからの電話に「おーい」と言つて引き受けたということ。
- (17) 下中津原町から1キロほど離れた湯谷町に武生市内と結ぶ定期バスの停留所があり、一日四往復運行されている。10時のバスとは湯谷町を午前10時頃出て武生市内に向かうバスをいう。
- (18) 下出氏の長男をさす。
- (19) 村田とは武生市内数ヶ所に工場を持つ村田製作所のこと。下中津原町でも下出氏の息子さんをはじめ何人もの人が勤めている。
- (20) 以前にほかの所に(勤めに)行っていましたのにの意。イッティナシタのナシタは尊敬の助動詞ナサルの連用形ナシに過去の助動詞タが接続

したもの。

- (21) いわゆる伯父(叔父)に対する呼称。伯母(叔母)はオバサン。なお当地方言では、中年の男性に対する呼称、中年の女性に対する呼称もそれぞれオンサン、オバサンとなり、伯父(叔父)、伯母(叔母)に対する呼称との区別はない。
- (22) 景気がちょっと悪くなっているからの意。
- (23) 下出氏の長男のこと。
- (24) ハイラレテは動詞ハイルの未然形に可能の助動詞レルの連用形と接続助詞テがついた形。当地方言では可能表現の場合、五段動詞では読メル、書ケルなどの可能動詞形よりも、ここの一例のように動詞の未然形に可能の助動詞レルのついた読マレル、書カレルなどが圧倒的に多い。ただし若年層では読メル、書ケルなどの可能動詞形も次第に使われ始めている。一方、一段動詞の可能表現の場合も、老年層では見ラレル、寝ラレルのように動詞の未然形に可能の助動詞ラレルのついた形が用いられ、若年層で使われ始めている見レル、寝レルなどの言い方はほとんどされない。
- (25) 別れる時の挨拶。

## 9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 後木 弘 男 大正11年生まれ

B 東 正弘 男 明治42年生まれ

A アッ アタラシンシ コンニチワ。 (B アッ コンチワ。 )  
新しの衆 今日は 今日は。

ダンダン オーキニヨ。

いつも ありがとう。

B エー ドーモ ドーモ。  
ええ、どうも どうも。

A キョーワ マー アノ ドコエ イキャー。  
今日は まあ どこへ 行くか。

B サーノーラ。 ヨージチュテモ ナイケンド チョット トショリ  
さあね。 用事と言っても 無いけれど“ちょっと 年寄り  
ラノ ヨーキキデ イテ コーカイ。  
等の 用聞きで 行って こようか。

A アー ソーカ。 ソリヤ ゴクローサンジャノーラ。 ンニ。  
ああ そうか。 それは 御苦労さんだね。

B ハイ。 エート ダイブナイ デオワナンダノーラ。 ウシロギクンモ。  
はい。 ええと 大分 出逢わなかったね。 後木君も。  
ンニ。

A アッ ハー。 ホンマニ ダイブナイ デオワナンダノーラ。 ンニ。  
はあ。 本当に 大分 出逢わなかったね。

B ムスコワ コーコー アガッテカラ オーサカノ デ ケーサツノ  
息子は 高校(に) 上がってから 大阪の で 警察の  
ホーオ イットルチューガ ゲンキナカ。  
方を 行っていると言うが 元気か。

A ハ。 マ オーキニ ドーモ スンマセン。 (B アー) アノ  
は。 ま ありがとう、 どうも 済みません。 (ああ) あの

マー オカゲデサエ ドーニカ コーニカ ヤッチャ オレンジャ  
まあ おかげでね どうにか こうにか やっては いるのだ  
ケンド ナニセ アツイスカダヨ (B エー) モニ ホテ カラ  
けれども なにせ 暑いからね (ええ) もう そして 体  
ダモ ナーシャナー (B アー ソーカ) ナツバテト タイリョウ  
も 無いしきね (ああ そうか) 夏ばてと 体力(が)  
(B エー) タラントデ ホデニ ドエライ カシコモ ナーシ  
足りないので それで 大して 賢くも 無いし  
シャ (B ハー) エー エライラシーンジャケンドノー マー  
カ (はあ) ええ 大変らしいのだけれどね まあ  
オカゲデ マー ドーニカ コーニカ ミンナノ シリー ツイテ  
おかげで まあ どうにか こうにか 皆の 尾(い) 付いて  
ホーテ (B ソーカ) イキヨルチュヨーナ コトナンジャワヨ.  
そして (そうか) 行っていると言うような 事なのだよ。  
(笑)

B マーノー ヒトモ フエテ キタシ ハンザイモ フエルシ ナカ  
まあね 入も 増えて 来たし 犯罪も 増えるし なか  
ナカノー コレカラノ ケーサツカンニ ナッテモ エライヤロー  
なかね これからね 警察官に なっても 大変だろう  
ケンドノー (A ンー) マー シッカリ シリュ タタイテノー  
けれどね まあ しっかり 尾を 叩いてね  
(A ンー) マー ジンゴニ オチンヨーニ (A アー) アノ  
まあ 人後に 落ちないよう (ああ) あの  
オタガイニノー キオ ツケオーテ ワタローライ。  
お互にね 気を 付けあって 渡ろうよ。

- A アー オーキニ オーキニ。 マー ドーニカ コーニカノーフ  
 ああ ありがとう。 ありがとう。 まあ どうにか こうにかね  
 マー ツトメテ クレリヤー イーガトモーンジャ。 マー ライ  
 まあ 勧めて くれれば 良いかと思うのだ。 まあ 来  
 ネン サンガツニ ソツギョーナンジャケンド マー シリカラテ  
 年 三月に 卒業 なのだけれど まあ 尻からでも  
 モ イー ドーニカ ソツギョー (B アー) デキタラトモーテ  
 良い、 どうにか 卒業 (ああ) できたらと思って  
 オモーチャ オレンジャガ (B アー) オヤワ。 (笑)  
 思っては いるのだが (ああ) 親は。
- B ボンニワ カエル カエルヨーナ ナニ アレンカイ。  
 盆には 帰るような 何(が) あるのかい。
- A ウン。 (B イマ) マー ボンニ トーカニ カエッテ キテカ  
 うん。 (今) まあ 盆に 十日に 帰って 来て  
 ラ ニジューニニチチュータトモーンジャケンド トーカアマリ  
 ニナニ日と言ったと思うのだ。 十日余り  
 ヤスミ アルトモーンジャ。 マ ソレン イチバン イキスキ  
 休み(が) あると思うのだ。 ま それが 一番 息抜き  
 ナンジャロートモーンジャ。 (B シー) マー オヤノ アサマシサ  
 なのだろうと思うのだ。 まあ 親の 浅ましさ  
 デ カエッテ クルノ マ イチバン タノシミニ シテルヨーナ  
 で 帰って 来るの(を)ま 一番 楽しみに しているよう  
 ワケ (笑いながら) ナンジャヨ。 (笑)  
 訳 なのだよ
- B オヤモジャ オヤモジャ ローケンド ジーサンガノー (A シー)  
 親もだろうけれど 爺さんかね

メー イレテモ イトー ナーホド カワーガッタ マゴオ  
目(に) 入れても 痛く ないほど 可愛がった 孫を  
シユッセシテ クレリヤ イーガト オモーク ネテモ オキテモ  
出世して くれれば 良いがと 思って 寝ても 起きても  
アノ イノル コッチャロノ. マー カエッテ コイ ユータ  
あの 祈る 事だらうね. まあ 帰って 来い(と) 言って  
ッテ クレヨ.  
やって くれよ.

A アー マーサイ ホンマニノーラ マゴチュー／ノワ コヨリ カワ  
ああ まあね 本当にね 孫と言うのは 子より 可  
イーチューグライスカサイ ジーモ ソリヤ ホンマニ イチバン  
愛いと言う位(だ)からね 爺も それは 本当に 一番  
ナニ シンパイシテ クレトルンジャ ロートモーンジャ ケンド  
何 心配して くれているのだらうと思うのだけれど  
ン. キタイニ ソーテ クレリヤ イーガトワ オモートル  
期待に 添って くれれば 良いがとは 思っている  
ンジャ. ジャー.  
のた. では.

## 10. 鳥取県八頭郡郡家町

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 土井 賴重 男 明治30年生まれ

B 衣笠 光寿 男 明治38年生まれ

A ナント キヌガサクンダエーナエーカ。  
なんと 衣笠くんではないか。

B アー コレア ダレカト オモエヤ コーチョーセンシエースカ。  
ああ これは 誰かヒ 思えば 校長先生ですか。

A アー シバラクダッタナー。  
ああ しばらくだったなあ。

B サー シバラクデスガ (A キヌガ----) ドーデス ドコニ  
そう しばらくですね どうです どこに  
イキオラレルデスーナ。  
行かれるところですか。

A フシャー マー アノ ガッコーカラ カエリヨル トコロデナー。  
私は まあ 学校から 帰る(帰りつつある) ところでなあ。

B ソーデスカ。  
そうですか。

- A マー チョットー シモキニ <sup>(1)</sup> チョットシタ コトガ アルモンダケー  
 まあ ちょっと しもきに ちょっとした 用事が あるものだから  
 チョット ソーダンオ ウケトッテ マー イマ チョット ハヤエー  
 ちょっと 相談を 受けて まあ 今 ちょっと(帰る時間には)早い  
 ケド カエリヨル トコロダケドナ。  
 けれど 帰る ところだけれどね。
- B ソーカナー。ンダー ハナシュー キク トコロガ センシェー  
 ですか。それで 話を(話に) 聞く ところ(です)が 先生は  
 チョット カラダオ イタメテオラレルソーテスガ ドーテスナー。  
 ちょっと 身体を 痛めてあられるそうですが どうですか。
- A ンマ ワシャー マー アンマリー ンー ケンコーナ カラダデ  
 まあ 私は まあ あまり 健康な 身体で  
 ノーテナー マー コノゴロー マ オイシャニモ ミテムラッテ  
 なくてね まあ 最近 まあ 医者にも 診てもらって  
 マー ツカエワ ナエーッチューコトデ マー ガッコーニワ  
 まあ 差し支えは ないということで まあ 学校には  
 イキョールケド マー ヤッパリ トシダナー ドモ ワカエー<sup>ト</sup>  
 行っているけれど まあ やっぱり 歳だねえ どうも 若い  
 トキデア ナケア イケンワ。  
 時でなければ だめだよ。
- B ンマ ナンニ シテモ キョーイクカイノ オサデスケー マニ--  
 まあ 何に しても 教育界の 長老ですから まあ--
- A イヤ マー ドモ モー ハヤ ネンパイダケー ワシラモ  
 いや まあ どうも もう はや 年配だから 私なども  
 イケンケドナー。  
 (身体が)だめだけねえ。

B マ ハヨー カラダオ ナオイテムラッテ モー マスマス オタッ  
まあ 早く 身体を なあ) てもらって もう ますます お達  
シャン ナッテ。  
者に なって。

A マー ソリヤ エーガ<sup>(2)</sup> アンタゲー) ムスメサンワ ナカナカ  
まあ それは 良いが あなたの家の 娘さんは なかなか  
デキガ<sup>(3)</sup> エーッチューコトダガ アー ドーダエ アノ ダイガク  
成績が 良いということだが ああ どうかね あの 大学  
ニューシノホーフ ア エー グアイニ イキタカ<sup>(4)</sup>。  
入試の方は 良い 具合に いったか。

B エー マー マンガ<sup>(5)</sup> ヨーニ (A アー ソリヤー ケッコー。)  
ええ まあ 運が 良くて ( ああ それは 結構。 )  
ハイリマシテヨー。  
入りましてね。

A ソリヤー ケッコー。 マー ダイタエ アタマノ エー  
それは 結構。 まあ だいたい(そもそも) 頭の 良い  
リュー<sup>(6)</sup> ダケナー。  
たち(性質)だからねえ。

B マー マグレ (A マニ) アタリデショーケド マー シトアン  
まあ まぐれ ( まあ ) あたりでしょうが まあ 一安  
シント オモイヨルトコロデス。  
心と 思っているところです。

A アー ジュージョー ジュージョー。 マー アレダッタラ マー  
ああ 結構 結構。 まあ あれ(あの娘)だったら まあ  
セイコー ウタガイ ナシダ。  
成功 疑い なしだ。

- B イヤ ソーユー (A アー) コトモ ナイデスケドナー マー  
いや そういう (ああ) ことも ないですけれどねえ まあ  
ハイリタイッテ イーヨッタ トコロニ ハイレタデスケー マー  
入学したいと 言っていた ところに 入れたのですから まあ  
ミンナガ ヨロコビオルデスケド。  
皆が 喜んでいますけれど。
- A アー マー キオツケテ アゲナンセーヨ。  
ああ まあ 気をつけて あげなさいよ。
- B エー アリガトーゴザンス。マー シエンシェーモ マスマス  
ええ ありがとうございます。まあ 先生も ますます  
(A アー) ケンコーニ リューイシェラレマシテ。  
(ああ) 健康に 留意なさいまして。
- A オーキニ。  
ありがとう。
- B ガンバッテツカンシェーヤ。  
がんばってくださいよ。
- A ジャ サヨーナラ。  
じゃ さよなら。
- B エッ。 <sup>(8)</sup> サイナラ。  
さよなら

## 注

- (1) 地名。シモキサイチ(下私都)の略。
- (2) 「マー・ソリヤ・エーガ」まあ、それはそれとして。
- (3) [ə:]
- (4) この方言では「行く」の連用形は「イキタ」「イキテ」となり、音便形を用いない。
- (5) 『まん 運。めぐりあわせ。「マンガ悪い」 新潟県中蒲原郡・知歌山・大阪・京都・中国・高知・大分・佐賀・長崎県千々石・南島喜界島。』(『全国方言辞典』)
- (6) 「リュー」 習慣、癖、性質、性癖(「流儀」の「流」か)。  
用例: アノ人ワ酒が好キナリューだ。  
朝ノ早イリューだ。
- (7) 「ジュー ジョー」 「この上なく満足である」の意。「重畠」かという。
- (8) [?] のような音声。あいさつのとき文頭もしくは文末で良く使われる。『方言談話資料(9)』の57ページ、注(2)参照。

## 11. 島根県仁多郡横田町大字大馬木

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 戸屋 英明 男 明治36年生まれ

B 勝部 定市 男 明治37年生まれ

- B アラ オヤカタ オデ<sup>(1)</sup>カケデゴザエスネ。ヤー イツイモ ドーモ  
あら 親方 お出かけでござりますね。やあ いつも どうも  
ニヨーバガ オシェワニナーマスィテ アリガトーゴザイマスィテ。  
女房が お世話になりまして 有難うございまして。
- A ヤ カツイベサンカネ。コンツイワ。アーキョーワネ チョット  
や 勝部さんかね。今日は。ああ 今日はね ちょっと  
オーヨソカラ ヤマノコトデ ソータンスィタイツイコトダ<sup>(2)</sup>テネ。  
ああ よそから 山の事で 相談したいということだからね。  
ソコエ エカカトモーテ デカケタトコーダ<sup>(3)</sup>ガネ オマエトコワ  
そこへ 行こうかと思って 出かけた所だがね あんた(の)所は  
ダレモ ゲンキシタカネ。  
誰も 元気かね。
- B ソリヤー ヨー オデカケデゴザエス。ミンナ ゲンキデ ャッショー<sup>(4)</sup>  
それは よく お出かけでござります。みんな 元気で やってい  
マスィテネ。  
ましてね。
- A ウーン ウーン ハー ソリヤー ナニヨリ ソータガ アン  
うん うん はあ それは 何より。 そうだが あん  
オマハントコニヤー ウケースィーガ オッタハズィタガ ツイカ  
あんた(の)所には 若い人が 居ったはずだが 近  
ゴロ ドゲスイショーカネー。  
頃 どうしているかね。
- B ワケーモンガ オートコーテ<sup>(5)</sup> ナニカ ショクオ モタシェニヤ  
若い者が 居るところで(して)何か 職を 持たせなければ  
エケントモーテ アレコレ カンガエショーマスィガ シェック  
いけないと思って あれこれ 考えていますが せっかく

オヤカタントコエモ ソーダン キタラトモーテ オモーチャンコト  
親方の所へも 相談(に) 行ったらと思つて 思っていること  
デスイガ ナカナカ エー スイーショクグツイガ アーマシテネ<sup>(4)</sup>  
ですが なかなか よい 就職口 が ありませんでね  
コマッヂョーマスイガ マー フトツイ イートコガ アッタラ  
こまっていますが まあ ひとつ よい所が あつたら  
マタ シェワ ナランエンデショーカ。<sup>(5)</sup>  
また(あ)世話(に) なれないでしょうか。

A フン フーン イヤ オマンモ スッショラッシャルレトーリネー ナニ  
ふん ふん いや あんたも 知つてあられる通りねえ 何  
ブン イナカノコトデ ツイトメグツイト イヤー マー ヤクバカ  
分 田舎の事で 勤め口と 言えば まあ 役場か  
ノーキョーク スィンリンクミヤイグライナコトダエ。 ソコニヤー  
農協か 森林組合 ぐらいの事だ。 そこには  
ソレゾレ イマンゴロ ツイトメチヨーモンダケン ソノモンガ  
それぞれ 今頃 勤めているものだから その者が  
ヤメドモ シェニヤー ナカナカ エー クツイワ ナイダガ。  
やめでも しなければ なかなか よい 口は 無いのだが。  
イヤ ソゲ イフッシャリヤー マタ カンガエチョカ。 マ アー  
いや そう 言われるなら また 考えておこうか。 まああ  
ドッカ エーコトガ アリヤー サガエテアゲー。  
どこか よい事が あれば 探してあげる。

B ハイ マー オヤカタ ココロニ カケチョットテ ニヤータトコー  
はい まあ 親方 心に かけていて 似合った所  
ガ アリヤー マタ シェワン スイテヤッテ クダサイマスィヤーネ  
が あれば また 世話を してやって 下さいますように

オネガイイタスィマスイケン。ツィット ヨッテ ヤスインデ クダサイ  
お願ひ致しますから、ちょっと 寄って 休んで 下さい  
マシェヤ。  
ませよ。

- A オッ シェッカクダガ キョーワ エマ サッキ イータトコニモ  
あっ せっかくだが 今日は 今 さっき 言った所にも  
イカニャーイケンスイ イソイジョーケン。マ カナイスィーニ  
行かなければいけないし 急いでいるから。ま 家の人々に  
ヨロシイー イーテガッシャエ。 ドーモ (<sup>B</sup>~~~~~) ダンダン 有  
よろしく 言って下さい。 どうも どうも。
- B ドーモ ドーモ。  
どうも どうも。

### 注

- (1) 「ゴザイマス→ゴザエス→ゴダエス」など出雲で広く言う。
- (2) 「モッテ」という出雲地方一般と違って、広島県に近いこの地方ではウ音便が多い。
- (3) 「オマエサン→オマハン」は時折出雲地方一般で聞く。
- (4) あなたの家に行くをあなたの家に来ると一般に言う。ここではこの用法が用いられている。
- (5) 「アリマセンデ→アリマセデ」、「イカンデモヨイ→イカデモヨイ」は一般的によく言う。
- (6) 「ナランエンデ」は「ナラエンデ」の言い誤りと思われる。

## 12. 愛媛県越智郡伯方町木浦

詠し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 村上寿一 男 明治30年生まれ

B 山岡寅夫 男 明治42年生まれ

B エー ムラカミサン。コンニチワー。

え、 村上さん。 今日は!

A ヤー。コンチャ一。

やあ、 今日は。

B エー ドチラエ オイデテス カー。

ええ、 どちらへ おでかけです。 か?

A ンー。 チョット ヤクバカラーッ…<sup>(1)</sup> コイ ユーモンテ<sup>(2)</sup> (Bア一。)  
うん。 ちょっと 役場から、…… 来(ヒ) 言うので。 わあ。

イキヨーンタガ一。オ一。

行こうとしてるんだよ。 よ。 わあ。

B ソーデス カ。 (Aア一。)  
そうです カ。 (ああ。)

A アンタガタナー エー ムスコガ オッタガ アヤ一 ドガシ<sup>(3)</sup> シ  
あなた方には。 …… 猿子が いたが、 あれは ビラ して  
—  
ヨーリヤ一。  
るのか?

B やー。ウチモー タイシテ<sup>(5)</sup> エー コトモ ナイケンド ワカイ  
やあ。 うら(の息子)も、 たいして、 …… こども な“いけれど” 若い  
モンシャケン ゃッパー キョービー / コト ヨー。ジドーシャ  
ものだから やはり、 こんにちの こと よ。 自動車へ  
エ ノッテ ハシリオライ。  
来て、 走っているよ。

A アー ソー カイ。 (B ソー) イヤイナー。モー キョービー / コツ チャケン  
ああ。 そー かい。 (うん) ハヤハヤ。 もう こんにちの ことだから  
ソーユー アタラシイ コト ヤラニヤ シヨーガ ナイ ワ。  
そういう 新しい こと(を) やらねば しようが ない よ。  
ケツ コージャー。  
結構だ。

B イー。ソヤケンド ナニー ナニー <sup>(4)</sup> ムラカミサン。ナニー や  
いえ。 そつたければ、 何、 何、 村上さん。 何、 役  
クバエ オイデルンデス <sup>↗</sup> カ。  
場へ 行かれるのです カ?

A シー。ヤクバエ トシ トットル ウチニ<sup>(7)</sup> モー サイサイ コイ  
ム。 役場へ、 年(と) とている のに、 もう 再々 来い。  
コイ エウンテ ヨワリオル ガー。  
来((と)) 言うので、 固っている よ。

B アー ソー カナ。 (A オー) イヤー ドーモ オセウン ナリマスー。  
ああ、 そー かね。 (おう) ハヤア、 どうぞ お世話に なります。  
(A イヤ。 イ……。) エー ナニ ヨー。 ゲンキテー……。  
ハヤ。 “……。” まあ、 何 よ。 元気で……。

A シー。 ソーイ ソーイ。 モーオマイ。 ヒツチハイ<sup>(8)</sup> ヤク タタン  
うふん。 うう、よ。 うう、よ。 もう、 あなた 久松の音を越え。 役に まだな。

A サッパリ。 (B 笑) モー トシ トッテ。  
わ。 サッパリ も、 年(を) とて。

B イーヤー。 アンタガ一 ゲンキデー (A 笑) ミナ ナン ヨー。  
ええ。 あなたが 元気で ( ) みな 何 よ。  
ヤルケニ (A ンー。) ウチノ モンモ ララナ ワイ。 (A ンー。  
やらから。 うん。 うちの 者も 集た よ。 うん。  
) ジャー ケンド マー ゴメンナサイ。  
では。 しかし。 まあ。 ごめんなさい。

A アー。 (B ドーモ。) マー ゴメンナサイ。  
ああ。 どうも。 まあ。 ごめんなさい。

B エー オジャマ シマシター。  
ええ。 お邪魔 しません。

A マー ミンナ ヨロシュー ユートイテ クダサイ。  
まあ。 みんな((：) よろしく 言っておいで ください。

B ヘー。 サイナラ。  
はい。 さようなら。

注

- (1) 言い淀み
- (2) ロジもり氣味で、聞きとりにくい、「モンテ」と解される。
- (3) ドガニ……「ドガイニ」のつづまとしたもの。
- (4) ショーリヤー……「シオルヤ」のつづまとしたもの。
- (5) 息を吸う音
- (6) 話すべき次の内容を模索しているところである。
- (7) 聞きとり困難。文脈上は、直接の「へのい」であるが、「ウチニ」と発音されていうように聞かれる。
- (8) かたことめいた言ひ方が、早になされると、前後關係から、標記のように、解される。
- (9) 「ジャ一」と「ケンド」との間に、場面転換の大きな間がある。しかし、アクセントの山の高さは、同じである。

### 13. 高知県南国市岡豊町滝本

話者

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山崎 貞男 大正10年生まれ  
B 山崎春井 男 明治35年生まれ

- A アラ、 センセイ、 デスカ。 シバラク、 デ、 ゴザイマシタ。  
あん、 先生 ですか。 しばらくで ございました。  
ゴゴブサタオ シテ オリマシタ、 ガ センセイ エライ、 デン  
御沙汰として 居りましたが 先生は えらく 元  
キナ。 マンダ ワコ、 ゴザイマスネー。  
気分、 まだ 若い ございますねえ。
- B イカノ。 イカノ。 ワシモネー ナナジュー、 ナナサイニ ナッタン  
いや。 いや。 わしもねえ セナセナオに なつた  
ガ キミワ エライ ワカインガ チットモ カワリガ ナイヨ  
が 君は えらく 若い が すこし 変りが 無、  
ーナ、 ガ イクトニ ナッタカネー。  
うだが いくつに なつたかねえ。
- A ハヤ オマサン センセイ ロクジューイチニ ナリマシタフネ。  
はや あなた 先生 六十一 になりましたよ。  
ロジンクラブ、 イナネンセイ、 デス。  
老人 クラブの 一年生 です。
- B イマ、 ロクジッ サイングライワネー ワカイ モンヂ。 ハツラ  
今の 六十オ ぐら、 ばねえ 若い ものだ。 ほつ  
シタル セイネン矣 ヨ。  
つたら 青年 だよ。
- A ワリー コトオ シテ ャンチャ ボーズン、 デ センセイニ ゴメ  
悪い ことを して やんちゃ ほうずで 先生に 御  
イワクオ カケテ、 トキカラ ソレ アレカラ ハヤ ゴジ  
迷惑をかけっていた ときから それ あしからず はや 五  
ユーネン ハンセイキオ スンギマシタ。 ツキヒノ タツノワ  
十年 半世紀を 過ぎました。 月日の たづねは

ハイ モンデスネー。

早い ものですねえ。

B ソーンヂ ネー。 イー <sup>(1)</sup> ムスコサンワ ナニカネー ヤッパリー  
そうだねえ。 いい 息子さんは うちにかねえ やっぱり  
ニチギンエ <sup>(2)</sup> トゥトメテ オイン デルカネ。  
日銀へ つとめて らいでにぶつろひね。

A ハイ コーネシテンニ オリマス。

はい 高知支店に 居ります。

B アタマノ エー セイトンヂ ッタキニ モー エー イスニ ス  
頭の上の 生徒だつたから もう 上へ いすに 坐  
ワリヨルロー。  
ってろだろうねえ。

A ノドーシテ ノドーシテ。 ヤッパリ カエルノ コワ カエル  
どうして どうして。 やっぱり かわづの 子は かえる  
デスラー。 トコロノ デ センセイワ キョーワ ノドチラエ オ  
ですよ。 ところで 先生は 今日は どうもへお  
イントンデス。  
でかけです。

B ワシカネ。 キョーワ ニチヨーイナエ イテ コイオ ノゾイテ  
わしかね。 今日は 日曜市へ 行て 鯉を のぞいて  
ミヨーカト オモーテ マタ キニイッタ ガノガ アッタラ  
みよいかと 思って また 気に入ったのが わたくし  
コーテ ミヨーカト オモーテ ャテ キタ トコローデヤー。  
買ってみよいかと 思って やって 来たところだ。

A ソリヤー チョーンド ヨンゴザイマス。 ウチノ キンジョノ  
それは どうぞ ようございます。 うちの 近くの

ヤマサキタカシト ミッングト フターリンガ マイシエー =  
山崎高志と 美津九と = 人 が 每週 日  
ヨーカチエ コイオ モテ イキユーズガ ゼヒ ソノ ヒトニ  
曜 市へ 魚を 持つて 行つて いろ ば ゼひ その 人に  
セワシテ モライナサイ。 メッタナ ヒトニ タノミヨッタラ  
世 話して しいいなさい。 めたな 人に 頼んで いい  
ツカマサレルキニ コノ フターリラニ タノーナダニキー<sup>一</sup>  
(変なものを)つかまされるから この 二人などに 頼んで おけば  
ンダインド ーブンデ ンゴザイマスジネ。 ゼヒ ソノ ヒト  
大 夫 夫 で ござりますよ。 ゼひ その 人  
ニ セワシテ モライナサイヤ。  
に 世話して もいいなさいよ。

B シリヤ エー ユトオ キイタ。 ワシモ ソー ユー ヒトニ  
それは よい ことを 聞いた。 わいし うう いう 人に  
タノンデ マー ミタテテ モローテ コーテ ミヨーカト オモ  
頼んで まあ 見立て しろ て 買つて みよかと 思  
ーテ イキヨラー。  
つて 行つて いいから。

A マー ホイタラ イテ オインデ ナサイマセ。  
まあ うしたら 行つて いいで なさいませ。

B ヘー アンタモ マー ンゲンキン デネー。  
へち あんたも まあ 元気 でね。

A ハイ センセイモ ンドージ オカラソダオ タイセツニ。  
はい 先生も どうぞ おからだと 大切に。

B アー。  
あら。

- A オクサンニモ ンドーゾ ヨロシ一ニ モーレテ クンダサイマ  
 奥さんにも どうぞ 上ろしく 申して 下さいま  
セ、  
セ。
- B アリ ガト。 サヨーナラ。  
 あり がとう。 さようなら。
- A サヨーナラ、  
 さようなら。

### 注記

(1) 感動詞

(2) オイデル（おいでになろ。いれ、いやる）西日本で広く使用されているようである。これが方言ではなくて、共通語と思っている土佐人が少なくない。

## 14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 平尾忠太郎 男 明治31年生まれ  
B 清口 誠治 男 大正4年生まれ

B オジヤーン。

おじいさん。

A エー。

はい。

B ヨカ ヒヨリジャッタ ナー。

良い 日和だったねえ。

A ヨカ ヒヨリ ナイテ。 (笑)  
良い 日和に なって。

B アッテ ギョーサーン キューワ アッテー ヨカ キモンドン  
ほら たくさん 今日は ほら 良い 着物など  
キトットノ ドケ イクト。 ドケ イコテ オモテ <sup>(1)</sup>ウッタッ  
着ている様子だがどこに行くの。 どこに行こうと 感って 構えて  
トル カナー。  
いるのかね。

A ナガウラサン フサーシュ一 ヤクバノ ノーキョーンテ イカン  
長浦へ 長く 役場の 農協のと 行かな  
ケンカー (Bン一) イロイロ シゴトノ タマットルケン イ  
いから うん いろいろ 仕事か たまっているから

タテ ミューテ オモテ サー。  
行ってみようと 思って ねえ。

B ハー。

はあ。

A ムスコワ ドギヤン シトロ カー。  
息子は どんなに しているだろうか。

B ムスコテ ハジメワ <sup>(2)</sup>ドギヤン ~~ドギヤン~~ <sup>(3)</sup>ドギヤン シオットジャッタロー。  
息子って(言うと) 一は どんなに しているのだったろうか。

(A笑) アノー ドギャンテー ユーガ ナンノー アルモ アッ  
あのう どんなにと 言うけれど どうして あれも ほら  
テー アノー ナンバー ミシェドン シター ソシテ アルワ  
あの 何を 店など したり そして あれは  
アギャントガ シートルケン サ。 アノー リヨーンバ シート  
あんなのか 好いているからね。 あの 漁を 好いて  
ルケン (A笑) ソイテー ボライオドンバ <sup>(4)</sup>ヨブリー イカン  
いるから そして 鮎などを 夜突きに 行かなければ  
バテ イーオッタトノ マター ツキギャ イタッジャロー。  
ればと 言っていたのだが また (結び) 夜突きに 行ったのだろう。

A アー ソー。 ソンナラ (B ホナ ノー。) ソンナラ イタチ  
ああ そう。 それでは それでには ねえ。 それでには 行って  
クッテー。  
来るから。

B ハー <sup>(5)</sup>アノ イタテ キナハレー。  
はい あの 行って 来なさい。

A ウン。  
うん。

## 注記

- (1) 「ウッタットル」は、「準備をしている」の意。
- (2) 「ハジメ」は、人名で、清口 一氏。
- (3) 「シオットジャッタロー」とあるのは、息子が、詰者と別居していることによる。
- (4) 「ヨブリ」は、夜、船で、鉛を使ってする漁。昔は、あかりには、松明を用いたが、今は、カーバイトのガスランプを用いる。鉛でなく対象魚種は、主に鮓、ほかに「ちぬ」「こち」「かれい」など。
- (5) 「アノ」は、簡投詞。



## 場面(8)

うわさ話をする



# 1. 青森市大字牛館

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 桜田 鉄弥 男 明治36年生まれ

B 八木沢千代三郎 男 明治43年生まれ

B ネッテアガ(1). ネッテアガ(1). ミンナ ネッテアベ(1).  
眠ってるか. 眠ってるか. みんな 眠ってるだろう.

A アーエ ナン(B タ) ナンガ(A タ) アルガ(A タ).  
はーい 何か あるか.

B エ、タエヘンダジャー. (A タ) オーミンズ(2) オーミンズ(2).  
大変だせ. 大水. 大水(だ).

A ナンテア.  
何だって?

B エー.  
はい.

A ヤッ ヤヤヤー ナンモ ネッテ スラネステ アッテア、ホラー.  
やあ やあやあ 何も 眠って 知らなかつたよ. ほら.

B オメアダノ スタノ(3) ナモ スタノ タモ ナンモ ハー スッカ  
お前の家の 下の 田も 何も はあ すかり  
ド ツデ マッテア.  
水びたしになってしまったよ.

A アー ホンダンダ<sup>(4)</sup> ヘバナー。 (B ウンニ) オヤ コリヤ  
ああ そうなんだ(うう). じゃなあ。 うん オウ ニリヤ  
コマッタ モンダナ。  
困った もんた(う)。

B ヤーヤ キョー ホラ ハゴダエサ エグ ツモリテ ミンナ  
やあやあ 今日 ほら 函館へ 行く つもりで みんな  
スタグステ マッテアズ、ホラ。  
支度して しまった(のに) ほら。

A ウン ウンウンウン ウー ホンダナー。 (B ウンニ) ケサ。  
うん うんうんうん そうだ(う)なあ。 うん 今朝、  
ナンダ、ノーゼクミアエデ ホラ スコーキサ ノッテ ミー キ  
何だ、 納税組合で ほら 飛行機に 乗って みようと  
ナテラキヤ (B ウン) コリヤ<sup>(6)</sup> コマッテ マッタナ。  
思っていたら うん 困って しまったな。

B ヤ マガリヤノ スタノヨー。 (A ウン) ウン サエドースエ  
やあ 曲り屋の 下のよ。 うん うん 斎藤俊栄  
ノ、オンチャマノ<sup>(7)</sup> (A ウン) エダキヤ、ハ一、ズートツデ  
の。(つむり) 次男の うん 家は、 はあ、すうと 水びたして  
ウエサ ノボテ マッテア、ハ一。  
(水が)上にのぼって しまったよ。 はあ。

A ナーンテ。 (B ウーン) ヤー ヘバ ワーモ マガナッテ。  
なんだ(う)って? うん やあ じゃ 吾も 身支度して、  
エッテ ミネバ マネジャー。  
行って みないと だめだよ。

B ウンウー (A ウン) サー コンタ<sup>(8)</sup> キンコーバスモ ナガエデ  
うんうん うん さあ こんど 金高橋も 流れて

キタズセア。<sup>(10)</sup>

きたと言うしよ。

A ウー ホンダネナー。 オソロス ミンズダド。

うん そうだよなあ。 恐ろしい(洪)水でないか。

B エヤ アズモ エガエグ ナッテ マッタス ハー。

いや あっちも 行かれなく なって しまったし、 はあ。

A エヤ ドンダステ コロホンド ミンズ キタズ オラ<sup>(11)</sup> マンダ  
やあ どうだい これほど 水(か) きた(のは) また

ミンダ ゴト ネーナ。

見た こと(か)ないな。

B ナンジューネンダベーナー。

何十年(来)だらうなあ。

A 杰ンダナー。 (B アー) ヤーヤ。

そうだなあ。 (ああ) やあやあ(大変だ)。

B ダエエズ アオモリサ エガエヌス ホラー。

第一 青森(市街)へ 行かれないし ほら。

A ウンウンウンウー (B ウン) ヤ コエダバヨー (B ウン)  
うんうんうんうん (うん) やあ これならよ (うん)

オラバステ マエネイエ、 ショーボデモ ミンナ カエデー (B  
俺ばかりで だめだぜ、 消防(員)でも みんな 借りて

ウン) ウン ヤ ソエゴソ スマツサネバ マエンジャ。  
うん) うん やあ それこそ 始末しないと だめだよ。

B ヤ ヤジャグノ ホーモ ア オーサワギセア、 ハンショ タデアテ<sup>(12)</sup>。  
ハッ役の 方も 大騒ぎよ。 半鐘(を) 叩いて。

A ウーン アラ アノ ハスノ ウエノ フト ミネガ、 アラ

うん あれ あの 橋の 上の 入(を) 見ろよ。 あれ(は)

(B ウンウン) ドンデーナッ.  
(うんうん) どうなんだな。(ひどい).

B ヤーや タエヘンダ、コレア ドーセ、コレア。  
やあやあ 大変だ。ニリヤ どうする？ニリヤ。

A ドッスモ ナンネアナ、(B ウン) コエダラナー、ココノ  
どうしようも ならないな、(うん) これならなあ。ここノ  
<sup>(14)</sup> エノ ナガモナ ホラ コリヤ ミニズ オワレバヨ、(B ウン)  
家の 中もな ほら これは (洪)水 (が) 終ると、(うん)  
スッカド コンタ エノ ナガ ミナ アー スマツステ ミンナ  
すっかり こんど 家の 中 みんな ああ 始末して みんな  
ステ (B ホンダネ ハニ) テズダエサネア マネナー。  
で そうだよ はあ 手伝いしないと だめだなあ。

B ハゴダデドゴノ サワキデ ネンタエナー。  
函館 どころの 驚きで ないようだなあ。

A ウーン コエダバ ナンテ (B ウン) スコキドゴデ ネージャ。  
うん これなら なんと (うん) 飛行機どころでないよ。

B ウン (A ウン-) ハゴダデ マ チュースニ ナッタテヨ  
うん (うん-) 函館 (は)まあ 中止に なったってよ  
(A ハハニ) エンマ マワテ キタジャー。  
ははあ 今 回って 来たよ。

A <sup>(16)</sup> スタドモ <sup>(17)</sup> グット ホラ スコキサ ノルヤズ ノリハンジュスタ  
だけれども まったく ほら 飛行機に 乗るの(を) 乗りはずした  
エナー。 (B ノリハンジュステ マタエナー) ヤ ヒコキドゴ  
よな。 (乗りはずして しまったよなあ) やあ 飛行機どころ  
デ ネーヤ。 (B ウン) ウン ホエダバ ミンナステ ムラノ  
で ないよ。 (うん) うん それなら みんなで 村の

- フト (B ウン) ホラ サエドノ オンチャマノ エーモ  
 人(が) うん ほら 斎藤の 次男の 家も  
 ミンナ カダズゲデ ケネア (B マ) マエネスヨー。  
 みんな 片付けて やらないと ( まあ ) だめだじょう。
- B オ オズズデ ミンナ テズデネ エグベスヨー。 (A ウン)  
 落ち着いて みんな 手伝いに 行こうよ。 ( うん )  
 ウン。  
 うん。
- A マ ミンズ フケアダラヨー。 (B ウン) ミンナステ コンタ  
 まあ 水(が) 引けたらよ。 ( うん ) みんなで こんど  
 アズバッテ (B ウン) ウン ナガ ミンナ エート カダズ  
 集まって ( えん ) えん 中(を) みんな えーと 片付  
 ゲデ (B ウン) ソーズステ ケネア <sup>(18)</sup>マネビヨン。  
 けて ( うん ) 掃除して やらないと だめだろう。
- B ウン キョー ミンナデ ヤービス。  
 うん 今日 みんなで やろう。

### 注

- (1) 当地では「ネデル（寝ている）」、「ネッテル（眠っている）」の相違がある。ちなみに同じ「ネル」でも、だいたい「ネル（寝る）」「ネル（眠る）」のようにアクセントによる違いがある。
- (2) 一般に「洪水」よりも「オーミンズ」「ミンズマワス（水回し）」などという。
- (3) 漢字を当てるなら「漬く（終止形）」。
- (4) 「ホンダ<sup>ンダ</sup>」のあとに、疑問の助動詞「ガ」か、推量の助動詞「ベ」が付くべきである。

- (5) 「ハゴタデ」と発音することが多い。函館へは飛行機で慰安旅行に行く予定だった。
- (6) 不明瞭な発音。
- (7) 昔の農家の構造、つまり南部曲り屋のこと。青森市近在の農家は曲り屋式がかなり存在した。本文の「マガリヤ」は、桜田敏光家（収録場所）をさす。数年前に解体し新築（現代風）したが、それでも曲り屋の呼称は残っていて、牛館では「マガリヤ」といえば、必ずここをさすことになっている。
- (8) 「斎藤家のオンチャマ」の意。オンチャマは「叔父様」から出たことばと言えばよいか。俊栄がそのオンチャマである。
- (9) 青森市大字金浜と同市大字高田の中間にかかる、ている橋の名称。
- (10) 「キタズスセア」と言うつもりだったらしい。訳はこれに従った。
- (11) 不明瞭発音。
- (12) 「スマツス」は「あと片付けする」の意で使った。
- (13) 青森市大字ハッ役。牛館とは荒川をはさんだ対岸にある。
- (14) 斎藤俊栄宅をさす。
- (15) 「水が引く」の意。
- (16) 「モ」はほとんど聞こえない。
- (17) 以下の「ノリハンジュスタエナ」を修飾する。「グット」は程度の甚しい様の副詞。定まった訳はなく、今は「まったく」と訳す。
- (18) 「ケニア」の「ケ」は「くれる」。「～てやる」を「～テケル」で表現することが多い。

## 2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

話し手

(略号) (氏名)(性) (生年)

A 井上 嘉十 男 明治35年生まれ

B 小林 弥太郎 男 明治40年生まれ

B ハイ オハヨゴザイマス<sup>(1)</sup>。

はい、お早うございます。

A ハイ オハヨゴザイマス<sup>(2)</sup>。

はい、お早うございます。

B イタケア<sup>(3)</sup>。

居たがぬ。

A エレー ハイージャネーカイ。

すいぶん 早いではないかぬ。

B ンー<sup>(4)</sup>。

うん。

A アー。

ああ。

B オーラーナー アーノー アレサー ネンガハガキナンチューーナー ア  
俺はなあ、あのう あれさあ、年賀葉書などというのは 当  
タル モンジャ ネートモッタラネー (A アー。) オーハラノ<sup>(5)</sup> ス  
たる ものでは ないと思つたらねえ、(A ああ。) 大原の 澄  
ミサンチジヤーサー (A ヘー ヘー。) ニト<sup>(7)</sup> アーノー トーキョー<sup>(7)</sup>  
さんの家ではさあ、(A ヘえ ヘえ。) ニ等、あのう 東京  
一カラ キタ ハガキダッチューケドサ<sup>(8)</sup> (A アー。) デンキドケ  
から 来た 葉書だというけどさあ、(A ああ。) 電気時計  
一ガ ニトーデ<sup>(9)</sup> アタッタッチュンダ<sup>(9)</sup>。  
が ニ等で 当ったというのだよ。

A アーノナルホドネー。ヘー ソリャー マー ランガ イーナー。  
ああ、なるほどねえ。へえ、それはまあ 運がいいなあ。

B オッカイユービンキョクジヤーネー オッカイユービンキョクジヤ  
追員郵便局ではねえ、 追員郵便局ではねえ、  
一ネー<sup>(8)</sup> (A アーノー。) ハジメテダッチューデー。 (A ハハー。) 工  
(A ああ。) 初めてだというよ。 (A ははあ。) た  
ライモンダヨ。 (A ヘーノーカイ。) キレーナ<sup>(9)</sup> トケーダイ。  
いした物だよ。 (A へえ、そがね。) きれいな 時計だよ。

A ヘーノー。 (B アー) マー アスコジヤー ナンダー アーノー ヨメゴ  
へえ。 (B ああ) まあ あそこでは 何だ あのう 嫁を  
一モラッテ マゴガ デキル ソラー マー イーカゲン アノ  
貰って 猿ができる、それはまあ、いい加減 あの  
一ランノ イー シトガ アレダナー マタ デンキドケーナン  
う、運のいい人が あれだなあ、また 電気時計など  
ゾガ アタッチヤー マー ウ<sup>(x)</sup> ランノ イー ウエニ マタ  
が 当っては まあ 運のいい 上に また

アレダチ一 イ一 コッタチ一。  
あれだなあ、いい事だなあ。  
B イ一 コッタイネ一。  
いい事だなあ。  
A ア一。.  
ああ。

### 注

- (1) 呼びかけで、高い調子。
- (2) 応答で、低い調子。
- (3) 発音は、「itakeē」と二重母音的。Aが自宅に居ることを確認したことの発話。Bは、耳よりの話をしにAの家にやってきたのであるから、Aが自宅に居ることは、Bにとって重要である。
- (4) 「そうなんだ。早いには誤があるので。」といった気持をこめて。
- (5) 地名。大字追員の中の小字名。収録地の字追員より四つしもになる。
- (6) 人名。澄雄さんの略称。
- (7) 言いなおし。「二等」当選の原因となる葉書の由来を先に説明しようと考えた。
- (8) 発話が重なったのであらためて言いなおした。
- (9) 平生の発音では、「キレーナ」であるが、こゝでは第2音節「レー」を高め、しかもやゝ引き伸ばして強調表現している。

### 3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 西藤 徳蔵 男 明治37年生まれ

T 武田 松雄 男 大正6年生まれ

T オー イナダ"ガ シッカリ アガッタッチュー ハナシオ キーテ  
おう いなだ"が すいぶん 揚ったという 話を 聞いて  
キタッケン オメー シッテンノカヨー。  
きたけど" あんた 知っているのかよ。

S オラモ イマ キータッケンノ アンデモ サンキョーマ  
私も いま 聞いたけど"ね なんでも 三共丸  
ルガ トッタヨナ ハナシダ"ヨ。  
が 採ったような 話だ"よ。

T オッ ドッヂデ トッテ キタ モンダ"オカナセー。  
おう どこで 採って きた ものだ"ろうかなあ、

S アンデモ シラハマオキーラシーノー。  
なんでも 白浜 沖らしいねえ。

T シラハマメワ ショガ ハヤウテ ナカナカ ムズカシ トンダ"ッ  
白浜前は 潮が 早くて なかなか むずかしい ところだ"  
ケンナー ヨッポド イー トンニ イタダ"ッペナー。  
けれど"ねえ よほど よい ところに いたのだろうねえ。

S アンデモノー シマン ナカラシカンノー シヨモ イッタダッペ  
なんでもね 島の 中らしいからねえ 潮も よかったのだろう  
ヨー。

よ。

T アー ホンデ<sup>(1)</sup> ネバ ナカナカ フケ トンデワ オーネニヤ  
ああ それで なればなかなか 深い ところでは 大根には  
カガラネカンナー。  
掛らないからねえ。

S ホダノー。  
そうだねえ。

T コッデ イクラグレ トッタダッテヨー。  
これで いくらぐらい 採ったのだってよう。

S アンデモ ニセンガングレー トッタヨーナ ハナシダノー。  
なんでも ニ千貫くらい 採ったような 話だねえ。

T ホー タマゲタネー。  
ほう たまげたねえ。

S イマダカラ アッタッペノー。 タイシタ モンダノー。 イクラ  
いまだから あれだらうねえ。 たいした 物だねえ。 いくら  
グレン ナッタダオカノー。  
くらいに なったのだらうかねえ。

T ホッ イライ モンダナセー。 マ ジキモ ジキダカラ コンデ  
ほ、 えらい ものだなあ。 ま 時期も 時期だから これで  
オンダラモ ソロソロ コレデ シタク シテ ミタラ アジョダ  
私たちも そろそろ これで 支度 して みたら どうだろ  
ンベドニカナセー。  
うかなあ。

S アー ソーダノー。 ミンナゲ ソー イッテヤッテヨニ シタク  
あめ そうたこねえ。 みんなに そう いってやつてよう 支度  
シヨカヨー。  
しようかねえ。

T ホー シベンネカナー。  
そう しようかなあ。

### 注

(1) 大根——魚の棲息する大きな根(海底の岩場で、海藻や餌の豊富な場所)。

## 4. 新潟県柏崎市大字折居字餅糰

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 高橋 真 男 大正7年生まれ

B 高橋 辰男 男 大正9年生まれ

A オハヨー ゴザエマス。  
おはよう ございます。

B ハエー。  
はい。

A ドアー シャッタエネ。  
<sup>(1)</sup>  
どう されましたね。

B アー ヤー エマ シゴトカラ キタ ドコダエネ。 オメアサン  
ああ やあ、 今 仕事から 来た ところです。 あんたは  
ナンデアー アノ アワテテ。 ナンカ アッタカエ。  
なんです。 あわてて。 なにか あったかね。

A エヤネー エマ キータンダドモネー ヒカゲ<sup>(2)</sup> オジジガネー  
やあねえ、 今 聞いたのだけれども 日蔭 おじいさんがねえ  
<sup>(3)</sup>  
マムシニ カブツカッタテネ。  
まむしに かみつかれたそ�だ。

B エアーッ ホンネカ。  
ええ、 ほんとうにか。

A ヤー アンダスケアネー アノー アーサ<sup>(4)</sup> ハヨアッカラサ  
やあ それだからねえ あの 朝 早くからさ  
エッテ エリグチノ アノ カドノ<sup>(5)</sup> キンジョダテガンネ カブツ  
行って 入口の あの 角の 近所だ<sup>(6)</sup>といふのに かみつ  
カッタテヤ。 ヨアーエジャ ナカッタコテー。  
かれたそ�だ。 大変だったさ。

B エー ソラ マー タエヘンダノア<sup>(6)</sup>。  
へえ それはまあ 大変だ<sup>(6)</sup>ねえ。

A ダスケアネー。 ア スグ<sup>(7)</sup> マー ビヨアーエン デネケ  
だからねえ。 あ すぐに まあ 病院へ 出なければ(行かなければ)

- ナランダロアガ" ア ハヨア ナオッテ クレヤ エーガ。  
ならないだ"ろうが ああ 早く 治って くれれば" いいが。
- B ダスケアネー工。 マムシテノワ ナカナカ ドクガ アッテ  
だ"からねえ。 まむしといふのは なかなか 毒が あって  
ナオルニクイテ ユンダガネー。  
治りにくいと いうことだ"がねえ。
- A ダスケアネー。 マ ケッセーガ エマノ コンタ"スケ ケッセー  
だ"からねえ。 まあ 血清が、 今の ことだ"から 血清  
ガ アルカラ ダエジョアーブダト オモードモ マー アッタ"ロア  
が あるから 大丈夫だ"と 思うけれども まあ なんだ"ろう  
一 テハエ キット シヤッタロアー。  
手配は きっと されたろう。
- B ンー ソアーダケラ エードモネー。  
うん、 どうなら いいけれどもねえ。
- A イヤ マー グンビヨアーエンモ アル コトダシ ホケンジョモ  
いや、 まあ 郡病院も ある ことだ"し 保健所も  
アルスケ マー ナントカ マニオアータ"ロアーガ ハヨアー  
あるから まあ なんとか 間に合うだ"ろうが 早く  
ナオッテ クレバ。<sup>(8)</sup> ボンメアーダ"ガンネ ヒドエ メニ アウレ、  
治って くれれば" 盆前なのに ひどい 目に 遇われる  
コテノアー。  
よねえ。
- B ソアーダネー。 ソラ マー キノドクダネー。  
そうだ"ねえ。 それは まあ 気の毒だ"ねえ。

## 注

- (1) (シ) ヤッ(タ) 「ヤル」という尊敬の助動詞の連用促音便形。その動作をする人に対する親しみと軽い敬意を表現する。柏崎市の代表的民謡「三階節」の詞章の中に「ヤル」が10例ほどあらわれる。ヤラ・ヤッ・ヤル・ヤル・ヤレ(命令形)のように活用する。ヤルは「御～ヤル」の「御」が脱落し、室町時代に生まれ、後期江戸語にさかんに用いられたといわれるもの。東北地方の岩手・山形までみられる。他の尊敬の言い方との差異については未詳である。昔話中にも出る。
- (2) シカゲ 屋号高橋孝行氏宅。「日蔭」か。
- (3) カブツカッタ 「かぶりつかれた」の変化。かみつかれた意。
- (4) アーサ 長音化している。
- (5) エリグチノカド 「リ」の[r]はかすか。「入口の角」で、公道から個人の宅地に入る曲り角のところを言う。
- (6) タエヘンドノアー [taeendano:] のようにきこえる。
- (7) シヤッタ (1)の「シャッタ」参照。
- (8) クレバ 「クレレバ」の変化。

## 5. 長野県上伊那郡中川村南向

話し手

(略号)

(性)

(生年)

A 尾沢 国蔵 男 明治31年生まれ

B 井沢 賢一 男 明治32年生まれ

A ハー<sup>(1)</sup> テーキ テーキ シンゾー オドッタワ イマ イソイデ<sup>"</sup>  
苦しい，苦しい。心臓が 跳ったよ。今 急いで  
キタラ シンゾー<sup>ガ</sup> オドルワー ホントー アノナ一 サ<sup>ア</sup> アノ  
来たら 心臓が 跳るよ， 本当に。あのなあ  
— サカノウエノナオン<sup>(2)</sup> (B シ) イワオサントコジャナー<sup>(3)</sup>  
坂の上のね， 岩男さんのところではね，  
(B アー) デカイ ヤツ アタリクジガ<sup>ア</sup> アッテナー<sup>(B シ)</sup> エラ  
でかい やつ， 当り籠<sup>ガ</sup> が 当ってね， 大変  
イ コトジャ一 ネー<sup>カ</sup> マー アー ユー フル<sup>(3)</sup> トコニ<sup>(4)</sup> ソ  
な ことでは ないか， ああ いう (財産)ある ところには  
— エ モノ サズカルンダ<sup>ガ</sup> ドーダラ<sup>(5)</sup> ネー トコエワ ナ  
そういう ものが 授かるんだ"が。 どうだろう， ない ところには 何  
シニモ アタリヤー センニ ヨノナカ オモウヨーニ イカン  
にも 当りは ないよ。世の中は 思うように 行かない  
モンダノー  
ものだね。

B シー マー エレー コトガ<sup>(6)</sup> キタモンダ<sup>ナ</sup> マー ソリヤー<sup>一</sup>  
大変な ことが 起きたものだ"なあ， それは  
マー ウン/ イーッチュ シトガ<sup>マ</sup> ドコマデモ ウンガ<sup>ア</sup>  
運の 良いという 人が<sup>、</sup> どこまでも 運が  
イーンダ<sup>ナ</sup> 一  
良い人だ"なあ。

A アル トコエワ ソー ユーヨーニ サズカルンダ<sup>ガ</sup> ビンボーナ<sup>ア</sup>  
ある ところには そ<sup>う</sup> いうように 授かるんだ"が， 貪乏<sup>な</sup>  
(B シ) モナ イツモ ビンボーモチッキリデ<sup>"</sup> (B シーン)  
者は， いつも 貪乏<sup>な</sup> 続きて"

ソー ュー イーメニ アワナンテ<sup>(1)</sup> オシメータ<sup>(2)</sup>ガ コリヤー マ  
そう いう 良い目に 逢わないと お終いたが<sup>(3)</sup> これは ま  
一  
あ…。

B ンーン 杰リヤ マー ヘー ショーネーナー マー ウラヤンデ<sup>(4)</sup>  
それは もう しようがないなあ。 羨んで<sup>(5)</sup>  
ミタ トコロ<sup>(6)</sup> ドーショーモ ネーテナ  
みた ところで どう(ようも) ないからな。

A マー ショーネーノー コイツバッカ<sup>(7)</sup> マー ソノウチニ マタ  
(ようがないね、 こいつばかりは。 そのうちに また  
イー コトモ アルカモ シラン (B ン) エレー<sup>(7)</sup> ウレーマ  
良い ことも あるかも 知れない。 ひびく 羨しがら  
シガランショーニ クラスッチュ コトダ<sup>(7)</sup>ノー<sup>(7)</sup>  
ないように 暮らすという ことだね。

B ン

### 注

- (1) [ha:] と聞えるのでハーとしたが、話し手はアーと言っているつもりかもしれない。
- (2) サカノウエは家号。
- (3) ワルと言っている。アルの言い間違えであろう。
- (4) トコニヤのニヤはよく聞きとれない。トコエワと言っているのかもしれない。
- (5) 推量の -ダラ (-) は比較的新しい表現である。
- (6) [°kita] のようにも聞える。
- (7) エレーの前に言いよどみがある。

## 6. 静岡市南字中村

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 佐藤 吉平 男 大正5年生まれ

C 山本 俊男 男 明治44年生まれ

- C オイオイ キッチャン キッチャン。 アタッタ ヒトガ アルダッ  
おいおい 吉ちゃん 吉ちゃん。 当たった 人が あるんだ  
テサ。  
てさ。
- A ナーニ ナーニ ソンナニ アタッタダッテ。  
何 何に そんなに 当たったんだって。
- C タカラクジンサ。  
宝くじにさ。
- A ホー。  
ほう。
- C ホントダッテダネ。  
本当だ" そうだ"よ。
- A ドコノ ウチダッテ。  
どこの 家だ"って?
- C イヤサー アノー アンマリ イワレナエーケガナ オ  
いや あまり(大きい声で)言われないがな、 アノ

シタノ ウチデサ.

下の 家です。

- A ホー アノヒト ホエジャ タカラクジ カッタリ シタノケー。  
ほう あの人は それでは 宝くじを 買ったり したのかい。
- C ンー ヤマニヤ ヤッパリ ソーユー コトモ アルダナ。  
うん たまには やっぱり そういう ことも あるんだな。
- A ソイデ イクラ アタッタッテ。  
それで いくら 当たったって (いうんだ)。
- C イカエー キンガクダ"デ ンー ニヒヤクーマンバカ イッタダ"ッ  
大きな 金額だよ、 うん 200万 ばかり 行ったんだ  
テサ。  
てさ。
- A ホー タエーシタモンダナ オイ。  
ほう 大したものだな、 おい。
- C ナー ホエデモサ オラモ イッペンバカ ソンナナ メニ アッ  
なあ、 それでもさ 私も 一ぺんぐらい そんな 目に 遇っ  
テミタエーダ"ケガ や オラミタエーナ モナー ナクテサ アル  
てみたいんだが 私みたいな 者は なくてさ、(金が)ある  
ヒトン トケー イクッテユート ムッコーモチデナ。 アル  
人の 所へ 行くというと (金は)他人へ行くんでね。 金  
ヒトン トケーパッカ カネ イッチャウダンデ。  
持の 所へばかり 金が 行ってしまうんだから。
- A ~~~~~ フントカエ。 ~~~~~  
(当たったのは) 本当かえ。
- C フントズラ。 アエダ"ッテモ ミンナ ソノ ナー ムコー /  
本当だろう。 あれだって (その証拠に)みんな 向こうの

オバーサンガ キテサ オラン ウチ一 キテ ナンダ"ヨ アウエー  
おばあさんが 来てさ、 私の 家へ 来て 青い  
カオ シテ キタダ"ヨ。 オラン ウチノ ヤツン アタッタッテ  
顔 して 来たんだよ。 「私の 家のやつが(宝くじに)当たった」と言って  
トンデキタダ"ヨ。  
とんで 来たんだよ。

A ホー タエーシタモンダナー。 ダケド (C ナー) ドーダ"ヤ  
ほう 大したもんた"なあ。 たけど (なー) どうだい  
イッパエー オゴラセルカエー ジャー。  
一杯 おごらせるかなあ じゃあ。

C (笑) オゴッタッテ イーヤナー ソレバッカ。 マー ソン  
おごっても いいやなあ 少しぐらい。 まあ  
ソンナン ワケダンデ キットアン コンヤーサー アノー フタ  
そんな わけだから 吉つあん 今夜  
ーリデ ンー オシカケテミヤ アー ヤツン トケー イッテサ  
二人で おしかけてみよう。 奴の ところへ 行ってさ。  
オゴラセルベア や ヤマニヤ。  
おごらせようよ、 たまには。

A ソーダナー (C ミンナデ イッショニ) コンヤ イッテミル  
そうだ"なあ (みんなで 一緒に) 今夜 行ってみよう  
カ アスベー。  
か 遊びに。

C ンー イマエーマシーヨーダ"ケーガ シヨンネー。 (A ネー)  
うん いまいましいようだ"が 仕方がない。 (ねえ)  
ヒトガ アタッタナンテ。  
他人が 当たったなんて。

- A デモ イージャネーク キンジョデモッテ デモ タタ" モーカル  
 でも いいじゃないか、 近所で でも たた" もうかる  
 ヨーナ タカラクジ アタッタタグライデ" マー デモ エーサ。  
 ような 宝くじが当たったんだという位(に考えておけば)、まあ それでもいいさ。
- C ソリヤ ソーダケーガナー。  
 それは そうだけど なあ。

## 7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
S	鈴木 清光	男	明治27年生まれ
H	鈴木 英雄	男	明治34年生まれ

- S ハイ 「ケッコーナ オテンキデ ゴザイマス ドーモ。  
 はい けっこうな お天気で ございます どうも。
- H ハイ ~~~~~デ ゴザイマス アッ。  
 はい (小声) ございます
- S アッ。 ワシャー イマ トチューデ アノ キーテ キタンダガ。  
 私は 今 途中で あの 聞いて きたんだ"か。

(H ハー) タナベヒロサンノ コドモシューガ ~~ト~~<sup>ト</sup> チーザ  
田辺博さんの 子供が 小さい  
イノガ ヒトリ サンニン ノットッタノガ ヨソノ クレマガ  
のが 一人と 三人 乗っていたのか よその 車が  
ムコーカラ キテ ソリヨー ヨケル チュッテネー (H ハー)  
むこうから きて それを よける といってね  
アノ アクセルダカ フミソコナッテ タニノ ホーエ フンジャッタ  
あの アクセルだか 踏みそこなって 谷の 方へ 踏んでしまった  
モンダデ (H ハー) ブタリノ シトワ <sup>タムイ</sup> ヘーッテ  
ので ニ人の 人は タムに 入って  
ケガシタソーナガ ゾノ シューワ <sup>ツイ</sup> タスカラソーナノ<sup>ネ</sup>  
怪我したそうだが その 衆は つい 助からないそうだね  
— (H ハー) ソノ チーサイノワー クレマカラ ホーリダ  
その 小さいのは 車から 放り出  
サレテ (H アー) ゾレワ タスカラッタッテユーネ。  
されて それは 助かったって いうね。

H ハーハー。

S マー オトマシーコト アッタモンタヌネー ドーモ.  
まあ 可哀想なことが あったもんだね どうも。

H ア一 ドーモ (S ハイ) トンダ ヴケニ ナンダエ (S エー)  
ああ どうも はい とんだ 次第に 何だね  
ア一 キノドクナ コト一 シタ ドーモ。  
気の毒な ことを した どうも。

S ハイ。  
はい。

## 8. 福井県武生市下中津原町

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 下出寅義 男 明治36年生まれ

T 谷口松樹 男 明治32年生まれ

S アー イナハル<sup>(1)</sup>ケノー。

ああ いらっしゃいますかねえ。

T ャッ ヨー オイデ。 ( <sup>s</sup>オオー ) ナンジャ オメ<sup>(2)</sup>。  
やあ よく いらした。 ( うん ) なんだ お前。

S アー マーダ<sup>(3)</sup> オタクニ……。 キータンジャ ウラ ビックリシ  
ああ まだ あなたに……。 聞いたんだ 僕 びっくりして

テ トンデ ホントカト オモテ イマ トンデ キタンニヤケ。  
跳んで 本当かなと 思って 今 跳んで きたんだよ。

T ホエー。 ( <sup>s</sup>笑 ) ドンナ コト アッタンヤ。  
ほう。 どんな こと(が) あったんだ。

S アノノ ( <sup>T</sup>ホ ) トナリノ ( <sup>T</sup>ホ ) アノ ナカムラサンテ<sup>(4)</sup>  
あのね ( ほう ) 隣の ( ほう ) あの 中村さんて  
( <sup>T</sup>オ-) アソコア オメ<sup>(5)</sup> タカラクジ アタッタンヤト。  
( うん ) あそこは お前 宝くじ(が) 当たったんだと。

T ヘー。  
へえ。

- S アタルモ アタルモナイ ウララ <sup>(6)</sup> ソーザー モ デキン イッ  
 当たるも 当たるも(なにも)ない 僕達(が) 想像も できない 一  
 シェンマンエンモ アタッタンヤト。  
 千万円も 当たったんだと。
- T イッシュンマンエン。 <sup>(5)</sup>ウン <sup>(6)</sup>ウン ウラントコノ オメ <sup>(7)</sup>サイサ  
 一千円。 僕の所の お前 財産  
 シンナ ウッタッテ <sup>(8)</sup>笑 トレンジャ オメ <sup>(9)</sup>笑 カス  
 (を)みんな 売ったって 取れないぞ お前 ものす  
 ナ。 <sup>(10)</sup>アーネ <sup>(11)</sup>ウッダッテ ドーンナ シタラ-----。  
 つい。 <sup>(12)</sup>ああ <sup>(13)</sup>いいたい どんな(ふうに)したら……。
- S ホーリヤ ウントニ ナモ ウララモ <sup>(11)</sup>ソノ シエメテ ハンブン  
 それは 本当に そんなもの 僕も その せめて 半分で  
 テ イート オマウンニヤ。  
 いいと 思うんだ。
- T ハンブンテ オメー ホンナモ オメ タマデ オメー。  
 半分なんて お前 そんなもの お前 全然 お前
- S ホシー ホシーナー。  
~~xxxxxx~~ 欲しい 欲しいなあ。
- T ホー。 <sup>(5)</sup>笑 ホシーッテ ナー オメ テードカ <sup>(12)</sup>イコスギテ  
 ほう 欲しいって そんな お前 程度が 大きすぎて  
 オメ (笑) オエ (笑) オ ビックリシテシマウヤ。  
 お前 おい うん びっくりしてしまうよ。
- S ホーヤトコトイヤ。 <sup>(13)</sup>ホヤデ ウラ ビックリシテ マー ンニヤ  
 そうなんだよ。 それで 僕 びっくりして まあ なんだ  
 シラシェニ キタニヤ キョー。  
 知らせに 来たんだ 今日。

T ヒィエー。(<sup>s</sup>笑) ウランテナモンワ マー モー ソンナモン  
へえー。 僕みたいな者は まあ もう そんなもの  
ワ マー トテモオ <sup>(14)</sup> オヨビワ ツカン。 コンニサン <sup>(15)</sup> イッペ  
は まあ とても 及びは つかない。 こんにさん 一度  
オ コンニサンデア ヤレルンジャケ イッペ コーユー テツヅ  
うん こんにさんでは やれるんだから 一度 こういう 手続き  
キ… (<sup>s</sup>イヤー) イヤ <sup>ン!</sup> <sub>xxxxxx</sub> ナカッタモント オモテ オメー<sup>(16)</sup>  
いや いや ながったものと 思って お前  
モッテルノ ヤッテミレ インジャ。<sup>(17)</sup>  
持っているの やってみれ(ば) いいんだ。

S イーや <sup>ソリヤ</sup> <sub>xxxxxx</sub> ソリガ アカンノヤッテ。 カラスマ ウノ マ  
いや それは それが だめなんだって。 鳥は 鶴のま  
ネシテ シンタッチュコト <sup>(18)</sup> アルサケ。  
ねして 死んだ“といふこと(が)” あるから。

T アー ソー力。 ソレモ アルノー。 ンー。  
ああ そうか。 それも あるねえ。 うん。

S アー ソー アノー (<sup>笑</sup>) ホレテ コ ウー コマッタモンジ  
ああ そう あの それで こう ラーン 困ったもんだった  
ヤッテ ソレ。 (<sup>アーアーナー</sup> ああ ああ なあ) <sup>マチガイノー</sup> アタルン  
て それは。 まちがいなく 当たるの  
ナラ マル <sup>シャッキンシテデモ</sup> ヤルケド。  
なら やる 借金しても やるけれど。

T ハハー。 マ ソレモノー。 (<sup>s</sup>笑) ウーン。  
ははあ。 ま それもねえ。 うーん。

S ホレテ<sup>xxxxxx</sup> ホッテ キタンニヤ。 オメア ンマイコトシタ <sup>(^へー)</sup>  
それで それで 来たんだ。 お前 うまいことした

ウマイコト ヤッタ トニカク。  
うまいこと やった とにかく。  
T イヤ ソーレ<sup>(19)</sup> マー ウラヤミシーナ。 (S.T 笑)  
いや それは まあ うらやましいな。

### 注

- (1) イナハルは動詞イルの未然形に尊敬の助動詞ナハルがついた形。
- (2) 当地方言で最もよく用いられる二人称代名詞。ややぞんざいな感じを与える。
- (3) 当地方言で最もよく用いられる一人称代名詞。古くは男女ともに用いられたようだが、最近は女性からはあまり聞かれなくなった。
- (4) ナカムラは、藤木伊一氏（場面「品物を借りる」「新築の祝いを述べる」の話者。方言談話資料(9)参照。）の家の屋号。漢字をあてるとすれば「中村」で、家の場所が村のちょうど真ん中あたりに位置していたための命名と想像される。
- (5) 本来は注の(2)で述べた二人称代名詞であるが、しばしば單に相手の注意を喚起する挿入句として用いられる。こここの例もそれである。
- (6) 注(3)で述べた一人称代名詞ウラの複数形。
- (7) 注(5)のオメと同様單なる挿入句として用いられている。
- (8) 自分の家の財産をみんな売ってもそれだけの金は手に入らないの意。
- (9) 程度の甚しいことを意味する副詞。形容詞的にも用いられる。

カスナ ヨーケノ ヒト (ものすごく たくさんの人)

カスナ ハエー クルマ (ものすごく 速い 車)

カスナ ヒト (ものすごい 人)

- (10) このように聞こえるが意味ははつきりしない。「イッタイ（ジェンタイ）」と言いかけての言い誤りかとも思われる。

- (11) 当地方言では注(6)で述べたような複数をあらわすウララと平行して单数をあらわすウララも用いられる。ここは单数の例。同じ单数のウ

ラとの間に意味上の差異は特に見い出せないが、構文上、あとに助詞がつく場合、あるいはその助詞が省略される時その助詞の意味をも含んでウララの方が用いられやすい傾向があるように思われる。

- (12) イコスキテのイコは「大きい」意の形容詞イケー（イカイ）の連用形、イケ-ヤロー（イカカロー）、イコナル、イカカッタ、イケ-（イカイ）、イケーヒト（イカイヒト）、イカカッタラのように活用する。
- (13) ~トコトイヤは自分の言うことを強調しようとする場合などに用いられる表現。ただし用法的にはかなり限られた表現である。  
ホンナトコ イッタラ アカントコトイヤ  
(危ないから)そんな所へ 行ったら 駄目だっていんだよ)
- (14) [totemō] 独得のゆすりイントネーション。
- (15) コンニは下出氏の家の屋号。先祖の名前「小仁平」に由来するもの。
- (16) 持っている金をもともとなかったものと思、ての意。
- (17) 下出氏に宝くじを買うことを勧めている。
- (18) 実力以上に背伸びをして人の真似をして失敗するという意味のこ<sup>ト</sup>わざであるが、なかなか面白いたとえである。
- (19) [so:fe'wa]
- (20) 話し手は二人ともウラヤマシーでなくウラヤミシーと発音している。

## 9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 東 正弘 男 明治42年生まれ

B 泉谷正彦 男 明治35年生まれ

A オイ イズタニクン。

おい 泉谷君。

B オイ。

おい。

A ドエライ ザイモクガ サガッタチノー シランカ。  
えらく 材木が 下がったってね、 知らないか。

B ホンマカイ。

本当かい。

A イーヤ モー コノ イッシューカングライニ モノスゴー サガ  
いや もう この 一週間位に ものすごく 下が  
ッタラシーワヨー。  
ったらしいわよ。

B イヤー ソラニ サガッタラ コマルノー。シリノシタ ナイヨ  
いや それは 下がったら 困るね。財産(が) 無いよう  
ニ ナルモノ。ソ ショクニンニモ タダチンガ ハラエ  
に なるもの。職人にも 駄賃(が) 払え

ン~~~~。コマレノー。

ない。困るね。

A マー マー ショーバイユーモノワ ジューネンチョージリテノー  
まあ まあ 商売といふものは 十年帳尻でね  
アガッタリ サガッタリジャーシ ココ コミテ デテ イカニヤー  
上がったり 下がったりだし ここ 込みで 出て 行かなければ  
ショーワ ナイケンド イマ ャットル シウ ヨワル ヨワルト  
仕様は 無いけれど 今 やっている 衆は 弱る 弱ると  
モーケンド マー シッカリ ヤラニヤー ショーガ ナイノー。  
思うけれど まあ しっかり やらなければ 仕様が 無いね。

B マー サガル テードニモ ヨルケンド チョット ~~~~~  
まあ 下がる 程度にも よるけれど ちょっと  
サガッタラ ヤリニク ナルノー。  
下がったら やりにくくなるね。

A ウン。 マー ケンド サガッタ コトワ ジジツナンジャワ。  
うん。 まあ けれど 下がった 事は 事実なのだよ。

B ソージャロカ。  
そうだろか。

A ウーン。 サガッタ コトワ ジジツナンジャ。  
うん。 下がった 事は 事実なのだ

B ソリヤー シランジャワヨー。  
それは 知らない(の)だよ。

A マー ケンド ナンジャワ。 アンタモ ソニヨーニ ウンヨー<sup>1</sup>  
まあ けれど なんだ。 あなたも 運良く  
ヨーケーモ モッテ ナーシ。 ショクニンニ ハラエンチューヨー<sup>2</sup>  
余計も 持って 無いし。 職人に 払えないといふような

ナコトワ ナーワヨー。  
事は 無いよ。

B ソリャー アノ ~~~~~ ワカラシノー。マ ハラエンチュ コト  
それは あの 分からないね。ま 払えないという事  
モ ナカローケンド ソガニ サガラレタラ コマルノー. ~~~~~  
も 無からうけれど そんな 下がられたら 困るね。

A マー デモ ワツ ワカイ トキカラ ズット ヤツ ミンナ  
まあ でも 若い 時から ずっと 皆  
モー モー ザイモクワ ザイモクワ ユーテ サワイダモンジャ  
もう もう 材木は 材木は (と) 言って 驚いた“ものた”  
ガ ヤッパリ アガッタリ サガッタリジャワヨ。キズカイナイ  
が やはり 上がったり 下がったりだよ。 気遣い無い  
ワヨ。  
よ。

B ウン マー ソリャー ザイモクノ アガリサガリワ デ ソレデ  
うん まあ それは 材木の 上がり下がりは、で それで  
モーケタリ ソンスルンジャケンドノー (A アー. ~~~~~)  
儲けたり 損するのだ“けれど”ね  
マー サガッテモ ショーウ ナイケンド マ ソリャー コマル  
まあ 下がっても 仕様は 無いけれど ま それは 困る  
ノー。  
ね。

A ソリャー マニ コンタケ サガッタサカイガ モー ヤマデ  
それは まあ これだけ 下がったから、 もう 山で  
クッテ イキヨッテ サガリコンデ イタラ ナンモカモ ナンジャ  
食って 行っていて 下がり込んで 行ったら 何もかも 何だ“ね”

ノー ャッパリ メサキバッカリ ミナ ツイキュースルスカ  
やはり 目先ばかり 皆 追求するから

ヤマモ ナニモ ソンダケ デンヤロークド マー ココデ ヒト  
山も 何も それだけ 出ないだろうけど まあ ここで ひと

ガンバリ シテジャノー マー ンナラ トツカワデ ハダカニ  
がんばり してたゞね まあ そんなら 十津川で 裸に

ナルノモ ザイモクジャシ クラ タテルノモ ザイモクジャシ  
なるのも 材木だし 倉(を) 建てるのも 材木たゞしね

ニ マー ヨノナカ (B ウン. ソージャノー) ツズクマデ  
まあ 世の中 うん. そうたゞね 続くまで

ヤッテ ミマショーライ マー ナンジャノ オタガイガ アン  
やって みましようよ。 まあ 何たゞね お互いか 余

マリ ヒカンセントヨ (B ウン) ソン ツモリデ マ コイデ  
リ 悲観しないでね うん その 心算で ま 潜いで

ミヨーライ。  
みようよ。

B ジャローナー。 サガッタラ ショー ナーケンド。  
だらうね。 下がったら 仕様 無いけれど。

## 10. 鳥取県八頭郡郡家町

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 土井 頼重 男 明治30年生まれ

B 衣笠 光寿 男 明治38年生まれ

A オイ キヌガササン。  
おい 衣笠さん。

B エッ。  
え?

A ナーット サワダクンガ ナント ニワカニ シンタ"タ"ソーデスガ。  
なんと 沢田君が なんと にわかに 死んだのだ"うですが。

B サー チョット チョット キータ トコデスケド ホンニ サワダ  
そう ちょっと 聞いた ところですけど 本当に 沢田  
ノ ムコサンガ シンタ"ッチュコトデ" アノ ウチノ オヤジサン  
の 婿さんが 死んだ"ということで あの 家の おやじさん  
モ ニサンネン アトニ<sup>(1)</sup> シンテ" ソレデモ キノドクニ オモイ  
も ニ、三年 前に 死んで それでも(そのとき) 気の毒に 思い  
ヨッタデ"スケド モー アノ ムコ アレガ タオレタッテ ュー  
ましたけど もう あの 婿… あの人気が 倒れたと いう  
コトニツイテワ アノ ウチワ アト ドースルダ"ロー<sup>(2)</sup>ヤート  
ことについては あの 家は このあと どうするだ"うなあと

オモッテ ホンニ シトノ ウチナガラ オビエタヤーナコッテス  
思って 本当に 人の 家ながら 驚いたようなことです  
ワ。  
わ。

A アーア コマッタモンデスナー アリヤー。マー アンネー<sup>(3)</sup>グ"ラエー<sup>(4)</sup>  
ああ 困ったものですねあ あれは。まあ あの家くらい  
ショーラエーノ イー モノワ ボクラ ナエート オモイヨッタ  
性質の 良い 者は 僕ら 無いと 思っていた  
トコダ"ガ カツジサンノ オヤジサンモ トッテモ ソノ オナゴ  
ところだ"が かつじさんのおやじさんも とても その 女の  
ミタエーナ エー シトデスシナー。  
ような 良い 人ですしねえ。

B エー マー シットデスガ。 (A エー) アンネー<sup>(5)</sup>ノ オヤジサン  
ええ まあ 知っていますよ。 (ええ) あの家の<sup>(6)</sup>おやじさんから(おや  
カラ サワダノ カツジクン ソレカラ ムコモ エー モンデシ  
じさんをはじめ) 沢田の かつじ君 それから 婿も 良い 者 でし  
タシナー。  
たしねえ。

A ソーソー。  
そうそう。

B ソレカラ モー ミンナ エーデスワ アンネーワ。 オバーサンが  
それから もう 皆 良いですよ あの家(の人)は。おばあさんが  
ヨシ (A エー) ソレカラ アンネノ マー イマ オカーサン  
良いし (ええ) それから あの家の 今 お母さん  
デスケド アレモ トテモ イーモンデスケーナー オヤニ ニテ。  
ですけど あの人も とても 良い人ですからねえ 親に 似て。

- A エー トテモ ショーラエーガ エー。ショーラエーガ エーデス。  
ええ とても 性質が 良い。性質が 良いです。
- B ホンニ キノドクナコッタト オモッテ シトノコトノヨーニ  
本当に 気の毒なことだと 思って 他人のことのように  
オモエンデスワ ホンニ。  
思えませんよ 本当に。
- A ドーモ マー アーシテ ケンチクオ シテ マー イチニネンワ  
どうも まあ あのようにして 建築を して まあ 一、二年は  
ダエージナ トキノ フーデスナ (笑いながら) エキノ ウエカ  
大事な 時の ようですね 易の 上  
ラデモ。 (B サー デモ) マー ナンダワ ニサンネンワ  
からも。 (さあ でも) まあ なんですよ 二、三年は  
アーコイコトーノ ナエーノデ ナケリヤニヤ ホントワ ヨー  
こういう(不幸な)ことが無いので 無ければ 本当は 良く  
ナエーチュコトー ューガ<sup>(5)</sup> アリヤ ケンチクチュー マンダ  
ないということを 言われているがあれは 建築中 また“  
スンドラナンダデショー カツジサンガ シンダノワ。  
すんでいなかったでしょう かつじさんが 死んだのは(死んだときは)、
- B ソーデショーヤ。 マンダ<sup>(6)</sup> ズット<sup>(7)</sup> ジョーズー デキアガランウ  
そうでしょう。 また“ 全部 完全に できあがらない  
チダッタデショーヤ。  
うちだったんでしょうね。
- A ハイハイ ドーモ (B エー) ソーラシューニ オモイマス。  
はいはい どうも (ええ) そのように 思います。  
マ イマ ショーショー ザエサンガ アッタッテ ハタラキニン  
まあ 今 少々の 財産が あったって(一家の)働き人

ガ モー ノーナッタラ アワレナモンダケナー。  
ガ もう いなくなったら 哀れなものですからねえ。

B エー ホントーニ ソリヤ ナンデスナー コマッタモンダト  
ええ 本当に それは 何ですねえ 困ったものだ"と  
オモイヨルデスケドー。  
思っているのですけれど。

A エー アー キノドク太ケドモ ドーモ コノコト バッカリワ  
ええ 気の毒だ"けれども どうも このこと ばかりは  
ドーモ シカタガナエー。  
どうも しかたがない。

B エー マー ホントーニ イツ ダレノ ミノウエニ フリカカッ  
ええ まあ 本当に いつ 誰の 身の上に 降りかかる  
テクルカ ワカラシコッテスケーナー コレモ。  
くるか 分からないことですからねえ これも。

A アニア ソーデスーク。  
ああ そうです。

B ホントニ キーテ オドロキマシタワ。  
本当に 聞いて 驚きましたよ。

A ナマー アザナエル ナワノゴトシッチューガ ヨク イッタモンダ。  
まあ(禍福は)あざなえる 繩のご"としというが 良く 言ったものだ"。  
ドーモ エーコト バッカリワ ナエデスナ。  
どうも 良いこと ばかりは 無いですねえ。

B エー マー フシンオ シタ アトニヤ ワリカタ コーユー<sup>(8)</sup>  
ええ まあ 普請を した あとには 割りに こういう(不幸な)  
コトガ (A 笑) クルモンデシテナ (A エー) シモツグロ/  
ことが 来るものでしてね (ああ) 下津黒の

アノ タブチクンノ ウチモ オヤジサンガ フシンオ シテ  
あの たぶち君の 家も おやじさんが 普請を して  
タオレテシマッタダシ。  
(病気で) 倒れてしまつたし。

A ソーソー。

そうそう。

B トシサンガ。

としさんが。

A エーエー

ええええ

B ソレカラ ソーサンモ。  
それから そうさんも。

A ソーサンモ デシタナ。  
そうさんも でしたね。

B エー。 (A エー) フシンオ スル アユフーニ ナッテシマッタ  
ええ。 (ええ) 普請を する(ときに)ああいうふうになってしまったの  
デスケーナー。  
ですからねえ。

A ウッカリ ドーモ デキンコッテスナー。 ヨホド ソリヤー  
うっかり どうも できないことですねえ。 よほど それは  
シンチョーニ シテ カカリヤニヤ。  
慎重に して とりかからねば。

B エー。 マー ホントーニ ソリヤー カミサンテ ユーコトワ  
ええ。まあ 本当に それは 神様と いうことは  
イマゴロ ダレモ アマリ シンジンデスケド ジッサイ マ  
今頃(は) 誰も あまり 信じませんが 実際まあ

コーユー コトガ アッテミルト ホントニ アルモンノヨーナ  
こういう ことが あってみると 本当に あるもののような  
キ キガ スルデスナー。  
気が しますねえ。

- A エー マー ホーイッチュコトワ マー ュー シトワ ユーシ  
ええ まあ 方位といふことは まあ 言う 人は 言うし  
イワン シトモ アルケドモナ ドーモ コノ ホーイ ワレイ  
言わない(信じない)人も いるけれどもね どうも この 方位が 悪い  
ホーイニ ムカッテ シタノワ コトワリュー シテモ ソイツ  
方位に さからって したことは 「ことわり」を しても  
ソノ タットルノ クダイテモ イケンソーデスナ。  
建った家を こわしても いけない(効果がない)んですね。

- B マー ソーユー コトオ (A エー)  
まあ そういう ことを (ええ) 言う 人が あります  
シ ジッサイ コーユー コトガ アッテミルト ホントニ アル  
し 実際 こういう ことが あってみると 本当に ある  
ダローヤート オモーデスタガナー。  
たうなあと 思いますがねえ。

- A ヤー マー アノ メーションニ シテモ ヨケニヤ ナランコッテ  
まあ あの 迷信に しても(悪い方位は)避けなければならぬことです  
スフェーナ (B エー)  
よね (ええ) ダイジナ コッタケナー。  
大事な ことだからねえ。
- B ホントーニ ナンデス。 キノ (A マー デ---) キノドクナ  
本当に 何です。 気の毒な  
コッテス。  
ことです。

A ア。 アー ソーデス。  
ああ そうです。

## 注

- (1) アトニ 前に（時間の進む方向を「前」とみて、それに対して「後に」の意）。用例「二、三年アトニ行ッタコトガアルカ」  
(二、三年前に 行ったことがあるか)
- (2) ドースルダローヤート 「ドースルダローナート」とも聞こえるが、  
話者は「ドースルダローヤート」と言っているつもりの由。
- (3) おびえる 驚く。怖れ驚く。出雲（物類称呼）・駿河（駿国雑志）・静岡県志太郡・奈良県吉野郡十津川・京都府与謝郡・鳥取県八頭郡・岡山県津山・出雲・隠岐。（『全国方言辞典』）  
なお『日本言語地図』第77図「びっくりする（驚く）」（質問文=急にうしろから大きな声をかけられてドキンとすることを、どうすると言いますか。）によれば、オビエルまたはオベルが鳥取県、島根県出雲地方、岡山県北部などに分布する。
- (4) ショーライ 性質。「生来」に由来か。  
しょーらい 性質。たち。「ショーライがよい」新潟県頸城地方・愛媛県喜多郡大州。（『全国方言辞典』）  
用例「アンタノ髪ワ ショーライガ良イ」
- (5) この地方では家を新築すると精神的にも肉体的にも疲れが出て、二、三年以内に家族に倒れる人が多いという言い伝えがある。そういう人が出たときに、「フシンクタビレガ出タ」のように言いあらわす。
- (6) スット 全部、すっかり。
- (7) ジョーズー 完全に、立派に。（共通語の「上手に」と意味的に重なる部分が大きいが、わずかにずれている。）  
用例 「ジョーズニ デキナイ」（未完成である=九分通り完成しているが、こまごましたところが未完成で不体裁な状態を言う。）
- (8) シモツグロ 地名。

- (9) コトワル あやまる。言いわけをして（理由を述べて）あやまる。  
用例 「（人から誤解されたときに）ハヤイコト コトワリシトカン  
ト イケンゼ。」  
ここでは「コトワリュー シテモ」は「神様に祈禱など、やらべき  
ことをやっても」の意。

## 11. 島根県仁多郡横田町大字大馬木

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 勝部 定市 男 明治37年生まれ

B 吉川 幸吉 男 明治35年生まれ

B アー トナリノ オッツァンジャーネーカ。 (A オーイ)  
ああ 隣りの おつあんではないか。 ( おおい )  
ナンゴトガ ハズィマッタカネ。 エラエ シェツイゲナ フースイテ  
何事が はじまつたかね。 大変 苦しい ふう(を)して  
カケツイケテ。  
駆けつけて。

A イヤ コナオマエ<sup>(1)</sup> ヨー オマエ カネエダンノ タワデノ  
いや なんとあんた よう あんた 叶谷の 峰での

(B オー) コナエダ ウツイン ムコーン ワケー モンガ  
おお 先日 私の家の 向うの 若い 者が  
ズィドーサズィコ ヤッテ (B ハー ハー) モー ダンプ/  
自動車事故 やって (はあ はあ) もう ダンプの  
アトエ ツイケテ デチョッタゲナ トコーメガノー (B オー)  
後へ つけて 出ていたそうな ところがね (おお)  
ムコーカラ バスイガ キテ (B ハー) ヘーカラ オマエ  
向うから バスか 来て (はあ) それから あんた  
アンマリ スピードオ ダエテノ (B ハー ハー) ロクズィツ  
あんまり スピードを 出してね (はあ はあ) 六十  
キロモ ダエチョッタゲナダケン (B ハー ハー) アーテ  
キロも 出していたというのだから (はあ はあ) あれで  
ヨキヨーニャ ヨケラレズィノー (B ハー ハー) バスニ  
避けるに 避けられずね (はあ はあ) バスに  
アタリヤー オマエ ソンガイガ ガイターラー (B 笑 ハー)  
当れば あんた 損害が 大きいだろうが (はあ)  
スイカタガナーテ アノ ズイゾーサンノ ムコーデ ケートンダ  
しかたがなくてあの 地蔵さんの 向うで つい 飛んだ  
ゲナワ。  
そうだわ。

B ヤー オジエコトジャッタネー (A (笑いながら) ホホー)  
やあ 恐ろしいことだったねえ (ほほお)

ソイチャー。

そいつは。

A フー ホンデ サンクヮイハンモ マクレテノー タニエ オツィタ  
ふん それで 三回半も ころがってね 谷へ 落ちた

ゲナガノー。

そうだがね。

B アララー マー ノシェテモラーチョラエデ<sup>(3)</sup> ヨカッタナー。  
あらうあ まあ 乗せて貰っていなくて よかったなあ。

A モー スインデモ タラントコーダワナ。  
もう 死んでも 足らないところだわな。

B アリヤリヤー ワケモナ (A ウーン) ズイコ オコエテ  
あれあれ 若い 者は (うん) 事故(を)起して  
エケンダー。  
いけないねえ。

A ウーン ズィドーシャワノー ヤー~~ネ~~ (B アー) メチャメチャ  
うん 自動車はね まったく (ああ) めちゃめちゃ  
ジャッタケナガノー。  
たったということだがねえ。

B アララー。  
あらうあ。

A ソーデモノー (B ハニ) エノツイホダ一 フロータゲナワー  
それでもね (はあ) 命 は 拾ったそうだわ  
(B ハハ一) ホーン。  
(ははあ) ほお。

B マー ホンナラ ソーデモ ダイブン エカッタホーダ。  
まあ それなら それでも だいぶん よかったほうだ。

A マー マー ウンノ エー コタワ アノコワノー。  
まあ まあ 運の よい 子だわ あの子はねえ。

B ハー ハー。 マー ムジヤ ャッチャ一 エケノワー。  
はあ はあ。 まあ 無茶 やっては いけないわ。

A ウーン オジエコトダワ.  
うん 恐ろしい事だわ。

B ア- マー ソリヤー ホンネ。 (A ウーン) ヤレヤレ  
ああ まあ それは ほんとに。 (うん) やれやれ  
オゾ<sup>(5)</sup>オゾー。  
恐ろしい恐ろしい。

### 注

- (1) 「コナ」は代名詞としてコナワ ワルイ ヤツタなど「アイツ」の意。こここの場合は呼びかけに用いている。「コナマエ」といえば「あの人」の意で、この場合は軽蔑の意はない。コナオマエ → コナマエとなったもの。単独の「コナ」という場合は軽蔑の気持が強い。
- (2)(4) 「オゾイ」、これから出た「オゼ」、「恐ろしい」の意で広く出雲地方に分布している。
- (3) 「モラーチョラエテ」の「モラー」はウ音便、「チョ」は「チヨル」でテイル → チヨル。この「チヨル」が五段活用をなし、未然形「チヨラ」に、打消の「イデ(エテ)」のついたもの。
- (5) 「オゾイ」を重ねて、「オゾオゾ」とよく言う。

## 12 愛媛県越智郡伯方町木浦

詠し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 村上寿一 男 明治30年生まれ

B 山岡寅夫 男 明治42年生まれ

B ヤッタ。ヤッター。コンチワー。

やった。やった。今日は!

A シー。オハヨー。

え。お早う。

B エー。コングー(Aオー。)ヒドイコトヤッタデー。  
え。今度は、(おお。)えらいこと(を)やったよ。

A ヤッタ。ヤッター。ホントニー ンマイコトヤッタゲナーネ。  
やった。やった。ほんとうに。うま。こと(を)やったうに。ね。

B ソー ょ。ソー ょ。(Aシー。)コンドノー ナンヨー。千ヨ  
い よ。そ よ。 (しん。) 今度の 行 よ。町長  
一チ。一ニ ナッテカラー ナンジャロー。(Aシー。)マチモ  
い な、こ 何(が)み。 (しん。) 町も

アカルク ナル カモワカラニ。

明るく なら 何も知らない。

A ソー。ソー。ホイドー コンドコンコレテモーコンキフ  
そ。そ。 (2) 今度こそこれでもうこの角風

一ガ カワル ヨ。 ( B ヨー。 ) ヨーイ ト。 ヨーイ ト。

B カ フ ルト オ モー ガ ノー。 ( A シー。 ) シー。  
変わうと もうが ね。 いん。 うん。

A エカツタ一。

۲۸۱

B ヨカッタ。ヨカッタ。

よかうだ。 よかうだ。

A シー。ミンナガ一 チカラ イレッタケン テー。  
しー。みんかー ちから いれたけん てー。

$$B \quad y = \vartheta \cdot \left( A \frac{z - z_0}{z_0} \right) \frac{y - y_0}{z - z_0} \quad \vartheta.$$

A シ / ケー <sup>(3)</sup> ノイデ マー コー ヨ = ナッタゲナー ツー。  
この けいかく それで まあ、 のように、 なったうえで ねえ。

B コンドノ一 ナン ヨー。チヨーチヨーニ ナッテカラ一 ナン  
今度の 行 よ。 明晩に なってから 何  
ヨ。ミシナモ ナン ヨ。ヨロコンドル ヨーナ フージヤ。  
よ。 みなも 何 よ。 嘉んでハラ ような ふうだ。

注

- (1) 昭和52年3月3日におこなわれた伯方町の町長選挙で選出された新町長。

(2) 内燃する実感がこみあけてくるのか、ことはが乱れてくる。

(3) ケー……「け、か（結果）」と言いかけ、「け」だけでとどめ、別の言い方に改めた。

## 13. 高知県南国市岡豊町滝本

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山崎 真男 大正10年生まれ

B 山崎春井 男 明治35年生まれ

A オイ サンキチ オンシャー ケサノ シンヅンオ ミタカ。  
おい 三吉 貴様は 今朝の新聞と 見たか。

B ナンナラヤ。 オラー マンダミ ミチヨ ランガ ナンゾ カー  
何なの。 おれは まだ 見見てないが 何が 変  
ッタ ニュースデモ ヌデチヨ ッタカヤ。  
つた ニュース でも 出でた。

A カーッタモ カーランモ オンシャー ハト オンドロク タメ  
変 たら 変ひない(云々) 貴様 あと おどろく 為  
ゴロー。 イマンダ オンシャー キイタ コトモ ナイヨーナ  
五郎。 いまだ 貴様 聞いたことない 無いような  
ニュースヨヤ。  
ニュースさ。

B マー ソンナニ コーフンセント オチツイテ ハナシテ ミヨヤ  
まあ そんなに 興奮しないで 落ちついて 話して みよ

。

。

A コーフンスナ ユータチ オンシャー コーフンセズニ オレルカ。  
興奮するなど 言つて 貴様 興奮せずに 居れりか。

Aノ オンシャー マルヤマノ サンキチ<sup>ン</sup>ガ オクマン<sup>チヨ</sup>ージ  
あみ 貴様 丸山の 三吉が 億万長者  
ヤニ ナッタト ユー コトヅ。ソンデ オンシャー クミンデ  
ヒ なつたと いう ことぢ。それで 貴様 組 中  
ユーノガ ウエヤ シタエノ オンシャー オーソーノドーヨヤ。  
バ 上や 下への 貴様 大騒 勘さ。

B ソリヤ マタ ヌドー シタ コトナラヤ。  
それば まだ どう した ことないのか。

A アノ サンキチノ オンチサンノ サンタサンヨネヤ。  
あみ 三吉の おじさんの 三太さん<sup>ト</sup>なる。

B ヌー アノ サンタサンガ ヌドーカ シタカヤ。  
うん あみ 三太さんが どうり、したか。

A ヌドーも コーモ アルカヤ。 サンタサンワ オンシモ ニッテ  
どうも こうも あるか。 三太さんは 貴様<sup>(2)</sup> 知って  
ヌル トーリ ベイコク<sup>ン</sup>デ コーヒー サイバイオ ヤリヨッタ  
る となり 米国 で コーヒー 裁培<sup>ミツメイ</sup> して、いた  
ンガ ソノ ジンギ<sup>ン</sup> 一ノガ アタッテ オンシャー オクマン<sup>チヨ</sup>  
バ その 事業 バ 当て 貴様 億万長  
一ノニ = たすきタシノガ。  
者に なつて たとか。

B ヌー。  
うん。

A ソレ<sup>ン</sup>ガ オンシャー キーピョーノデ ポコリ シンデネヤ  
それば 貴様 急病 で 不意に 死んでさ  
。 ヌダレッキ<sup>ン</sup> - ソゾクニンガ オライ<sup>ン</sup> デ アノ マルヤ  
。 誰し 相続人<sup>ノ</sup>が 居なくて あみ 丸山

マノ サンキチ ガ ソーヴクニン= ナ テ サンタサシノ オ  
の 三 吉 が 相 続 人 に なつて 三 太 さ ん の 貴  
ン シヤー ザイサンガ スコトン サンキチニ コロングリコーン  
様 財 産 が 全 部 三 吉 に ころ がり こん  
デ キテネヤ サンキヤー オンシャー オーンガネモニヨヤ  
で 来 て さ 三 吉 は 貴 様 大 金 持 て  
。

,

B ソリヤ ホントーカヤ。  
それは ほんとうか。

A ホントーカ。 ウソカ。 ホントモ ウソモ アルカ。 ケサノ  
ほんとうか。 うそか。 ほんとうも うそも あるか。 今朝の  
シンブンオ ミテ ミヨ。  
新 開 を 見 て みよ。

B ソーカ。 ソレンガ ホントナラ ンダイシタ モンダ ンガ サ  
えうか。 それ が ほんとうなら たいてい ものだ が 三  
ンキヤ メオ マーシヤー センカヤ。  
吉 は 目を まわしては いなさい。

A ソレ ガ オンシャー キー ダイキニ サンキチモ アンガイ  
それ が 貴 様 急 だ から 三 吉 も 案 外  
ケロット ショ ラヤ。  
けろと して から。

B ン キニ マンデ ヒヨー シヨッタ モンガ ポッコリ オ  
うし 昨 日 ま で 日 備 し て いた 者 が 不 意 に 信  
タマンチ 一 節 = ナタト ユータラ ピント コナイローネ  
万 長 者 に なつたと 言 たら ひんと 来 な がら うな

や。

あ。

A オタソガイニ オクト ユー カニヤー ユメニサエ ミタ コト  
おたがいに 債と いう 金は 夢にさえ 見たこと  
ノガ ナイソガ ヒトノ ウント ユーモナ ワカラシ モンデ  
が 無いが 人の運と いう もの[は] わからぬ ものだ  
ヤーネヤ。  
まあ。

B マー ソー シグチオ ユーナヨ。 オタソガイニ イツ シドン  
まち テテ 懲痴を 言うなし。 おたがいに いつ どん  
ナ コーワンガ ンマイコンデ クルカモ ワカラシガ オクマン  
で 好運が 舞へこんで 来りかし わからぬが 債 万  
チョージヤ = ナルヤラモ ワカラシ。 マー キナソガイ マツ  
長者 に なるやうも わからぬ、 まあ 気長に 待つ  
コトヨネー。  
ことよねえ。

A アテニヤー ナランネヤ。 (B, A 笑)  
あてには ならぬなあ。

### 注記

(1) ナラは断定の助動詞「なり」と間違あるか。

(2) コーニー サイバイとつづけて書くことも考え方れる。むしろこの方が妥当か。

## 14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

### 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

- A 平尾忠太郎 男 明治31年生まれ  
B 山崎政右衛門 男 明治30年生まれ

A <sup>(1)</sup> ヨイ オン ナー

よい おる かね。

B ハー。

はい。

A ココン コドミヤ <sup>(2)</sup> ( B アー \_\_\_\_\_ ) ネヤ。 マー ヨンベア  
この 息子は ( ああ ) ねえ。 まあ 昨夜は

アミネヤ イカン トー。

漁には 行かないのかい。

B <sup>(3)</sup> ア イカイタ。

あ 出かけた。

A <sup>(4)</sup> イカイタッテ ャー。

出かけたって ねえ。

B <sup>(5)</sup> ハヨ <sup>(6)</sup> ハッテ コライター。  
早く 急いで 戻ってきた。

A オー。 タケナカドモニヤ ヨンベア テマーノイオノ フトカト  
おう。 竹中たちは 昨夜は 魚の 大きいの  
バ ゴンミャイモ トッテ キタチュー テ マー ココン コドミヤ  
を 5枚も どって 来たと言うのに まあ ここ 息子は

ドーシタ モンジャイロ ニヤー。 リョーノ シミチバ シラ  
どうした ものだろう ねえ。 漁の 仕方を 知ら  
ントヤ ザニニヤ。 マー。  
ないのな よねえ。 まあ。

B サー ゴンミャイモッチャ ソリヤー (A笑) アンマル フト  
さあ 5枚もっては それは あまりに (詰か) 大  
カトン ネヤー。 ドーシテ。  
きすぎる ねえ。 どうして。

A ムラマツムリヤー オッタキュ モン。 ソルガー。  
村松村に おったといふもの。 それか。

B ムラマツムリヤー オッタケン ユータッチャ ソリヤー マーダ  
村松村に おったからと言つたって それは まだ  
キテ ミンバ ワカラン。  
来て みなければ わからない。

A (笑) ソギャン アレ ヒヨーバン バーン。 ソッテン。  
それほどひあれ 評判だよ。 それでも。

B ~~アリヤ~~ <sup>(ア)</sup> アリヤ フト ユートジアルケン フテバカ シェンミ  
あれは 大きく 言うのだから (詰か) 大きいばっかりで  
ツジアルケンカ アルガ ユー コター ワカラン テ。 (A笑)  
大嘘つきだから あれが 言う ことは わからないよ。

## 注記

- (1) 「ヨイ」は、呼びかけことば。
- (2) 当地では、漁に行くことを「アミニ イク」と言う。
- (3) 「イカイタ」は、「イカシタ」の音変化（イ音便）であるか、敬意をほとんど含まない。詫者が、自分の息子について使っていいるのでもそれは明らか。これは、むしろ、ことばつきを、ていねいに言おうとする方向に、本来の尊敬語を利用している現象とも言えよう。(4)、(6)のものも同じ。
- (5) 「ハッテ」は、「急いで」に当る。ここでは、「途中で（やめる）」の意味になる。
- (7) 「シェンミツ」は、1000 or 3つしか、ほんとうのこと言わない。「大嘘つき」の意。



沖縄県那覇市首里

収録・文字化担当者 中松竹雄



- 1 地点名 沖縄県那覇市首里
- 2 タイトル 「あいさつ」「子供の日の玩具市で」「結婚のうわさ話」
- 3 録音年月日 昭和56年5月3日
- 4 録音場所 高宮城氏宅
- 5 話し手

真栄平房敬 (男) 大正10年生まれ

首里の旧家真栄平家に生まれ、父子二代にわたり、旧王族中城御殿につかえる。県立第一中学校・県立師範学校卒業後、市内の各中学校教諭をつとめるかたわら、郷土文化の研究に従事。はえぬきの首里士族、中城御殿に出入りをゆるされ、貴族語に通じる、首里を離れたことがない。発音もはつきりし、首里語らしい特徴をよく体現しておられる。

齒 詮 (男) 大正15年生まれ

琉球最後の国王、尚泰の孫に当る。尚順男爵の嫡子。松山御殿当主。桃原農園社長。沖縄県中小企業団体連合会会長のほか、多くの会社・団体・委員会等の役職をつとめる。宇都宮大学農学部園芸学科に学ぶほかは、ほとんど首里の地を離れたことがない。首里貴族語の話者としての第一人者。日常の生活語の中で貴族語を用いるのはもとより、公共の場・集会・講演会・演舌会場などにおいても、流暢な貴族語を話す。英明で人望も厚い。

高宮城恵子 (女) 大正4年生まれ

尚泰王の孫娘に当る。尚順男爵の娘。尚詮氏の姉。松山御殿で生育の後、結婚後は首里当蔵町に居住。音量が大きく、由緒正しい首里貴族語の伝承者の一人。

知名 茂子 (女) 大正6年生まれ

尚泰王の孫娘に当る。尚順男爵の娘。尚詮氏の次姉。松山御殿で生育の後、結婚後は同じ町内に居住。知性的で記憶力にすぐれ、はざれの良い貴族語を話す。

## 6 録音環境

良好なり。閑静な首里の城下町。

首里方言談話資料の作成に協力してくださった尚詮様・高宮城恵子様・知名茂子様は旧貴族の出身であり、いわゆる首里貴族語の話者である。真栄平房敬様は旧士族の出身であるが、中城御殿の要人として父子二代にわたって出入りがゆるされ、貴族語の環境の中で生育された方であり、首里貴族語の話者としては、私の知るかぎり、最もすぐれた伝承者の一人であると認められる。よって、ここでは、四者がチームをつくり、それぞれの場面を首里貴族語として不自然にならないように、最大の考慮をはらいつつ、設定し、実演していただいた。

貴族語の談話を、このような形で実現できたのは、四氏の琉球文化保存に対する熱意のたまものであり、この方々をおいて、ほかには、不可能である。

その意味で、この談話資料は、首里貴族語についての唯一無二のものである。

## 7 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては、『方言談話資料(6)』を参照。

## 5. あいさつ

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 真栄平房敬 男 大正10年生まれ

B 尚 詮 男 大正15年生まれ

A jusirijabitan<sup>(1)</sup>  
ごめんください。

B tse:saja: ?ire:  
おや お入り。

A ?u: sidu:ga<sup>(2)</sup> ?adzidzanasi:me: ?uhadzimi  
はい。ありがとうございます。 御主人様 はじめ  
gusu:jo: ?ubukundzansi: ?ujanse:bi:ti:  
御皆様 お健やかに あられましたか。

B ?i: ?itta:N<sup>(5)</sup> ?ukura:sa so:ti:  
うん。君たちも 達者であったかね。

A ?u: sidu:ga<sup>(3)</sup> nage: nuntsi ?ugami:gan  
はい。ありがとうございます。永く 御気嫌うかがいにも  
jusiriju:sabiran ?usuri ?ittso:ibi:N  
参上することができます。 恐縮いたしております。

B ?n: nna ?itsunasa sukujuja: ?i<sup>(7)</sup> ina: ku:jo:  
んー みんな 忙しくしているからね。 たまには いらっしゃいな。

A  $Iu^{(8)}$  sidu:ga  $\bar{u}$ :  
はい。ありがとうございます。

## 注

- (1) あいさつ語。
- (2) あいさつ語。
- (3) あいさつ語。目下から目上に対して用いる。
- (4) [ $padzidzana\dot{s}i:me:$ ] の語源は、[ $padzi$ ] <按司>領主の意。本土の大名に相当するか。[- $dzana\dot{s}i:$ ] は [ $kana\dot{s}i:$ ] の有声化した語形「加那志」を当てるが、美称の接尾辞。[ $me:$ ] は「御前」などの [ $mae$ ] から音韻変化したもの。 $ae > e:$  と変化する（二重母音の長母音化現象）美称や敬意の接尾辞。転じて、貴族階級の主人の意に用いられる。
- (5)(7) 応答語。目上の者から目下の者に対して用いられる。
- (6) [ $pitta:$ ] 君たち。二人称複数代名詞。同輩以下の者に対して用いられる。
- (8) 応答語。目下の者から目上の者に対して用いられる。

## 6. 子供の日の玩具市で

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 真栄平房敬 男 大正10年生まれ

B 知名 茂子 女 大正6年生まれ

C 尚 詮 男 大正15年生まれ

A 2utse:ŋse:biti:<sup>(1)</sup>  
いらっしゃいませ。

B tsu:ja jukkanu<sup>(2)</sup> nditsi <sup>(3)</sup> 2umingwanume:  
今日は 子供の日 と言って お坊っちゃんを  
2utumu 2ugadi tʃo:n̩de:  
お供して きましたよ。

A nu: 2usagijabi:gaja:  
何を さし上げましようかね。

C 2ana: 2anu 2uttsirikubusa: ko:igaja:  
下女よ。あの 張り子のダルマを 買うかね。

B tʃintsim2mmagwa:du 2umasj ja:j:sabirani  
チンチンお馬が よいのではないでしょうか。

A dʒiro: 2umasj jamise:bi:gaja: 2umingwanume:ja  
どれが よろしいのでしょうか。 お坊っちゃんは

?wi:kutſi ?unayſe:bi:ga  
おいくつに なられますか。

B ?umi:tſi ?ujanse:nde:  
御三歳に なられますよ。

A ?ayſe: tſintſim?mmagwa:du ?umasi ?ujanje:  
それでは チンチンお馬か いいのでは  
sabirani ?umingwanune: sa:ri kuri  
ありませんか。 お坊っちゃん！ これを  
?usagijabirana  
さし上げましょうか。

C ?i: ?urijatig ſimusa  
はい、それでも いいよ。

### 注

- (1) あいさつ語。尊敬語。貴族・士族に対して用いられる。いらっしゃい。  
(2) [jukkanu重i:] <四日の日> 旧暦5月4日。子供の日。男子はこの日、首里那霸の子供は玩具市(首里は龍潭池畔で)(那霸は久米町の孔子廟の周辺で)に出かけ、張り子の玩具を買ってもらい、楽しむ行事が戦前まであった。

玩具には、「チンチン馬」、「シシ舞い」、「闘鶏」、「闘牛」、「ジュリ馬人形」、「按司」、「猿」、「鳩」や面[ha:tſibura:]凧[taku]手まり[ma:i]ソテツの実で作た笛・鈴などのおもちゃ、カジマヤー(風車)、竹トンボ、など多種多様である。

- (3) [?umingwa] お坊っちゃん。お嬢ちゃん。他人の子供に敬意を表して用いる尊敬語。[nu]は格助詞「の」。[-me:]は敬意の接尾辞。  
(4) [?ana:] 乳母や女中、下女の意。高貴な家につかえる女の意。

## 7. 結婚のうわさ話

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 高宮城恵子 女 大正4年生まれ

B 知名 茂子 女 大正6年生まれ

A bitsikaidu Putse:ŋse:bi:rui<sup>(1)</sup>  
お出かけでござりますか。

B Zu: gusu:jo: Zubukku<sub>x</sub> Zubukura:sa Zujayse:-  
はい。皆様は お元気で いらっしゃい  
bi:mi  
ますか。

A mi:Zudunnu<sup>(2)</sup> to:to:gwa:ja<sup>(3)</sup> kunuPutsi gukunri:  
新御殿の 御嬢様は 近々 御婚禮  
mife:bi:ndija:  
なさいますそうですね。

B Zu: Zaj Zujayse:bi:ndi  
はい。そう た"と"いうことですね。

A ma:nu Zuhanjumi namise:bi:gaja:  
どこの 御花嫁に なられますか。

B tamagusikuZudunnu<sup>(4)</sup> gudzinannu ?we:jumi  
玉城御殿の 御次男の 花嫁に

Zunayse:bi:ndi  
なられるそうです。

A gudzinano: Zwi:kutsi Zunayse:bi:gaja:  
御次男は おいくつに なられるのでしょうか。

B Zunindzu:sitsi Zujayse:bi:ndi mi:zuduntsa:gi  
御二十七歳に なられるようです。 体格も  
Zutsati suguri Zumingwa Zujayse:bi:ndi  
ご立派で 優れた 御子様 であられるようです。

A ji: gujin Zujayse:bi:saja:  
良縁で ござりますね。

B Zay Zujayse:bi:yja:  
そうでござりますね。

### 注

- (1) あいさつ語。今日は、正式なあいさつ言葉。最近よく使用されているあいさつ語に [ma:kaiga] <どこにか>というのがあるが、それはあやまつた用法というか、野卑な表現であって、あいさつ語としては普及してほしくない。
- (2) [mi:zudun] <新御殿> 松山御殿から分家した新しい御殿であることから、この名がある。当主は尚静子様である。
- (3) [to:to:gwa:] 上層階級の娘。お嬢様。
- (4) [tamagusiku-zudun] 玉城御殿。近世、琉球において、総地頭中の王子地頭および按司地頭の邸宅を「御殿」と敬称した。玉城は「たまぐすく」と表記し [tamagusiku] といい、沖縄を代表する氏姓の一つ。  
玉城御殿は首里区赤平町に所在した。名門の一つ。

## 販 売 価 格

	16%カラー	VTRカラー(¾インチ)	VTRカラー(½インチ)
全巻セット	¥ 720,000	¥ 480,000	¥ 384,000
各ユニット	¥ 112,500	¥ 75,000	¥ 60,000
各 卷	¥ 30,000	¥ 20,000	¥ 16,000

第一巻～第3巻は文化庁との共同企画

\*については日本語教育映画解説の冊子がある。

## 日本語教育映画 関連教材・資料（（株）ビスコ販売）

日本語教育映画 基礎編 教師用マニュアル（全6分冊）	各分冊	1,000円
日本語教育映画 基礎編 練習帳	（全6分冊）	〃 500円
日本語教育映画 基礎編 シナリオ集	（全1冊）	1,000円
日本語教育映画 基礎編 総合語彙表	（全1冊）	1,500円
日本語教育映画 基礎編 総合文型表	（全1冊）	1,500円
映像教材による教育の現状と可能性	（全1冊）	
日本語教育映画ワークショップ報告	日本シネセル社刊	2,500円

## 日本語教育映画教材中級編一覧

（各巻ビデオおよび16ミリカラー、約5分、日本シネセル社販売）

セグメント	題名	制作年度（昭和）
ユニット1	初めて会う人と 一紹介・あいさつ	
1	自己紹介をする 一会社の歓迎会で一	61
2	人を紹介する 一訪問先の応接室で一	61
3	友人に会う 一喫茶店で一	61
4	面会の約束をする 一電話で一	61
5	道を聞く 一交番で一	61
6	会社を訪問する 一受付と応接室で一	61

## 販 売 価 格

	16%カラー	VTRカラー(¾インチ)	VTRカラー(½インチ)
各ユニット	¥ 157,500	¥ 90,000	¥ 70,000
各セグメント	¥ 35,000	¥ 35,000	¥ 28,000

## 日本語教育映画基礎編一覧

(各巻ビデオおよび16ミリカラー、5分～8分、日本シネセル社販売)

卷	題　　名	制作年度（昭和）
ユニット 1		
1*	これは　かえるです　—「こそあど」+「は～です」—	49
2*	さいふは　どこに　ありますか　—「こそあど」+「～がある」—	49
3*	やさくないです、たかいです　—形容詞—	49
4*	きりんは　どこにいますか　—「いる」「ある」—	51
5*	なにを　しましたか　—動詞—	50
ユニット 2		
6*	しづかな　こうえんで　—形容動詞—	50
7*	さあ、かぞえましょう　—助数詞—	50
8*	どちらが　すきですか　—比較・程度の表現—	52
9*	かまくらを　あるきます　—移動の表現—	51
10*	もみじが　とても　きれいでした　—です、でした、でしょう—	52
ユニット 3		
11*	きょうは　あめが　ふっています　—して、している、していた—	52
12*	そうじは　してありますか　—してある、しておく、してしまう—	53
13*	おみまいに　いきませんか　—依頼・勧誘の表現—	53
14*	なみのおとが　きこえてきます　—「いく」「くる」—	53
15*	うつくしい　さらに　なりました　—「なる」「する」—	50
ユニット 4		
16*	みずうみのえを　かいたことが　ありますか　—経験・予定の表現—	54
17*	あのいわまで　およげますか　—可能の表現—	54
18*	よみせを　みに　いきたいです　—意志・希望の表現—	54
19*	てんきが　いいから　さんぽを　しましょう　—原因・理由の表現—	55
20*	さくらが　きれいだそうです　—伝聞・様態の表現—	55
ユニット 5		
21*	おかげを　みに　いっても　いいですか　—許可・禁止の表現—	56
22*	あそこに　のばれば　うみがみえます　—条件の表現1—	56
23*	いえが　たくさんあるのに　とてもしらずかです　—条件の表現2—	56
24*	おかねを　とられました　—受身の表現1—	51
25*	あめに　ふられて　こまりました　—受身の表現2—	55
ユニット 6		
26	このきっぷを　あげます　—やり・もらいの表現1—	57
27	にもつを　もって　もらいました　—やり・もらいの表現2—	57
28	てつだいを　させました　—使役の表現—	57
29*	よく　いらっしゃいました　—待遇表現1—	58
30*	せんせいを　おたずねします　—待遇表現2—	58

10	昭和33年度	品切れ	20	昭和43年度	品切れ	30	昭和53年版	800円
11	昭和34年度	"	21	昭和44年度	"	31	昭和54年版	1,200円
12	昭和35年度	"	22	昭和45年度	"	32	昭和55年版	1,300円
13	昭和36年度	"	23	昭和46年度	450円	33	昭和56年版	1,300円
14	昭和37年度	"	24	昭和47年度	品切れ	34	昭和57年版	2,000円
15	昭和38年度	250円	25	昭和48年度	"	35	昭和58年版	2,200円
16	昭和39年度	品切れ	26	昭和49年度	"	36	昭和59年版	2,700円
17	昭和40年度	"	27	昭和50年度	700円	37	昭和60年版	2,700円
18	昭和41年度	300円	28	昭和51年度	非売品			
19	昭和42年度	300円	29	昭和52年度	"			

#### 国語年鑑 秀英出版刊

昭和29年版	品切れ	昭和40年版	品切れ	昭和51年版	4,000円
昭和30年版	"	昭和41年版	"	昭和52年版	品切れ
昭和31年版	"	昭和42年版	"	昭和53年版	"
昭和32年版	"	昭和43年版	"	昭和54年版	"
昭和33年版	"	昭和44年版	"	昭和55年版	"
昭和34年版	"	昭和45年版	"	昭和56年版	"
昭和35年版	"	昭和46年版	2,000円	昭和57年版	5,500円
昭和36年版	"	昭和47年版	2,200円	昭和58年版	5,500円
昭和37年版	"	昭和48年版	品切れ	昭和59年版	5,800円
昭和38年版	"	昭和49年版	3,800円	昭和60年版	5,800円
昭和39年版	"	昭和50年版	品切れ	昭和61年版	7,800円

---

高 校 生 と 新 聞	国立国語研究所 日本新聞協会共編	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 国立国語研究所共著	金沢書店刊	品切れ
国立国語研究所三十年のあゆみ	—研究業績の紹介—	秀英出版刊	1,500円

---

#### 日本語教育教材

1	日本語と日本語教育	国立国語研究所 —発音・表現編—	化 序 共編	大蔵省印刷局刊	700円
2	日本語と日本語教育	—文字・表現編—		"	850円
3	日本語の文法(上)	—日本語教育指導参考書4—		"	450円
4	日本語の文法(下)	"	5—	"	550円
5	日本語教育の評価法	"	6—	"	700円
6	中・上級の教授法	"	7—	"	500円
7	日本語の指示詞	"	8—	"	500円
8	日本語教育基本語彙比較対照表	"	9—	"	1,000円
9	日本語教育参考文献一覧	"	10—	"	1,400円
10	談話の研究と教育 I	"	11—	"	550円
11	語彙の研究と教育(上)	"	12—	"	600円
12	語彙の研究と教育(下)	"	13—	"	700円

5	沖縄語辞典	大蔵省印刷局刊	4,300円
6	分類語彙表	秀英出版刊	1,800円
7	動詞・形容詞問題語用例集	"	1,700円
8	現代新聞の漢字調査(中間報告)	"	品切れ
9	牛店雑談 安愚樂鍋用語索引	"	1,500円
10	方言談話資料(1)——山形・群馬・長野——	"	6,000円
10-2	方言談話資料(2)——奈良・高知・長崎——	"	6,000円
10-3	方言談話資料(3)——青森・新潟・愛知——	"	6,000円
10-4	方言談話資料(4)——福井・京都・島根——	"	6,000円
10-5	方言談話資料(5)——岩手・宮城・千葉・静岡——	"	6,000円
10-6	方言談話資料(6)——鳥取・愛媛・宮崎・沖縄——	"	6,000円
10-7	方言談話資料(7)——老年層と若年層との会話—— 青森・岩手・新潟・千葉・静岡・長野・愛知・福井	"	6,000円
10-8	方言談話資料(8)——老年層と若年層との会話—— 群馬・奈良・鳥取・島根・愛媛・高知・長崎・沖縄	"	6,000円
10-9	方言談話資料(9)——場面設定の対話——	"	6,000円
11	日本言語地図語形索引	大蔵省印刷局刊	1,500円

#### 国立国語研究所国語辞典編集資料

1	国定読本用語総覧 1 第1期(あ~ん) 『尋常小学読本』明治37年度以降使用	三省堂刊	25,000円
2	国定読本用語総覧 2 第2期(あ~て) 『尋常小学読本』明治42年度以降使用	"	28,000円

#### 言語処理データ集

1	高校教科書——文脈付き用語索引——	日本マイクロ写真	35,000円
---	-------------------	----------	---------

#### 国立国語研究所研究部資料

1	幼児のことば資料(1)——2歳・3歳誕生日のことばの記録——	秀英出版刊	3,800円
1-2	幼児のことば資料(2)——4歳誕生日のことばの記録——	"	3,800円
1-3	幼児のことば資料(3)——1歳児のことばの記録——	"	6,000円
1-4	幼児のことば資料(4)——2歳児のことばの記録——	"	6,000円
1-5	幼児のことば資料(5)——3歳前半のことばの記録——	"	6,000円
1-6	幼児のことば資料(6)——3歳後半のことばの記録——	"	6,000円

#### 国立国語研究所論集

1	ことばの研究	秀英出版刊	品切れ
2	ことばの研究 第2集	"	"
3	ことばの研究 第3集	"	"
4	ことばの研究 第4集	"	"
5	ことばの研究 第5集	"	1,300円

#### 国立国語研究所年報 秀英出版刊

1	昭和24年度 品切れ	4 昭和27年度 160円	7 昭和30年度 品切れ
2	昭和25年度 "	5 昭和28年度 品切れ	8 昭和31年度 "
3	昭和26年度 "	6 昭和29年度 "	9 昭和32年度 "

59	電子計算機による国語研究(Ⅷ)	秀英出版刊	1,300円
60	X線映画資料による母音の発音の研究 —フォネーム研究序説—	"	2,500円
61	電子計算機による国語研究(Ⅸ)	"	品切れ
62	研究報告集(1)	"	1,700円
63	児童の表現力と作文	東京書籍刊	6,000円
64	各地方言親族語彙の言語社会学的研究(1)	秀英出版刊	2,000円
65	研究報告集(2)	"	3,000円
66	幼児の語彙能力	東京書籍刊	8,000円
67	電子計算機による国語研究(Ⅹ)	秀英出版刊	1,500円
68	専門語の諸問題	"	4,000円
69	幼児・児童の連想語彙表	東京書籍刊	6,800円
70-1	大都市の言語生活(分析編)	三省堂刊	7,800円
70-2	大都市の言語生活(資料編)	"	12,000円
71	研究報告集(3)	秀英出版刊	4,800円
72	幼児・児童の概念形成と言語	東京書籍刊	6,800円
73	企業の中の敬語	三省堂刊	9,500円
74	研究報告集(4)	秀英出版刊	4,200円
75	現代表記のゆれ	"	品切れ
76	高校教科書の語彙調査	"	5,000円
77	敬語と敬語意識 —岡崎における20年前との比較—	三省堂刊	8,000円
78	日本語教育のための基本語彙調査	秀英出版刊	6,000円
79	研究報告集(5)	"	4,200円
80	言語行動における日独比較	三省堂刊	8,000円
81	高校教科書の語彙調査(2)	秀英出版刊	5,000円
82	現代日本語動詞のアスペクトとテンス	"	5,000円
83	研究報告集(6)	"	4,200円
84	方言の諸相 —『日本言語地図』検証調査報告—	三省堂刊	9,800円
85	研究報告集(7)	秀英出版刊	4,000円
86	社会変化と敬語行動の標準	"	9,000円
87	中学校教科書の語彙調査	"	5,000円
88	日独仏西基本語彙対照表	"	8,500円
89	雑誌用語の変遷	"	7,000円
90	研究報告集(8)	"	3,000円
91	中学校教科書の語彙調査II	"	5,000円
92	談話行動の諸相 —座談資料の分析—	三省堂刊	2,800円

#### 国立国語研究所資料集

1	国語関係刊行書目(昭和17~24年)	秀英出版刊	品切れ
2	語彙調査 —現代新聞用語の一例—	"	"
3	送り仮名法資料集	"	"
4	明治以降国語学関係刊行書目	"	"

30-3	日本言語地図(3)	大蔵省印刷局刊	品切れ
	日本言語地図(3)〈縮刷版〉	"	17,000円
30-4	日本言語地図(4)	"	品切れ
	日本言語地図(4)〈縮刷版〉	"	17,000円
30-5	日本言語地図(5)	"	品切れ
	日本言語地図(5)〈縮刷版〉	"	17,000円
30-6	日本言語地図(6)	"	品切れ
	日本言語地図(6)〈縮刷版〉	"	17,000円
31	電子計算機による国語研究	秀英出版刊	品切れ
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) ——親族語彙と社会構造——	"	"
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	"	350円
34	電子計算機による国語研究(II) ——新聞の用語用字調査の処理組織——	"	品切れ
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) ——マキ・マケと親族呼称——	"	"
36	中学生の漢字習得に関する研究	"	"
37	電子計算機による新聞の語彙調査	"	"
38	電子計算機による新聞の語彙調査(II)	"	"
39	電子計算機による国語研究(III)	"	"
40	送りがな意識の調査	"	1,500円
41	待遇表現の実態 ——松江24時間調査資料から——	"	品切れ
42	電子計算機による新聞の語彙調査(III)	"	1,200円
43	動詞の意味・用法の記述的研究	"	6,000円
44	形容詞の意味・用法の記述的研究	"	4,000円
45	幼児の読み書き能力	東京書籍刊	4,500円
46	電子計算機による国語研究(IV)	秀英出版刊	700円
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3) ——性向語彙と価値観——	"	700円
48	電子計算機による新聞の語彙調査(IV)	"	3,000円
49	電子計算機による国語研究(V)	"	900円
50	幼児の文構造の発達 ——3歳~6歳児の場合——	"	品切れ
51	電子計算機による国語研究(VI)	"	1,000円
52	地域社会の言語生活 ——鶴岡における20年前との比較——	"	1,800円
53	言語使用の変遷(1) ——福島県北部地域の面接調査——	"	2,500円
54	電子計算機による国語研究(VII)	"	1,000円
55	幼児語の形態論的な分析 ——動詞・形容詞・述語名詞——	"	品切れ
56	現代新聞の漢字	"	6,000円
57	比喩表現の理論と分類	"	6,000円
58	幼児の文法能力	東京書籍刊	5,500円

## 国立国語研究所刊行書一覧

### 国立国語研究所報告

1	八丈島の言語調査	秀英出版刊	品切れ
2	言語生活の実態 —白河市および付近の農村における—	"	"
3	現代語の助詞・助動詞 —用法と実例—	"	2,000円
4	婦人雑誌の用語 —現代語の語彙調査—	"	品切れ
5	地域社会の言語生活 —鶴岡における実態調査—	"	"
6	少年と新聞 —小学生・中学生の新聞への接近と理解—	"	"
7	入門期の言語能力	"	"
8	談話語の実態	"	"
9	読みの実験的研究 —音読にあらわれた読みあやまりの分析—	"	"
10	低学年の読み書き能力	"	"
11	敬語と敬意意識	"	"
12	総合雑誌の用語(前編) —現代語の語彙調査—	"	"
13	総合雑誌の用語(後編) —現代語の語彙調査—	"	"
14	中学年の読み書き能力	"	"
15	明治初期の新聞の用語	"	"
16	日本方言の記述的研究	明治書院刊	"
17	高学年の読み書き能力	秀英出版刊	"
18	話しことばの文型(1) —対話資料による研究—	"	2,000円
19	総合雑誌の用字	"	品切れ
20	同音語の研究	"	"
21	現代雑誌九十種の用語用字(1) —総記および語彙表—	"	3,000円
22	現代雑誌九十種の用語用字(2) —漢字表—	"	3,000円
23	話しことばの文型(2) —独話資料による研究—	"	2,000円
24	横組みの字型に関する研究	"	品切れ
25	現代雑誌九十種の用語用字(3) —分析—	"	3,000円
26	小学生の言語能力の発達	明治図書刊	品切れ
27	共通語化の過程 —北海道における親子三代のことば—	秀英出版刊	"
28	類義語の研究	"	"
29	戦後の国民各層の文字生活	"	400円
30-1	日本言語地図(1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
	日本言語地図(1) <縮刷版>	"	17,000円
30-2	日本言語地図(2)	"	品切れ
	日本言語地図(2) <縮刷版>	"	17,000円

昭和62年 6月

国 立 国 語 研 究 所

〒115 東京都北区西が丘3丁目9番14号  
電 話 東京(900) 3111(代表)

UDC 809.56-087

NDC 818

本書の市販品発行所

[〒162] 東京都新宿区納戸町40 (03-260-5281)  
株式会社 秀英出版

NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE PUBLICATION  
SOURCE X-X

TEXTS OF TAPE-RECORDED CONVERSATIONS  
IN JAPANESE DIALECTS

(Volume 10)

DIALOGUES IN SET UP SCENARIOS

CONTENTS

**Foreword**

**Purpose and Outline**

**Text**

Part 5 ; "Where is your husband?"

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,  
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,  
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,  
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

Part 6 ; Small talk between two women

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,  
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,  
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,  
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

Part 7 ; A chat between two men belonging to different social classes

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,  
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,  
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,  
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

Part 8 ; Gossiping

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,  
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,  
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,  
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

**OKINAWA PREFECTURE**

Greetings, Buying at the toy market, Gossip about a marriage

**THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE  
TOKYO JAPAN**